

ハンセン病問題に関するインターネット調査 (教員対象)

2026年2月

公益社団法人日本広報協会

目次

調査概要	P3
調査項目	P4
回答者プロフィール	P5～
単純集計(GT)結果	P12～
クロス集計結果	P36～
FA傾向まとめ	P82～

調査概要

調査目的	ハンセン病問題に関する小・中学校における教育について、教員の実施経験等の実態や、教員自身のハンセン病問題に関する学習経験、知識、意識などを把握し、今後の教育・啓発施策を検討するための基礎データを得る。
調査課題	<ul style="list-style-type: none">① 小・中学校の教育現場における人権教育の取り組みおよびハンセン病問題に関する授業等の実態を把握する② 教員自身のハンセン病問題やハンセン病元患者等に関する認識・意識等を聴取し、教育・学習経験や接触（認知）経験、関与（行動）経験との相関性を分析する③ ハンセン病問題に関して「知識度が高い層」に対し、何がその要因になったのかを把握する④ ハンセン病問題をはじめとする人権に係る偏見・差別を解消するための方策や、学校での人権教育を充実させるための方策を聴取する⑤ 人権教育およびハンセン病問題の人権教育における課題とニーズを把握する⑥ ハンセン病資料館のウェブサイトを読覧してもらい、資料館そのものの認知を広めるとともに、より効果的な情報発信方法や、資料館の充実に向けた意見を聴取する
調査手法	ネットリサーチ
対象者条件	【性別】 男性、女性 【年齢】 20代～60代以上 【地域】 全国
回収数	本調査：1,000サンプル
割付	なし
調査期間	2025年11月7日(金)～11月13日(木)
調査機関	調査設計・分析：公益社団法人日本広報協会 ネット調査：株式会社ネオマーケティング

調査項目

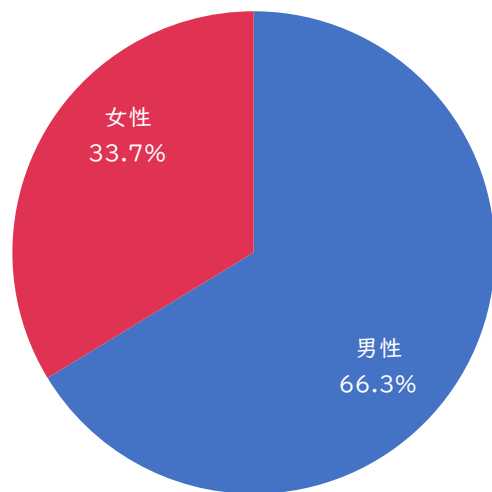
Q1 現在、教員をしている学校	SA	勤務先等(属性)に関する項目
Q2 勤務先の学校の所在地	SA	
Q3 担任する学級の有無	SA	
Q4 専門教科	SA	
Q5 人権教育担当者向けの研修受講経験	SA	教育現場における人権教育・ハンセン病問題教育の実態把握に関する項目
Q6 人権教育に関する組織的な取り組み状況	MA	
Q7 人権教育実施後の目標の達成度の把握方法	MA	
Q8 授業等で取り上げたことのある人権問題	MA	
Q9-1 ハンセン病問題のことを教えた授業科目	MA	
Q9-2 ハンセン病問題の教え方	MA	
Q10 中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見た経験	SA	
Q11 ハンセン病問題の授業での「目標」「ねらい」	MA	
Q12 ハンセン病問題の授業で取り上げた内容	MA	
Q13 ハンセン病問題を教える際に困ったことや考えたこと	FA	
Q14 ハンセン病問題を取り上げなかった理由	MA	教員自身のハンセン病問題や人権に関する知識・経験・意識に関する項目
Q15 人権問題を授業等で取り上げなかった理由	MA	
Q16 ハンセン病問題に関して知っているもの、見聞きしたことがあるもの	MA	
Q17 ハンセン病患者(元患者)や家族に対する考え	SAMT	
Q18 ハンセン病問題の学習経験	MA	
Q19 ハンセン病問題を見聞きした経験	MA	
Q20 ハンセン病問題を知らうとしたり、行動したりした経験	MA	偏見・差別の原因や解消方策などに関する項目
Q21 ハンセン病に対する偏見や差別の原因	SA	
Q22 人権に係る偏見・差別を解消するために有効な方策	MA	
Q23 学校での人権教育を充実させるための対策	MA	
Q24 人権に対する認識や考え	SAMT	資料館のウェブサイトに関する項目
Q25-1 ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」の見やすさ	SA	
Q25-2 ウェブサイトの「内容」の分かりやすさ	SA	
Q25-3 ウェブサイトの「文章」の読みやすさ	SA	
Q25-4 ウェブサイトの印象・感想や改善点	FA	
Q25-5 資料館の展示やサービスについての意見、要望	FA	資料館の展示・サービスに関する項目

SA(シングルアンサー)：単一回答、MA(マルチアンサー)：複数回答 FA(フリーアンサー)：自由回答 ※NUM：数値回答 ※MT：マトリクス(表組)

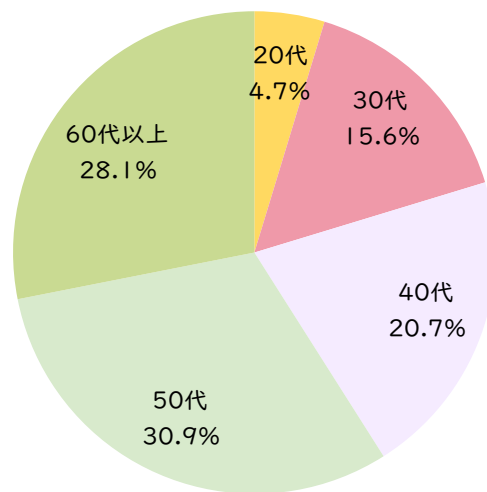
回答者プロフィール (① 性別・年齢)

- 教員向けの調査は、インターネット調査会社(株式会社ネオマーケティング)が保有するモニターのうち、「小学校の教員」「中学校の教員」を対象として実施。
- 対象となるモニター数が限られるため、年代・性別・地域等の割付は行わなかった。
- 回答者の性別は、「男性」が66.3%、「女性」が33.7%で、男女比率は2:1となっている。
- 回答者の年代は、「50代」が30.9%で最も多く、次いで「60代」が28.1%、「40代」が20.7%、「30代」が20.7%となっている。

性別(n=1000)



年代(n=1000)



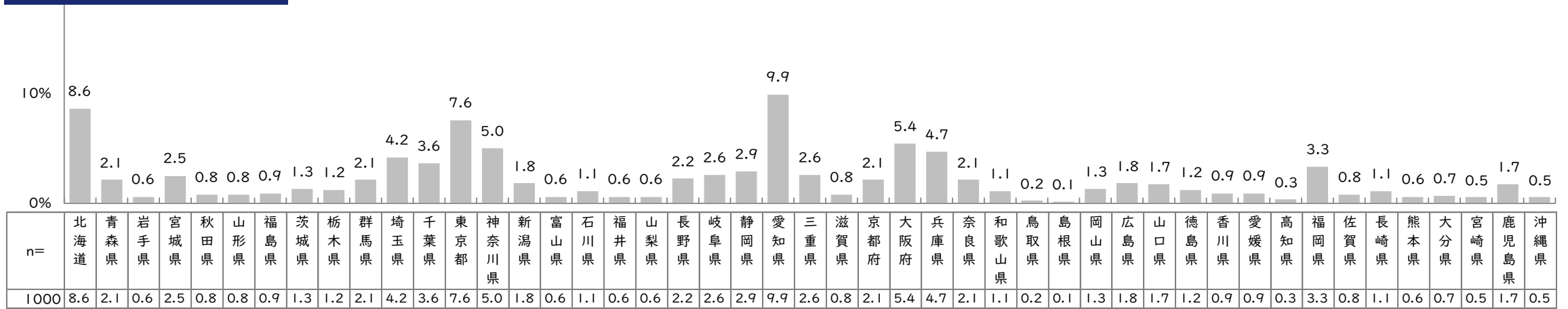
性別・年代別 (n=1000)

		性別		
		男性	女性	
合計	n	1000	663	337
	%	100.0	66.3	33.7
年代	20代	47	8	39
		100.0	17.0	83.0
	30代	156	59	97
		100.0	37.8	62.2
	40代	207	134	73
		100.0	64.7	35.3
50代	309	228	81	
	100.0	73.8	26.2	
60代以上	281	234	47	
	100.0	83.3	16.7	

回答者プロフィール (② 居住地)

- 都道府県別では、「愛知県」(9.9%)、「北海道」(8.6%)、「東京都」(7.6%)の割合が高い。
- ハンセン病関連施設がある都道府県、ない都道府県に区分すると、「施設がある都道府県」に居住している人は22.2%で、残りの約8割は「施設がない都道府県」に居住。

居住地域(n=1000)



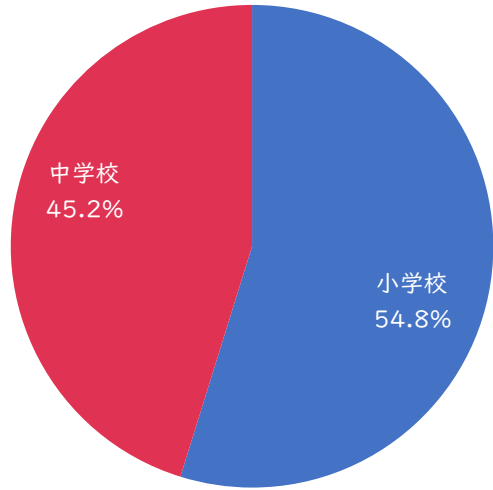
居住地のハンセン病関連施設の有無別 (n=1000)



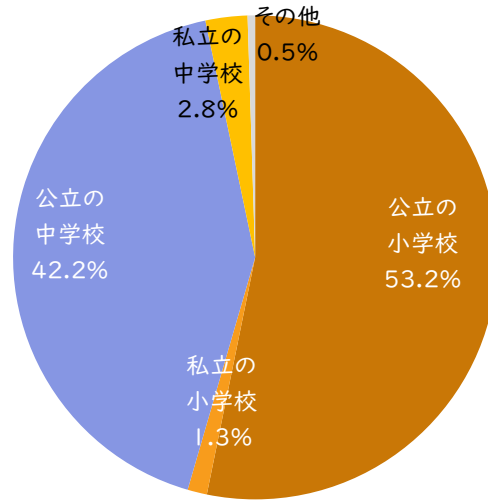
回答者プロフィール (③ 勤務先・勤務地域)

- 勤務している教育機関別にみると、「小学校」が54.8%、「中学校」が45.2%。
- 公立・私立の学校種別でみると、「公立の小学校」が53.2%で最も多く、次いで「公立の中学校」が42.2%となっている。
- 勤務地をハンセン病関連施設の有無でみると、「ハンセン病関連施設がある都道府県」が23.1%、「ハンセン病関連施設がない都道府県」が76.9%で、居住地の割合と若干の差がある。

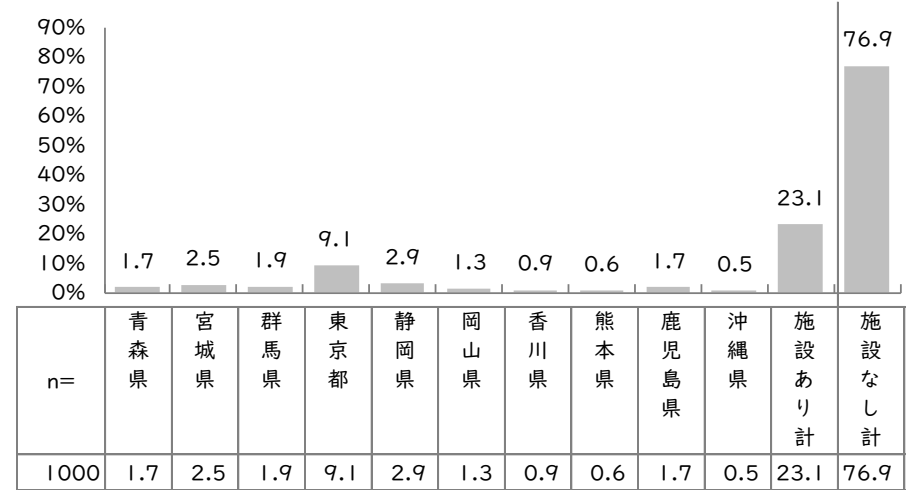
勤務している教育機関(n=1000)



学校種別(n=1000)

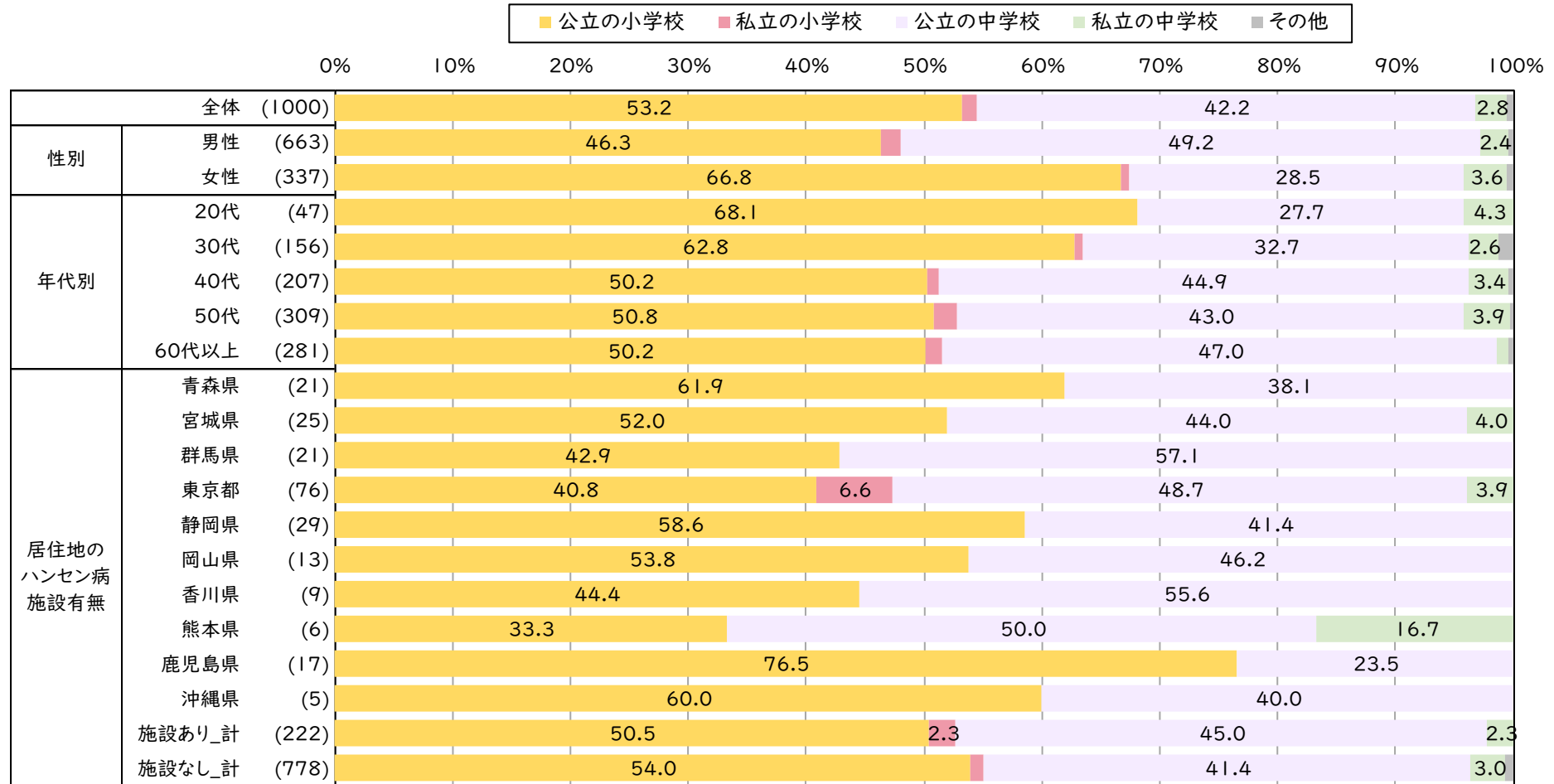


勤務地のハンセン病施設有無(n=1000)



回答者プロフィール (③ 勤務先×年代別・勤務地域)

- 性別で見ると、女性は「公立の小学校」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 年代別で見ると、30代は「公立の小学校」の割合が全体よりも5p以上高い。

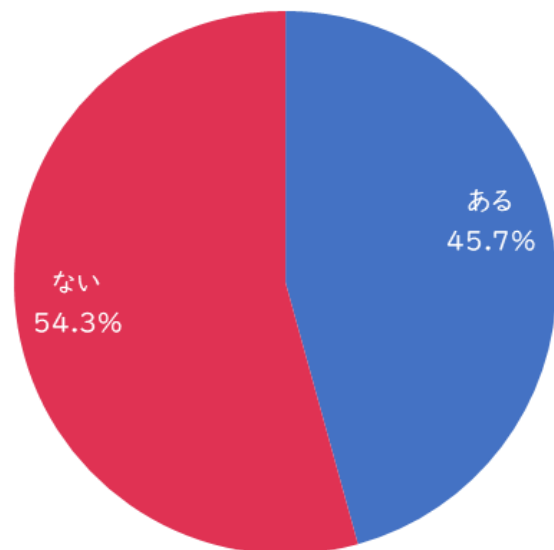


2%未満の数値ラベルは非表示

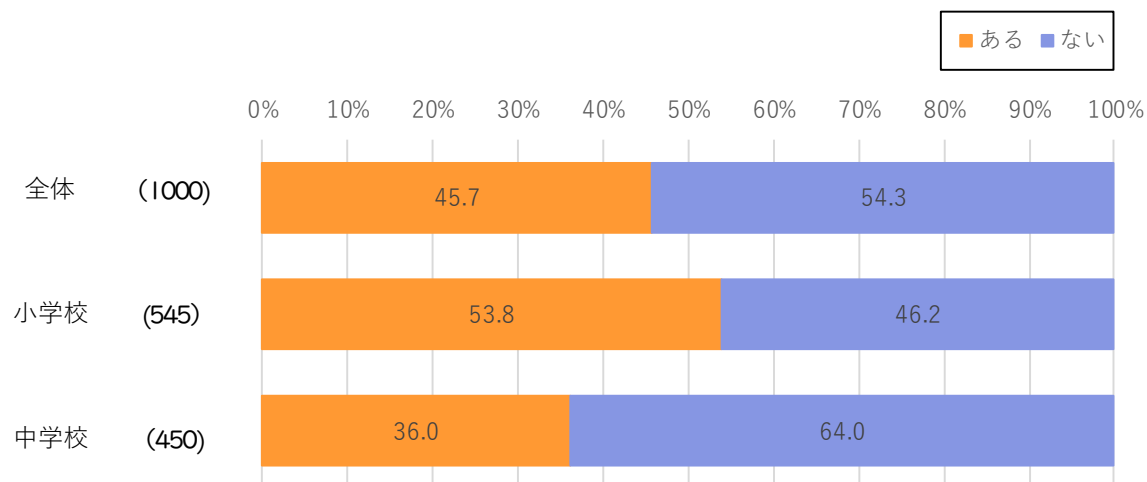
回答者プロフィール (④ 担当する学級)

- 担当する学級の有無別にみると、「ある」が45.7%、「ない」が54.3%。
- 勤務している教育機関別でみると、小学校では「ある」が53.8で「ない」よりも多いのに対し、中学校では「ある」が36.0%、「ない」が64.0%となっている。

担当する学級の有無(n=1000)



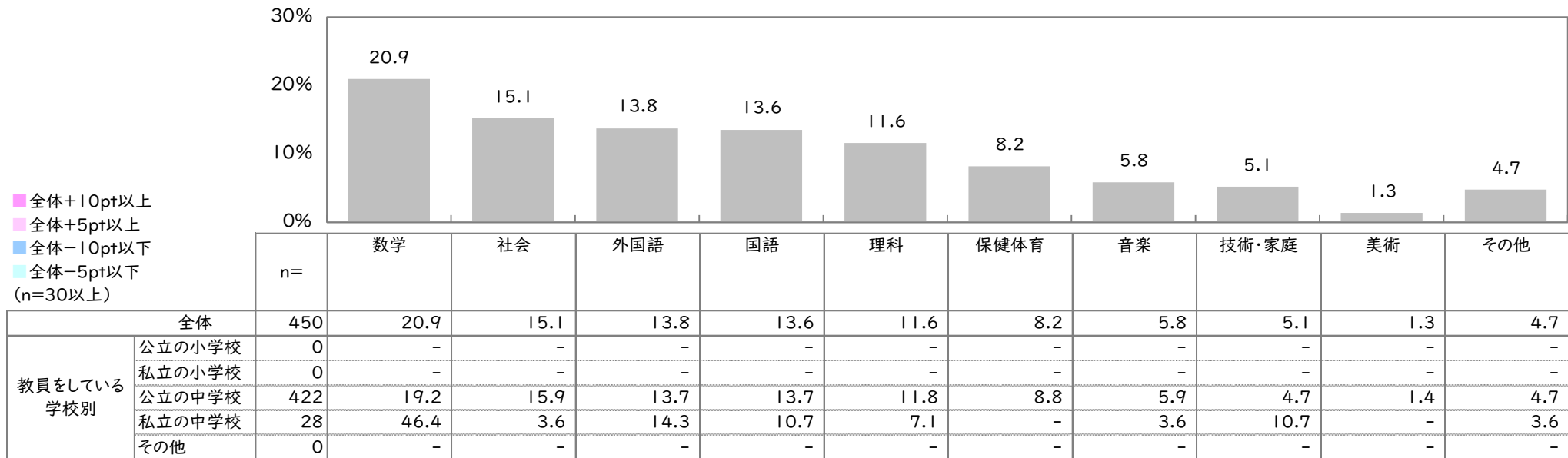
勤務している
教育機関



回答者プロフィール (④ 専門教科)

- 専門教科は中学校の教員のみが回答。「数学」が20.9%で最も多く、次いで「社会」15.1%、「外国語」13.8%、「国語」13.6%、「理科」11.6%となっている。

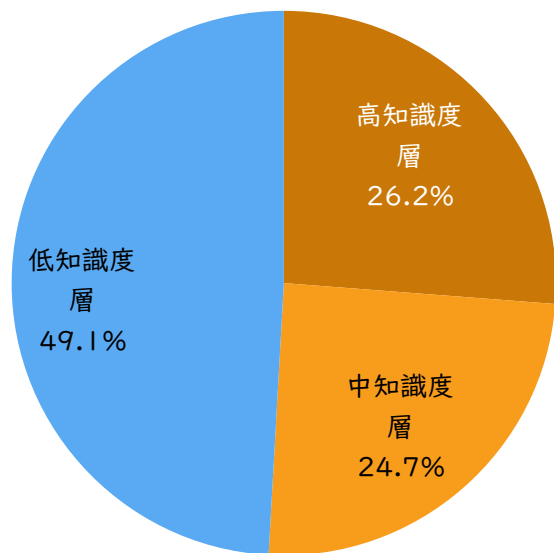
専門教科(n=450)



回答者プロフィール (⑤ハンセン病問題知識度)

- 調査課題②、③ (p.3) について分析するために、一般対象の調査と同じくハンセン病問題知識度の指標を設定。
- ハンセン病問題について「知識が高い層(高知識度層)」は26.2%、「知識が中程度の層(中知識度層)」は24.7%、「知識が低い層(低知識度層)」は49.1%。
- 「60代以上」は「高知識度層」が41.4%で、他の年代より高い。年代が若いほど「低知識度層」の割合が高い。

ハンセン病問題知識度 (n=839)



ハンセン病問題に関し、幅広く正しい知識を持つ

・高知識度層：上記知識が高い

Q16の選択肢（「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を除く）の中から6個以上を選択した者

・中知識度層：上記知識が中程度

Q16の選択肢（「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を除く）の中から3～5個を選択した者

・低知識度層：上記知識が低い

Q16の選択肢の中から2個以下または「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を選択した者

		n	高知識度層	中知識度層	低知識度層
合計		839	26.2	24.7	49.1
性別	男性	533	29.6	23.8	46.5
	女性	306	20.3	26.1	53.6
年代	20代	43	7.0	16.3	76.7
	30代	144	10.4	21.5	68.1
	40代	168	20.2	20.2	59.5
	50代	252	28.6	26.2	45.2
	60代以上	232	41.4	29.7	28.9
教員をしている学校	小学校	489	24.1	23.7	52.1
	中学校	346	29.2	26.0	44.8
	その他	4	25.0	25.0	50.0
居住地のハンセン病施設有無	施設あり_計	171	32.2	17.0	50.9
	施設なし_計	668	24.7	26.6	48.7

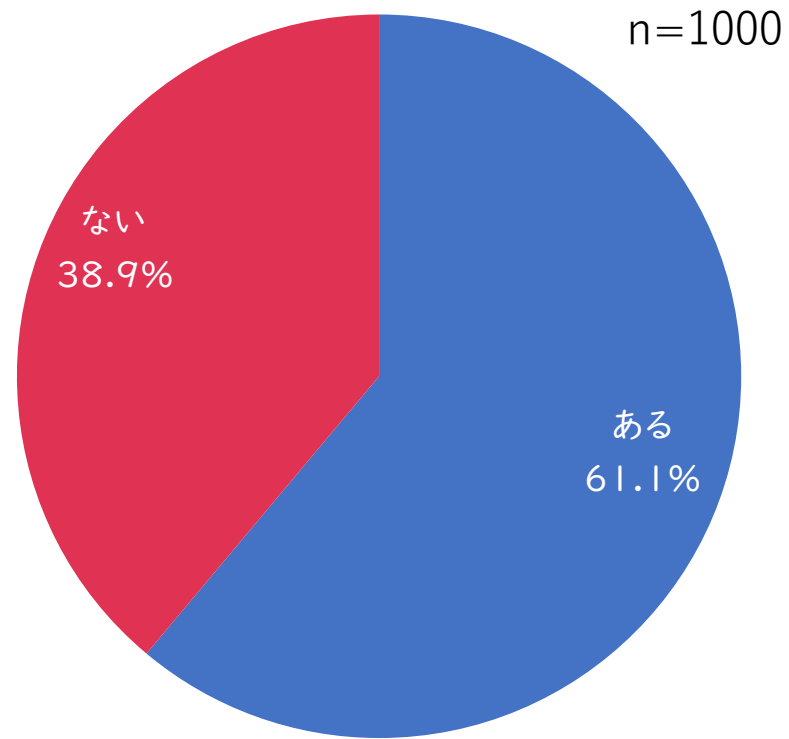
単純集計(GT)結果 【Q5~Q25】

※FA(自由記述回答)のQ13、Q24_4を除きます

人権教育担当者向けの研修受講経験

Q5 あなたは、教員委員会などが実施している人権教育担当者向けの研修を受講されたことはありますか。 (SA)

- 「ある」は61.1%、「ない」は38.9%。

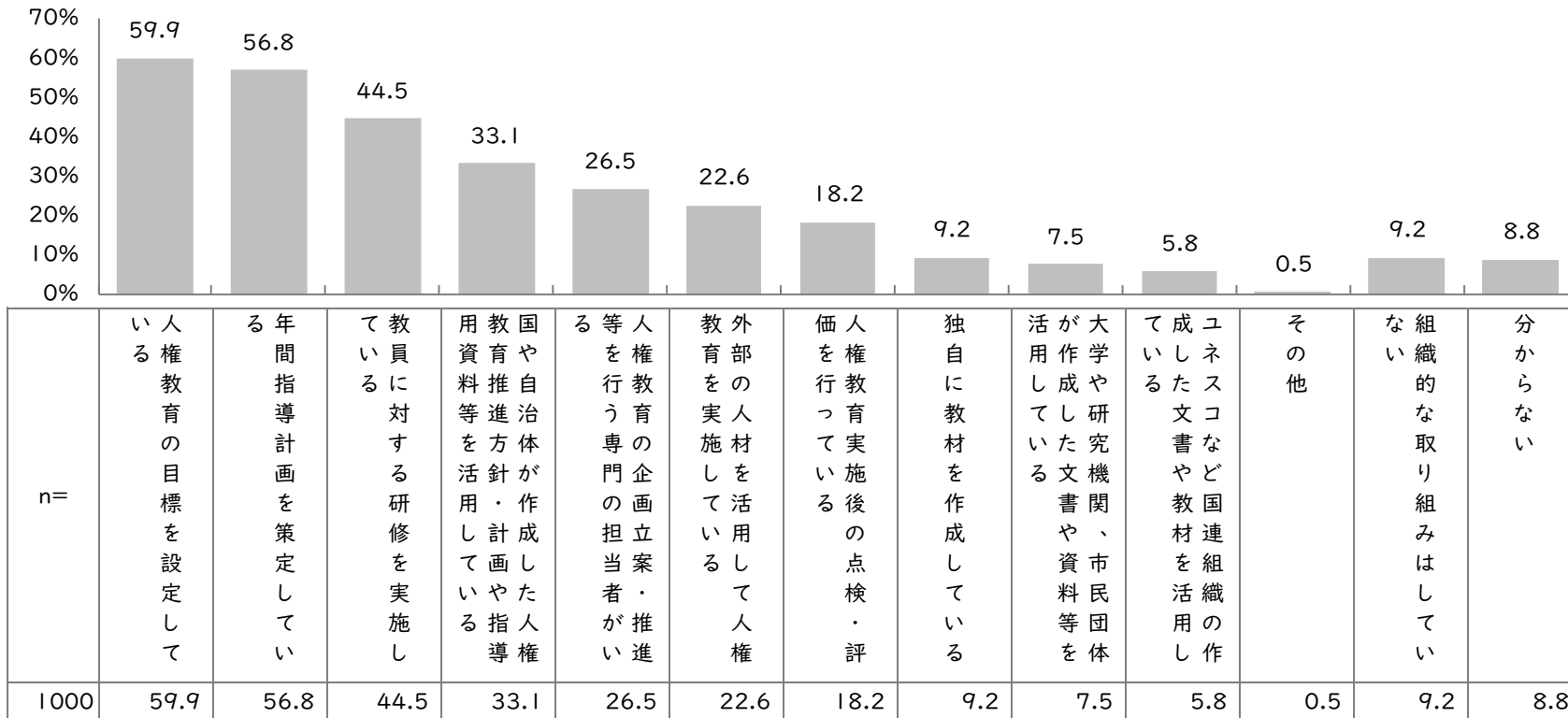


人権教育に関する組織的な取り組み状況

Q6 あなたの学校では、人権教育に関する組織的な取り組みをされていますか。

(「組織的な取り組みはしていない」「分からない」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「人権教育の目標を設定している」(59.9%)。次いで「年間指導計画を策定している」(56.8%)、「教員に対する研修を実施している」(44.5%)、「国や自治体が作成した人権教育推進方針・計画や指導用資料等を活用している」(33.1%)と続く。
- 「組織的な取り組みはしていない」は、9.2%。

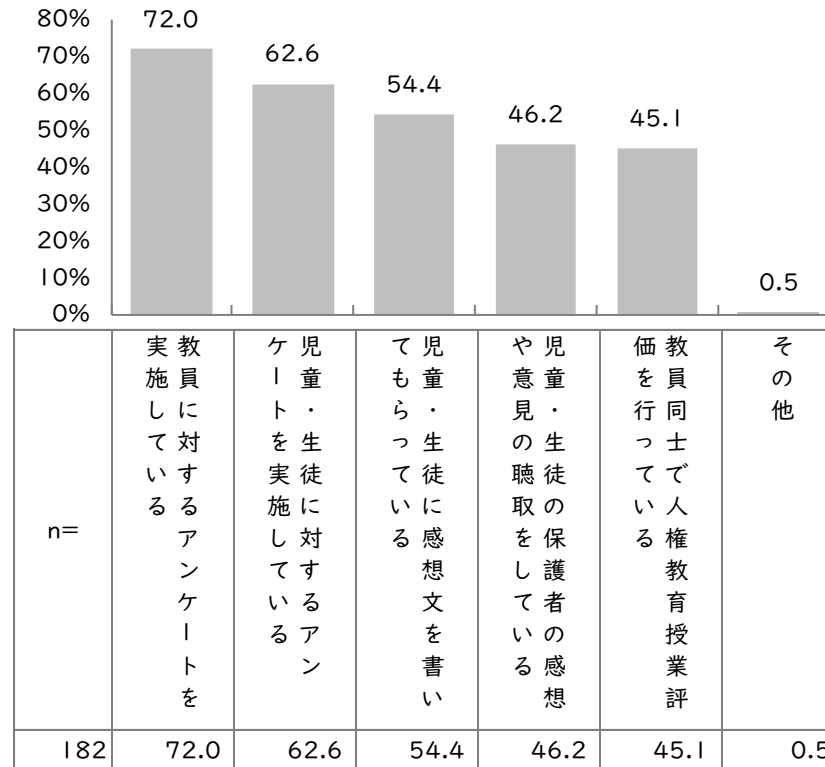


人権教育実施後の目標の達成度の把握方法

Q7 人権教育に関する組織的な取り組みについて、「人権教育実施後の点検・評価を行っている」と回答した方にお伺いします。

あなたの学校では、人権教育実施後の目標の達成度(点検・評価)をどのように把握されていますか。(いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「教員に対するアンケートを実施している」(72.0%)。次いで「児童・生徒に対するアンケートを実施している」(62.6%)、「児童・生徒に感想文を書いている」(54.4%)、「児童・生徒の保護者の感想や意見の聴取をしている」(46.2%)、「教員同士で人権教育授業評価を行っている」(45.1%)と続く。

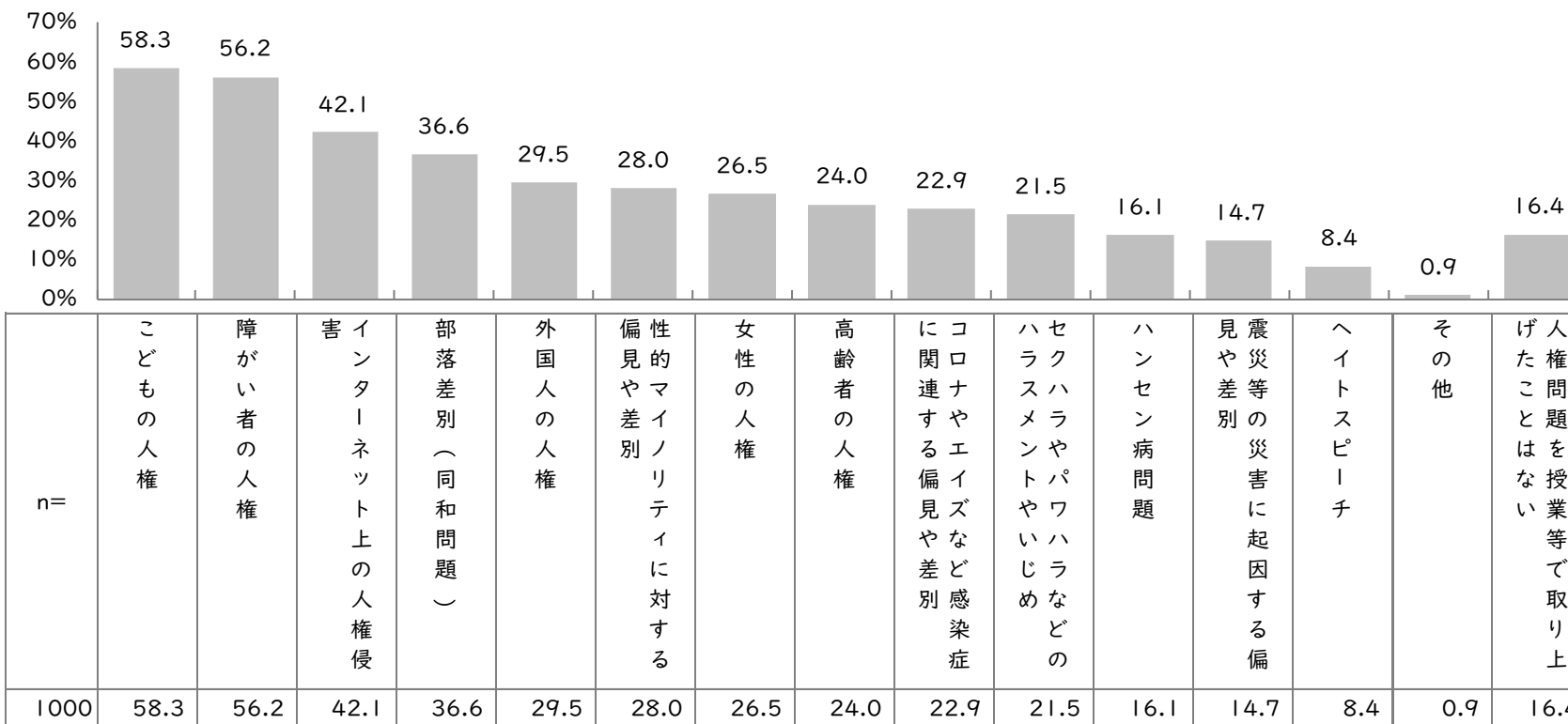


授業等で取り上げたことのある人権問題

Q8 あなたご自身が、授業等で取り上げたことのある人権問題がありますか。

(「人権問題を授業等で取り上げたことはない」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「子どもの人権」(58.3%)。次いで「障がい者の人権」(56.2%)、「インターネット上の人権侵害」(42.1%)、「部落差別(同和問題)」(36.6%)と続く。
- 「人権問題を授業等で取り上げたことはない」は、16.4%

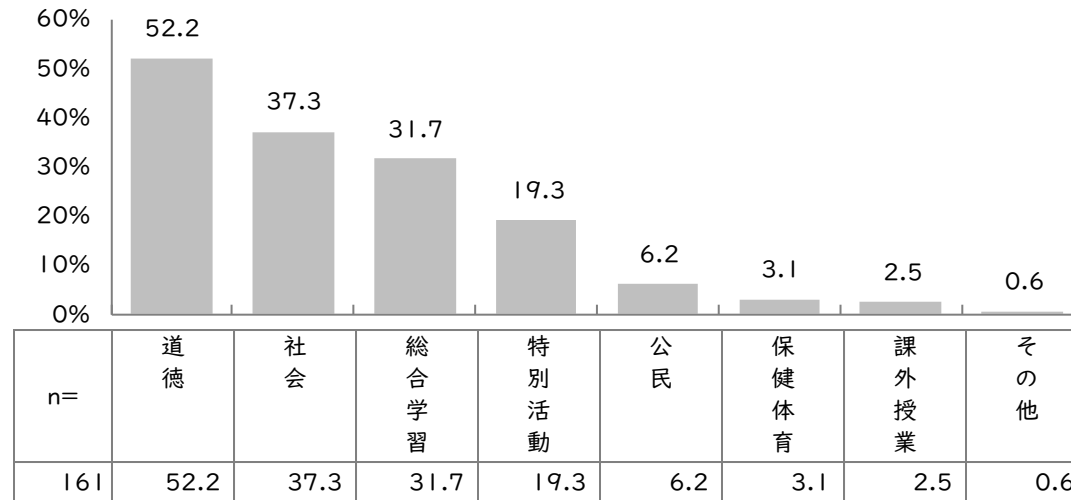


ハンセン病問題のことを教えた授業科目

Q9_1 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。

あなたは、ハンセン病問題のことをどの授業科目の中で教えましたか。(いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「道徳」(52.2%)。次いで「社会」(37.3%)、「総合学習」(31.7%)、「特別活動」(19.3%)と続く。

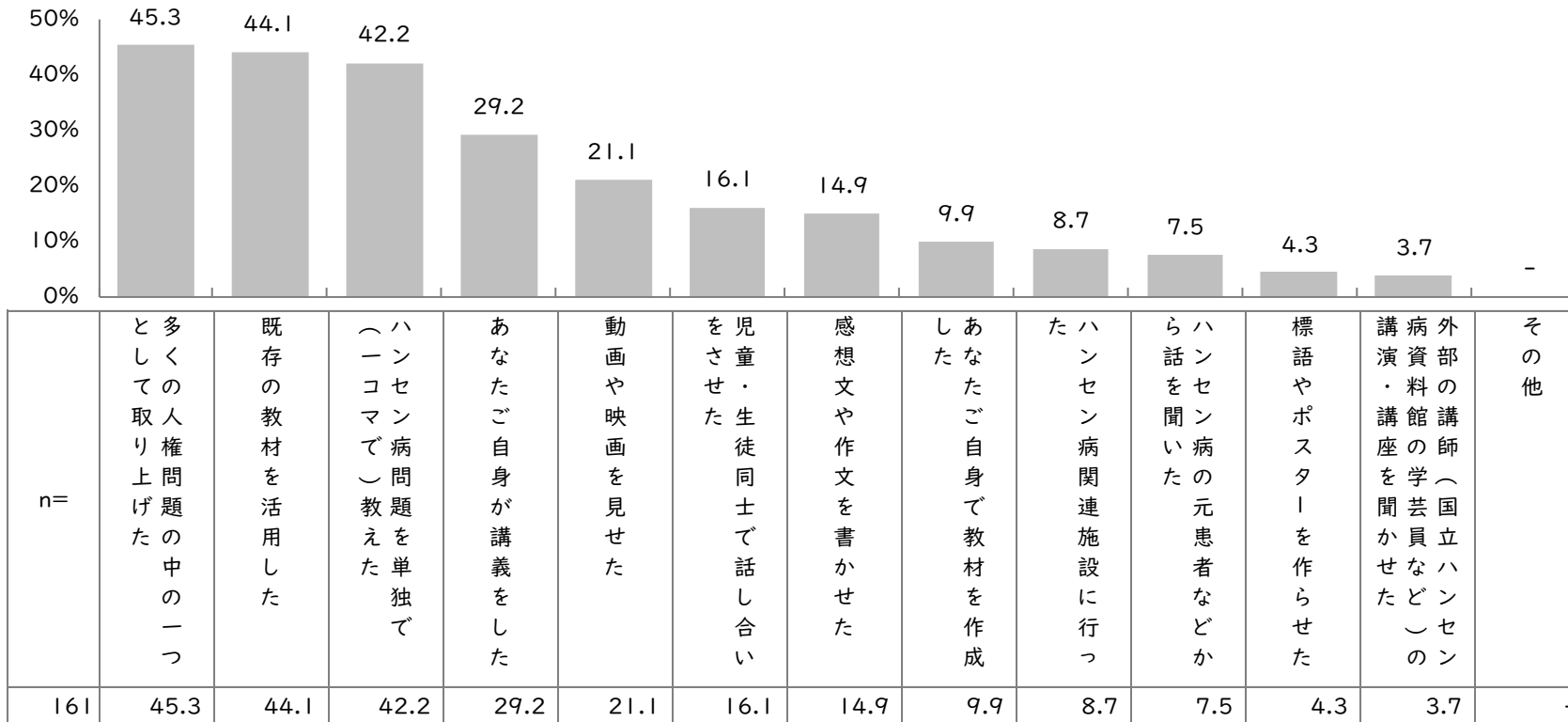


ハンセン病問題の教え方

Q9_2 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。

あなたは、ハンセン病問題のことをどのような内容で教えましたか。(いくつでも) (MA)

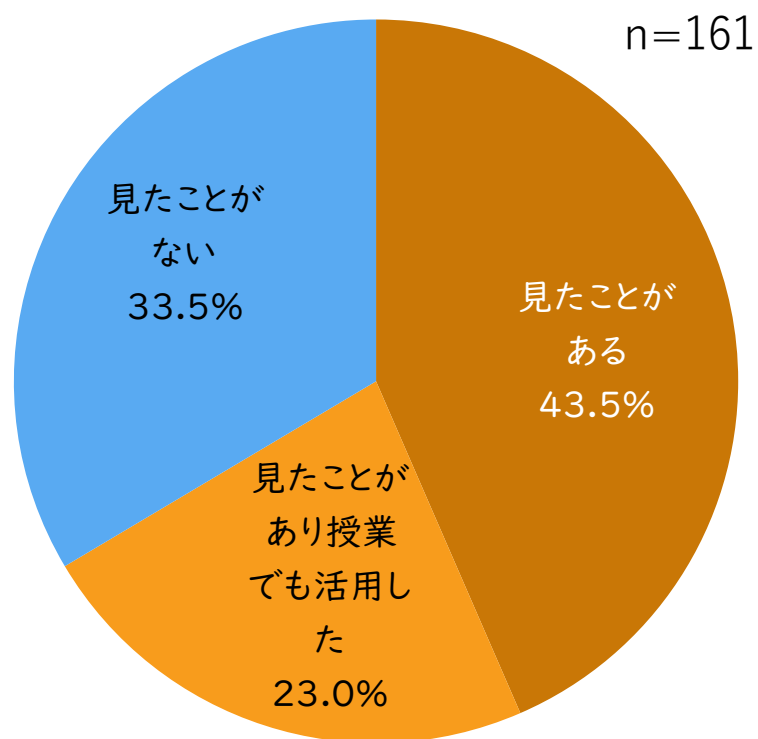
- 最も高いのは、「多くの人権問題の中の一つとして取り上げた」(45.3%)。次いで「既存の教材を活用した」(44.1%)、「ハンセン病問題を単独で(一コマで)教えた」(42.2%)、「あなたご自身が講義をした」(29.2%)、「動画や映画を見せた」(21.1%)と続く。
- 「外部の講師(国立ハンセン病資料館の学芸員など)の講演・講座を聞かせた」は、3.7%。



中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見た経験

Q10 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見たことがありますか。 (SA)

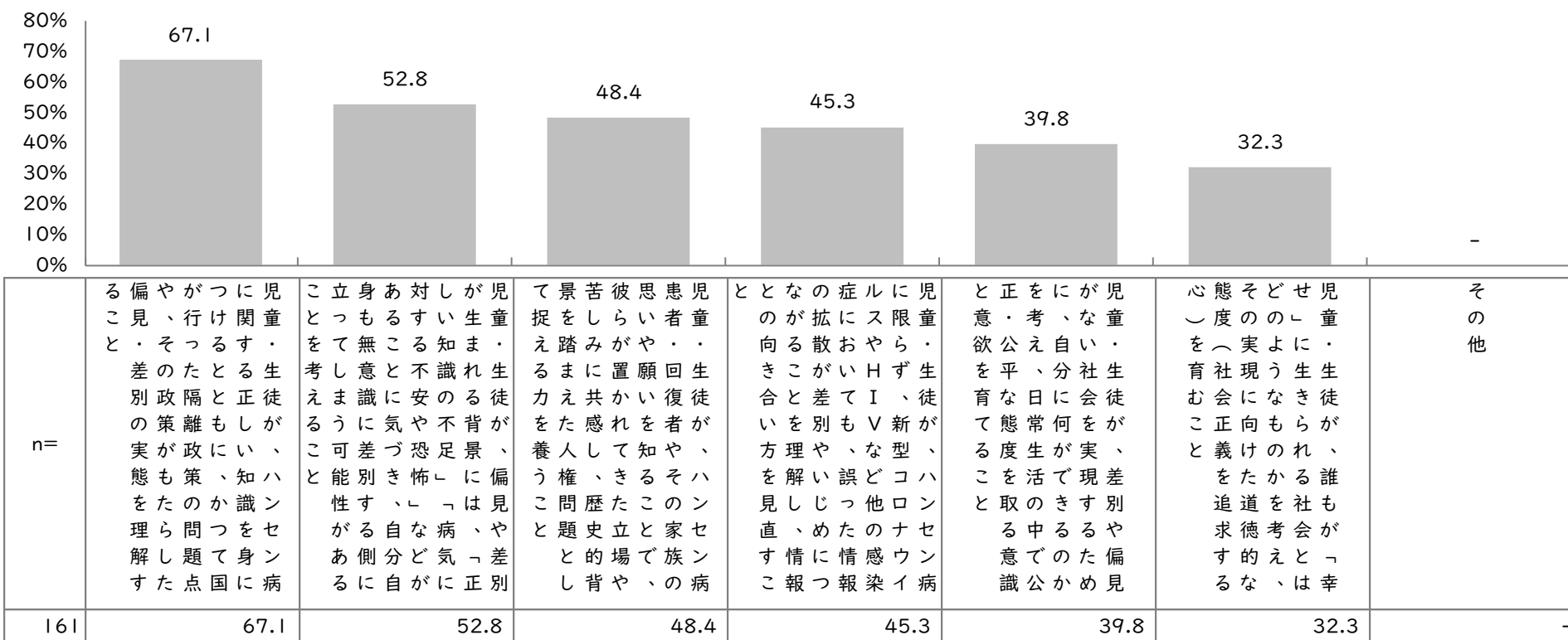
- 「見たことがある」は43.5%、「見たことがあり授業でも活用した」(23.0%)を合計すると66.5%。
- 「見たことがない」は、33.5%。



ハンセン病問題の授業での「目標」「ねらい」

Q11 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたがハンセン病問題の授業で「目標」「ねらい」としたことは何ですか。(いくつでも) (MA)

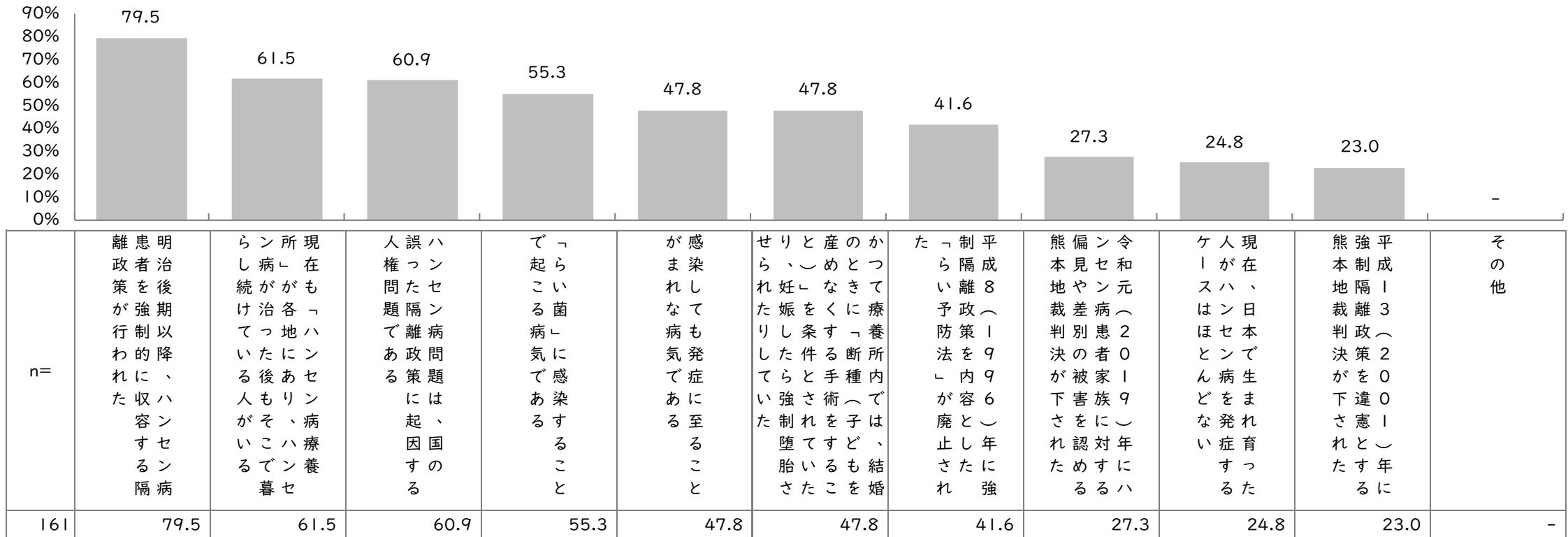
- 最も高いのは、「児童・生徒が、ハンセン病に関する正しい知識を身につけるとともに、かつて国が行った隔離政策の問題点や、その政策がもたらした偏見・差別の実態を理解すること」(67.1%)。次いで「児童・生徒が、偏見や差別が生まれる背景には、「正しい知識の不足」「病気に対する不安や恐怖」などがあることに気づき、自分自身も無意識に差別する側に立ってしまう可能性があることを考えること」(52.8%)、「児童・生徒が、ハンセン病患者・回復者やその家族の思いや願いを知ることで、彼らが置かれてきた立場や苦しみに共感し、歴史的背景を踏まえた人権問題として捉える力を養うこと」(48.4%)、「児童・生徒が、ハンセン病に限らず、新型コロナウイルスやHIVなど他の感染症においても、誤った情報の拡散が差別やいじめにつながることを理解し、情報との向き合い方を見直すこと」(45.3%)と続く。



ハンセン病問題の授業で取り上げた内容

Q12 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。ハンセン病問題の授業で、あなたが取り上げた内容は何ですか。(いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する隔離政策が行われた」(79.5%)。次いで「現在も「ハンセン病療養所」が各地にあり、ハンセン病が治った後もそこで暮らしている人がいる」(61.5%)、「ハンセン病問題は、国の誤った隔離政策に起因する人権問題である」(60.9%)、「らい菌に感染することで起こる病気である」(55.3%)と続く。

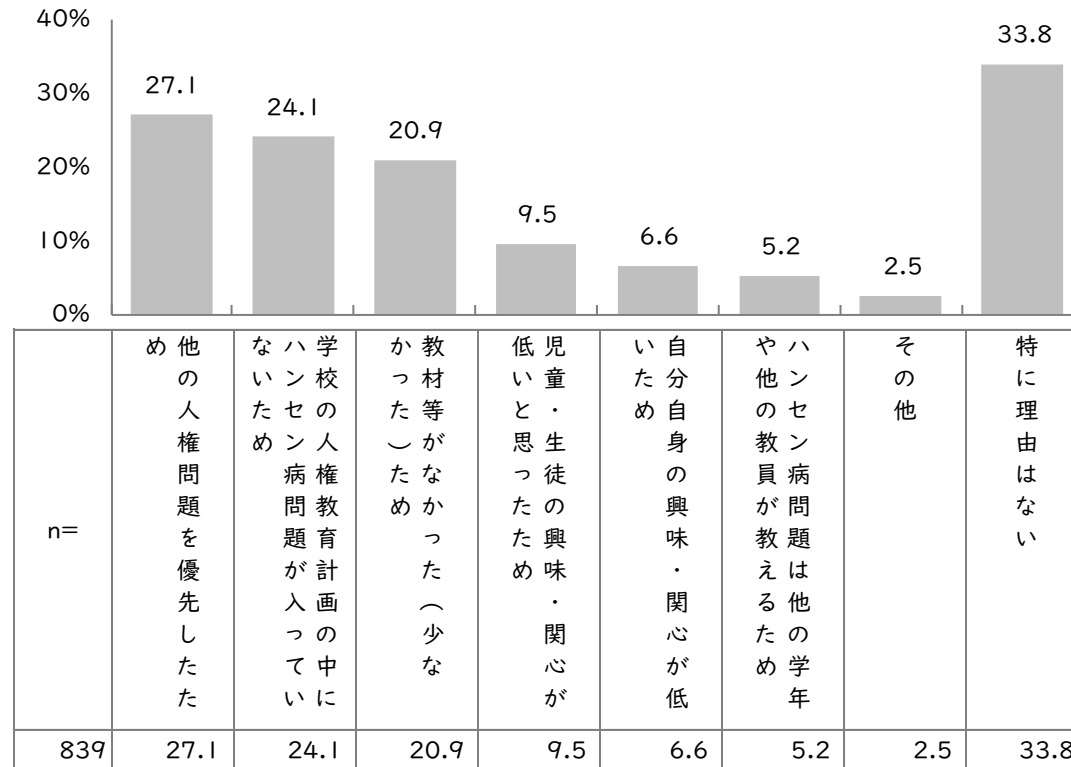


ハンセン病問題を取り上げなかった理由

Q14 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。

あなたが、ハンセン病問題を取り上げなかった理由は何ですか。(「特に理由はない」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「他の人権問題を優先したため」(27.1%)。次いで「学校の人権教育計画の中にハンセン病問題が入っていないため」(24.1%)、「教材等がなかった(少なかつた)ため」(20.9%)、「児童・生徒の興味・関心が低いと思ったため」(9.5%)と続く。
- 「特に理由はない」は、33.8%。

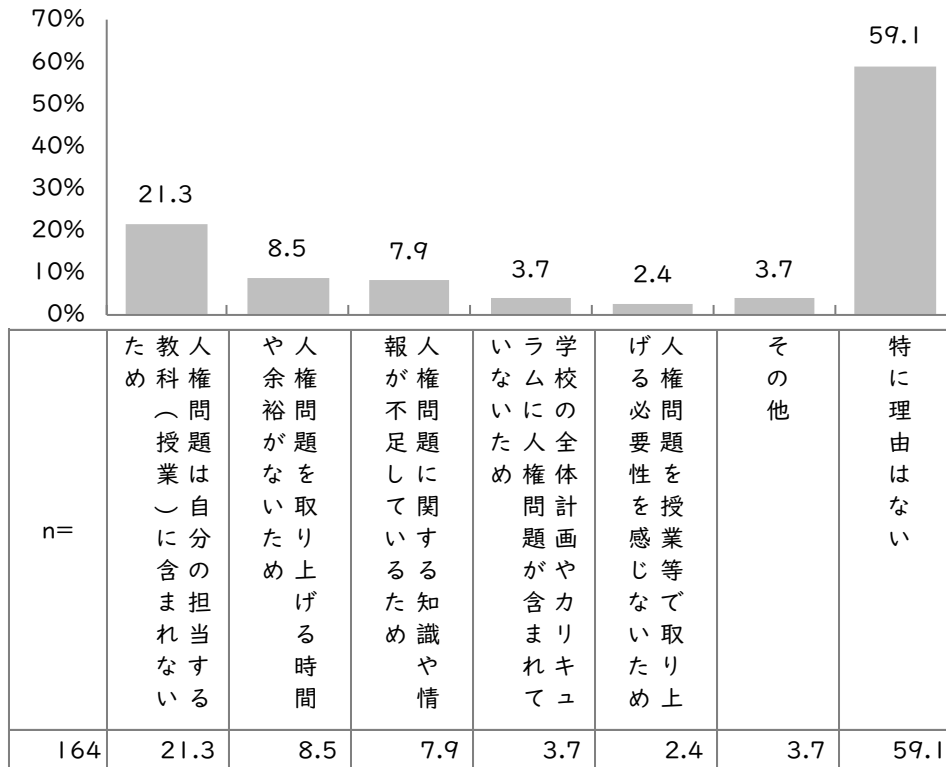


人権問題を授業等で取り上げなかった理由

Q15 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。

あなたが、人権問題を授業等で取り上げなかった理由は何ですか。(「特に理由はない」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「人権問題は自分の担当する教科(授業)に含まれないため」(21.3%)。次いで「人権問題を取り上げる時間や余裕がないため」(8.5%)、「人権問題に関する知識や情報が不足しているため」(7.9%)、「学校の全体計画やカリキュラムに人権問題が含まれていないため」(3.7%)と続く。
- 「特に理由はない」は、59.1%。

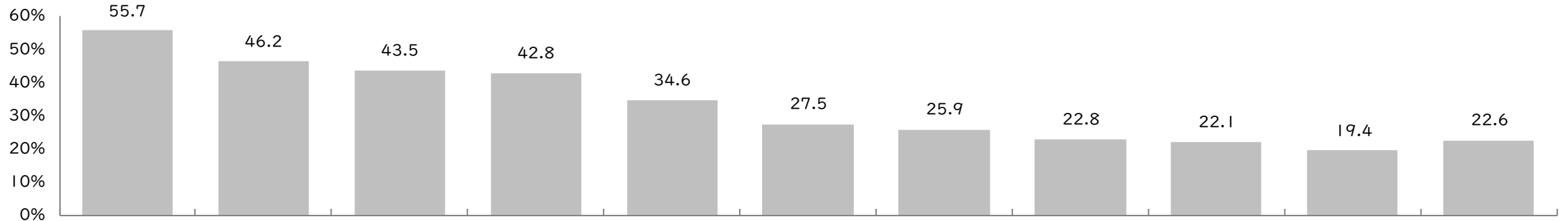


n=	た め	教 科 人 権 問 題 は 自 分 の 担 当 す る 教 科 (授 業 に 含 ま れ な い た め	や 人 権 問 題 を 取 り 上 げ る 時 間 や 余 裕 が な い た め	報 人 権 問 題 に 関 す る 知 識 や 情 報 が 不 足 し て い る た め	い ラ 学 校 の 全 体 計 画 や カ リ キ ュ ラ ム に 人 権 問 題 が 含 ま れ て い な い た め	げ る 人 権 問 題 を 授 業 等 で 取 り 上 げ る 必 要 性 を 感 じ な い た め	そ の 他	特 に 理 由 は な い
164	21.3	8.5	7.9	3.7	2.4	3.7	59.1	

ハンセン病問題に関して知っているもの、見聞きしたことがあるもの

Q16 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがない または 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。ハンセン病(問題)に関する以下の記述のうち、あなたが知っているもの、見聞きしたことがあるものはどれですか。(「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「明治後期以降、ハンセン病患者を強制的に収容する隔離政策が行われた」(55.7%)。次いで「ハンセン病問題は、国の誤った隔離政策に起因する人権問題である」(46.2%)、「「らい菌」に感染することで起こる病気である」(43.5%)、「かつて療養所内では、結婚のときに「断種(子どもを産めなくする手術をすること)」を条件とされていたり、妊娠したら強制墮胎させられたりしていた」(42.8%)と続く。
- 「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」は、22.6%。



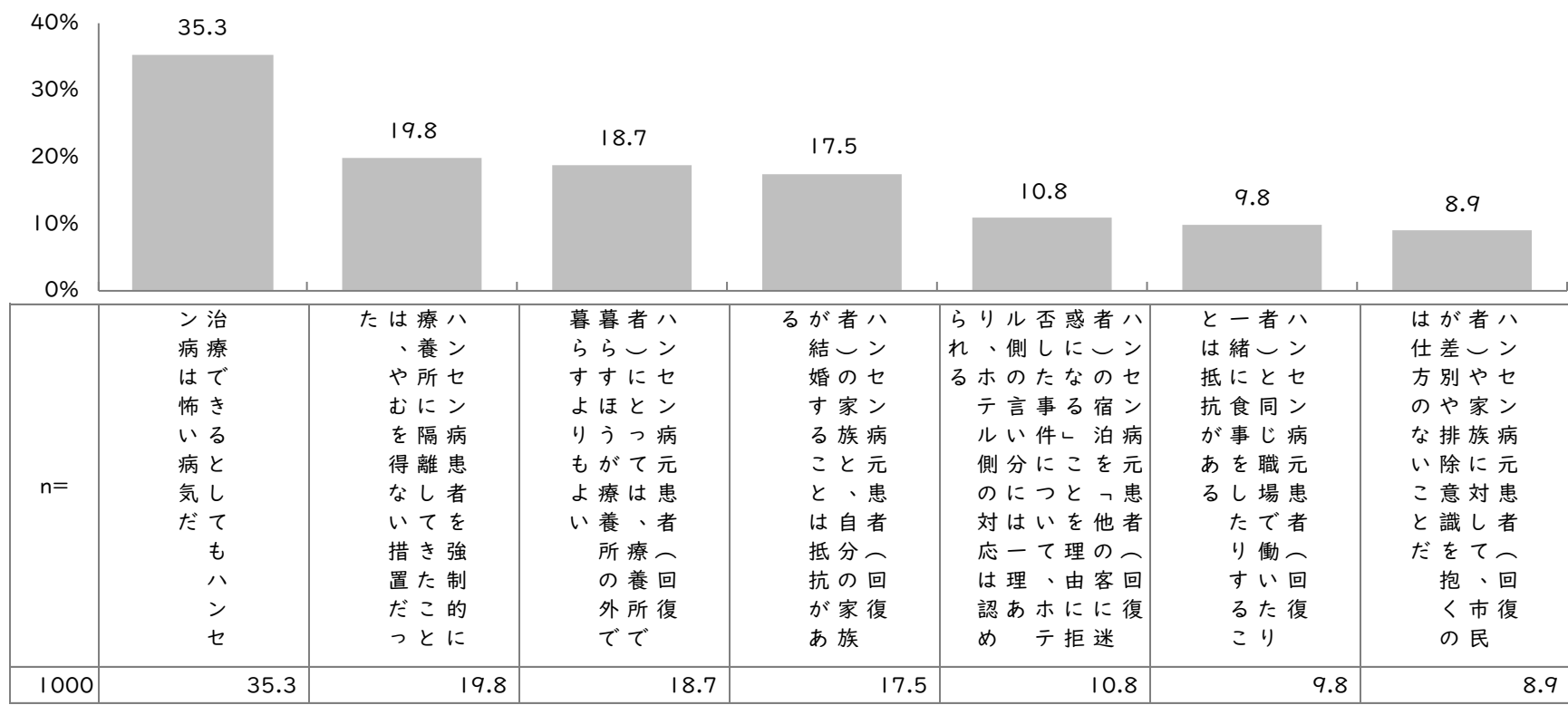
n=	離患者が強制隔離された	人権問題である	で起こる病気である	せりと産めなくする手術を断種した	らん病が各地にハンセン病患者が住み続けている	た「らい予防法」が廃止された	が感染しても発症に至ることがない	熊本地裁判決が下された	ケ人が日本にいない	熊本地裁判決が下された	た知っているもの、見聞きした
839	55.7	46.2	43.5	42.8	34.6	27.5	25.9	22.8	22.1	19.4	22.6

ハンセン病患者(元患者)や家族に対する考え方

Q17 ハンセン病患者(元患者)や家族に対する以下のような考え方について、あなたはどのように思いますか。 (SA)

- 最も高いのは、「治療できるとしてもハンセン病は怖い病気だ」(35.3%)。次いで「ハンセン病患者を強制的に療養所に隔離してきたことは、やむを得ない措置だった」(19.8%)、「ハンセン病元患者(回復者)にとっては、療養所で暮らすほうが療養所の外で暮らすよりもよい」(18.7%)、「ハンセン病元患者(回復者)の家族と、自分の家族が結婚することは抵抗がある」(17.5%)と続く。

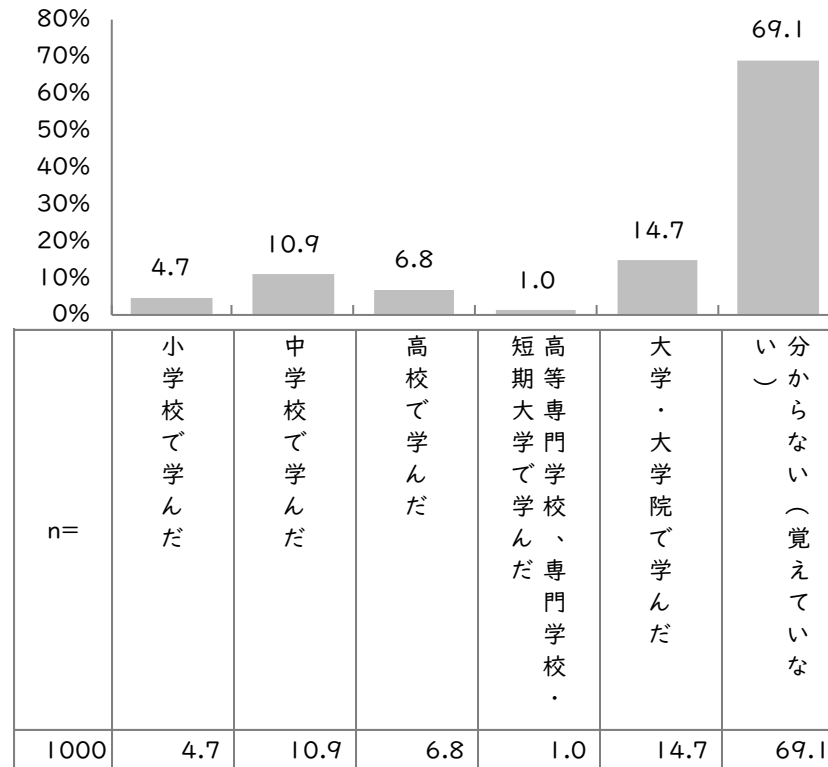
*値は以下の合計値
「そう思う」
「どちらかといえばそう思う」



ハンセン病問題の学習経験

Q18 あなたご自身は、これまでの学校教育の中でハンセン病問題について学びましたか。(「分からない(覚えていない)」を除き、いくつでも) (MA)

- 最も高いのは、「大学・大学院で学んだ」(14.7%)。次いで「中学校で学んだ」(10.9%)、「高校で学んだ」(6.8%)、「小学校で学んだ」(4.7%)と続く。
- 「分からない(覚えていない)」は、69.1%。

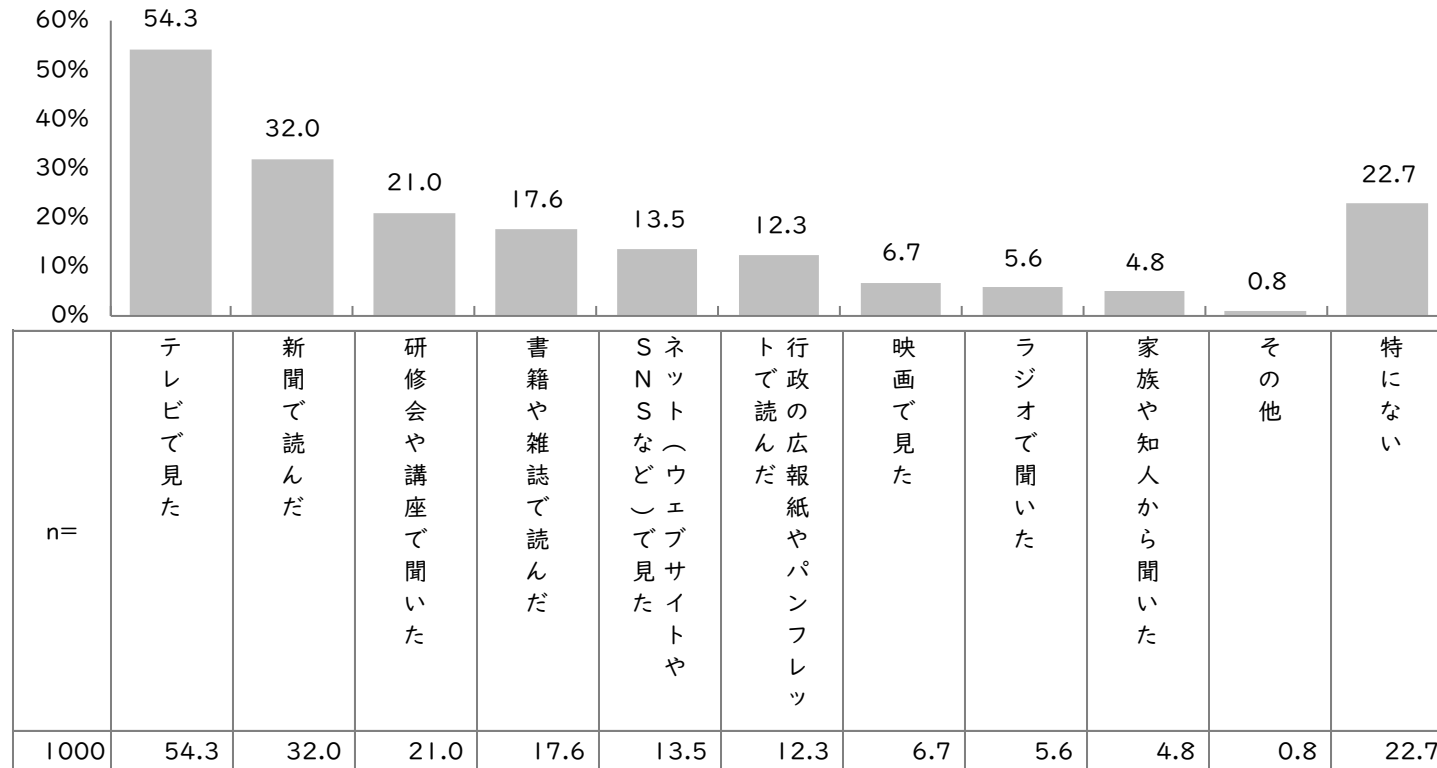


ハンセン病問題を見聞きした経験

Q19 あなたは、学校での人権教育以外でハンセン病問題のことを見聞きしたことがありますか。

(「特にない」を除き、いくつでも) (MA)

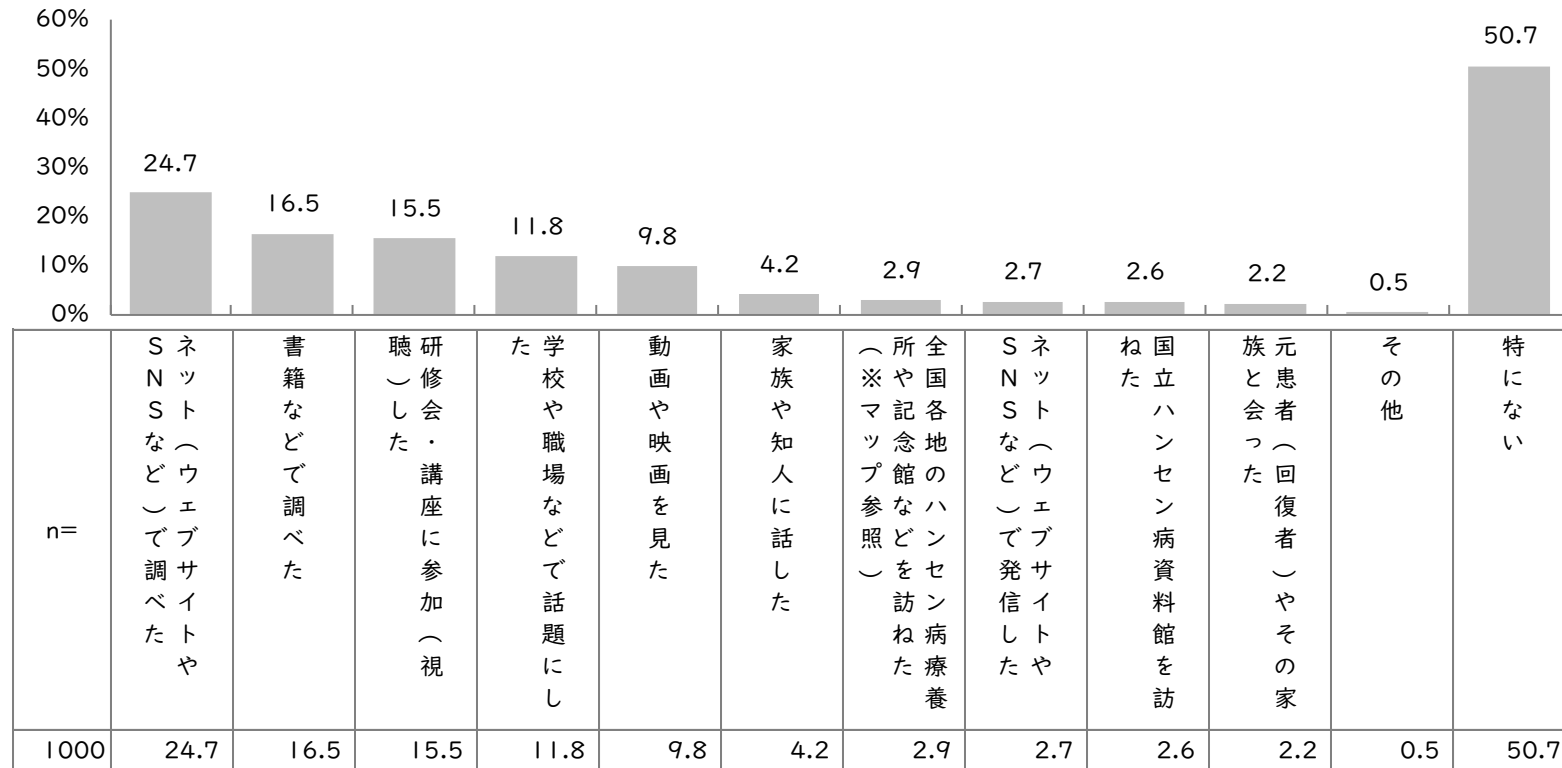
- 最も高いのは、「テレビで見た」(54.3%)。次いで「新聞で読んだ」(32.0%)、「研修会や講座で聞いた」(21.0%)、「書籍や雑誌で読んだ」(17.6%)と続く。
- 「特にない」は、22.7%。



ハンセン病問題を知ろうとしたり、行動したりした経験

Q20 あなたは、学校での人権教育以外で、ハンセン病問題について自ら知ろうとしたり、行動したりしたことがありますか。（「特にない」を除き、いくつでも）（MA）

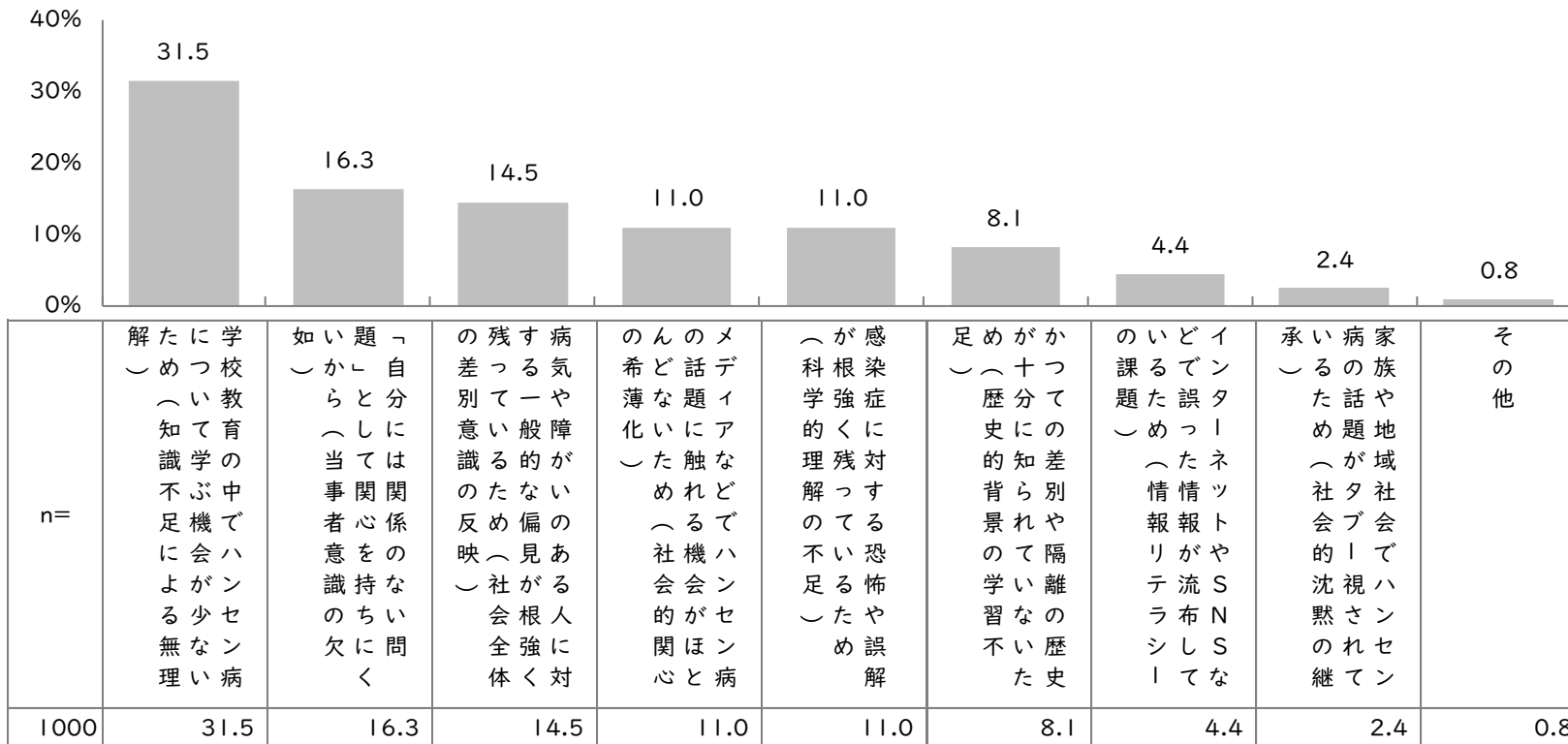
- 最も高いのは、「ネット(ウェブサイトやSNSなど)で調べた」(24.7%)。次いで「書籍などで調べた」(16.5%)、「研修会・講座に参加(視聴)した」(15.5%)、「学校や職場などで話題にした」(11.8%)、「動画や映画を見た」(9.8%)と続く。
- 「特にない」は、50.7%。



ハンセン病に対する偏見や差別の原因

Q21 ハンセン病に対する偏見や差別は、若い世代の中にも少なからず見られます。その主な原因は、どのような点にあると思われますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(SA)

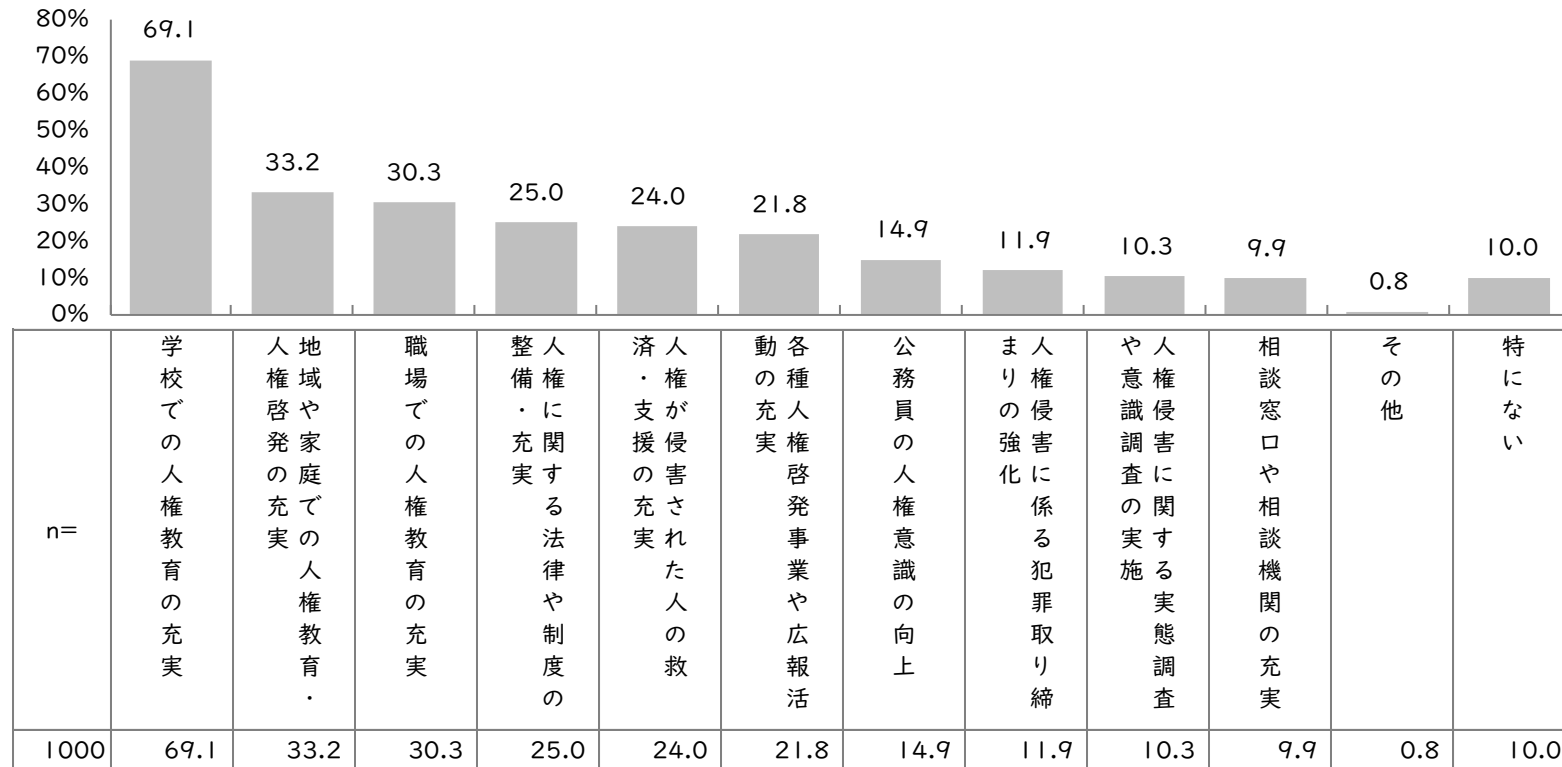
- 最も高いのは、「学校教育の中でハンセン病について学ぶ機会が少ないため(知識不足による無理解)」(31.5%)。次いで「自分には関係のない問題」として関心を持ちにくいから(当事者意識の欠如)」(16.3%)、「病気や障がいのある人に対する一般的な偏見が根強く残っているため(社会全体の差別意識の反映)」(14.5%)、「メディアなどでハンセン病の話題に触れる機会がほとんどないため(社会的関心の希薄化)」(11.0%)、「感染症に対する恐怖や誤解が根強く残っているため(科学的理解の不足)」(11.0%)と続く。



人権に係る偏見・差別を解消するために有効な方策

Q22 あなたは、ハンセン病問題をはじめとする人権に係る偏見・差別を解消するためには、どのような方策が有効だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

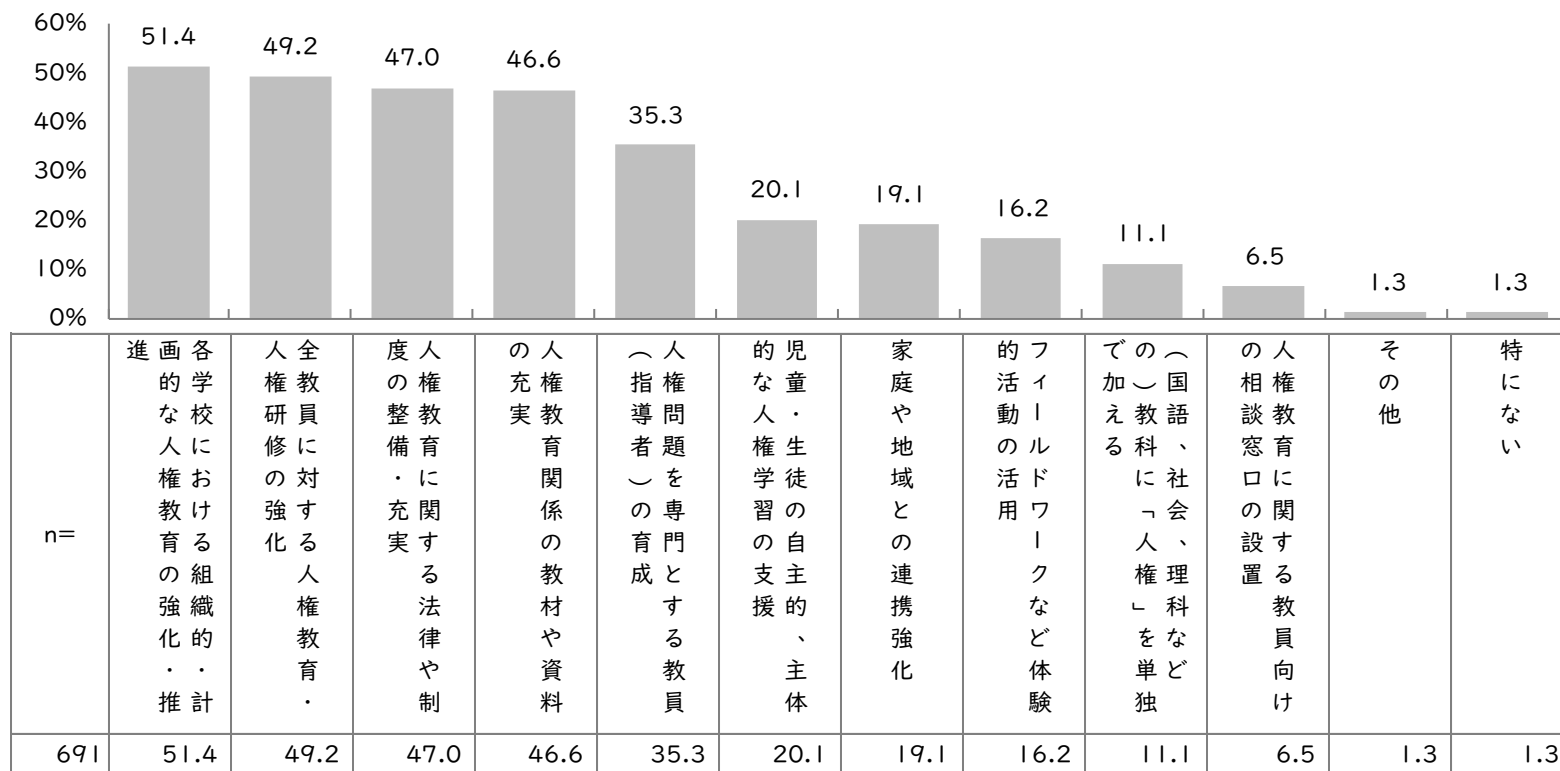
- 最も高いのは、「学校での人権教育の充実」(69.1%)。次いで「地域や家庭での人権教育・人権啓発の充実」(33.2%)、「職場での人権教育の充実」(30.3%)、「人権に関する法律や制度の整備・充実」(25.0%)、「人権が侵害された人の救済・支援の充実」(24.0%)、「各種人権啓発事業や広報活動の充実」(21.8%)と続く。



学校での人権教育を充実させるための対策

Q23 学校での人権教育を充実させるためには、どのような対策が重要だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

- 最も高いのは、「各学校における組織的・計画的な人権教育の強化・推進」(51.4%)。次いで「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」(49.2%)、「人権教育に関する法律や制度の整備・充実」(47.0%)、「人権教育関係の教材や資料の充実」(46.6%)と続く。

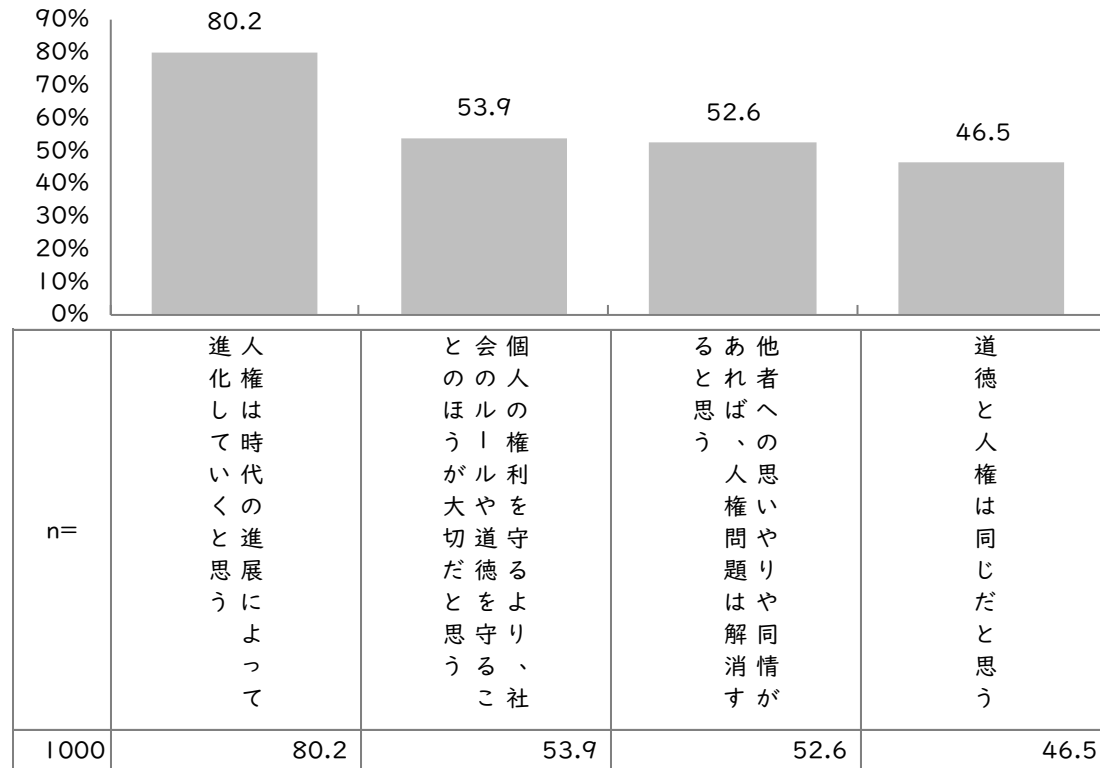


人権に対する認識や考え

Q24 以下の項目について、あなた自身の認識や考えにあてはまると思うものはありますか。 (SA)

- 最も高いのは、「人権は時代の進展によって進化していくと思う」(80.2%)。次いで「個人の権利を守るより、社会のルールや道徳を守ることのほうが大切だと思う」(53.9%)、「他者への思いやりや同情があれば、人権問題は解消すると思う」(52.6%)、「道徳と人権は同じだと思う」(46.5%)と続く。

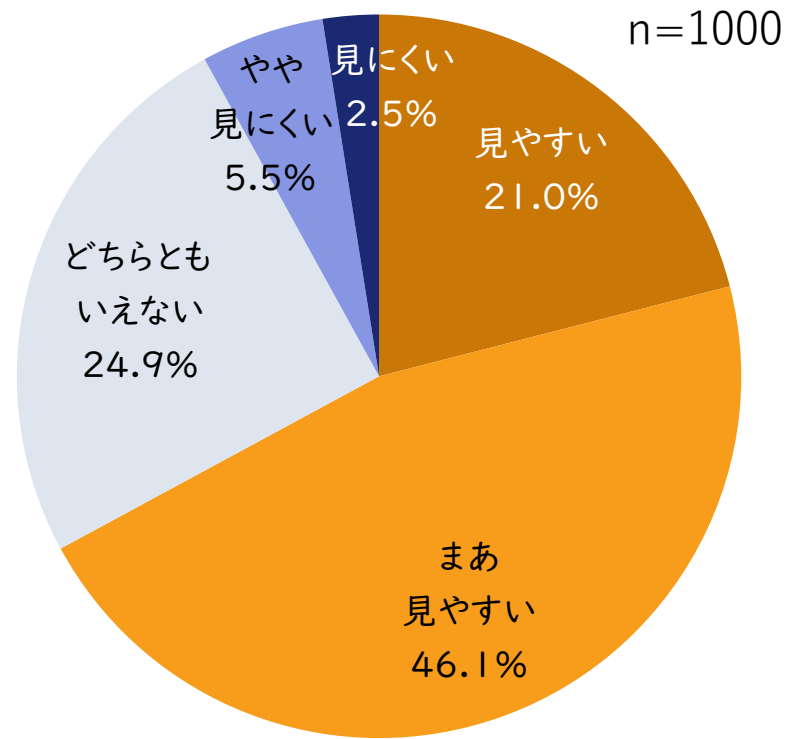
*値は以下の割合
「あてはまる」



ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」の見やすさ

Q25_1 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」は、見やすかったですか。 (SA)

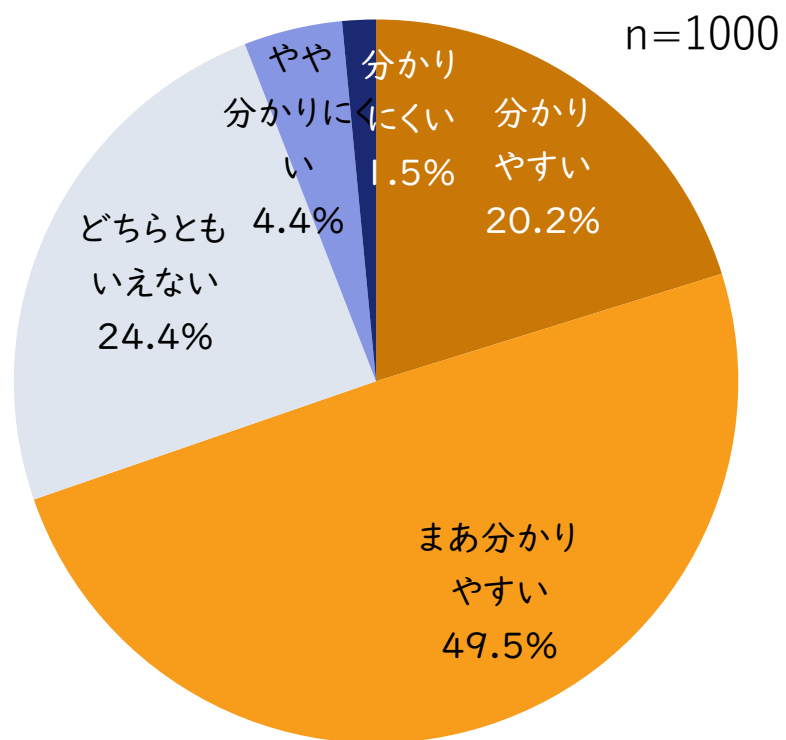
- 「見やすい」は21.0%。「まあ見やすい」(46.1%)を合計すると67.1%。
- 「見にくい」は、2.5%。「やや見にくい」(5.5%)を合計すると9.0%。



ウェブサイトの「内容」の分かりやすさ

Q25_2 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「内容」は、分かりやすかったですか。 (SA)

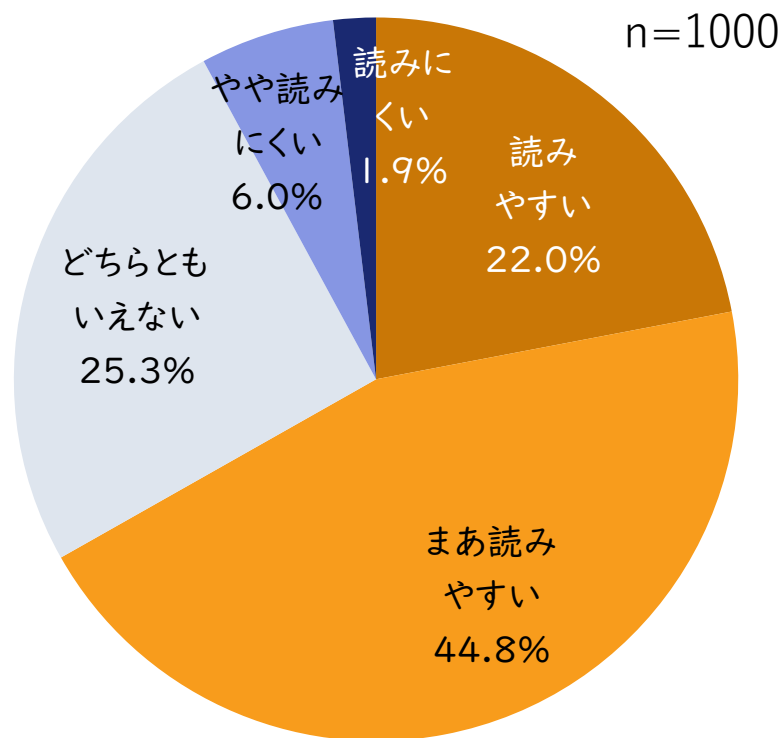
- 「分かりやすい」は20.2%。「まあ分かりやすい」(49.5%)を合計すると69.7%。
- 「分かりにくい」は、1.5%。「やや分かりにくい」(4.4%)を合計すると5.9%。



ウェブサイトの「文章」の読みやすさ

Q25_3 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「文章」は、読みやすかったですか。 (SA)

- 「読みやすい」は22.0%。「まあ読みやすい」(44.8%)を合計すると66.8%。
- 「読みにくい」は、1.9%。「やや読みにくい」(6.0%)を合計すると7.9%。



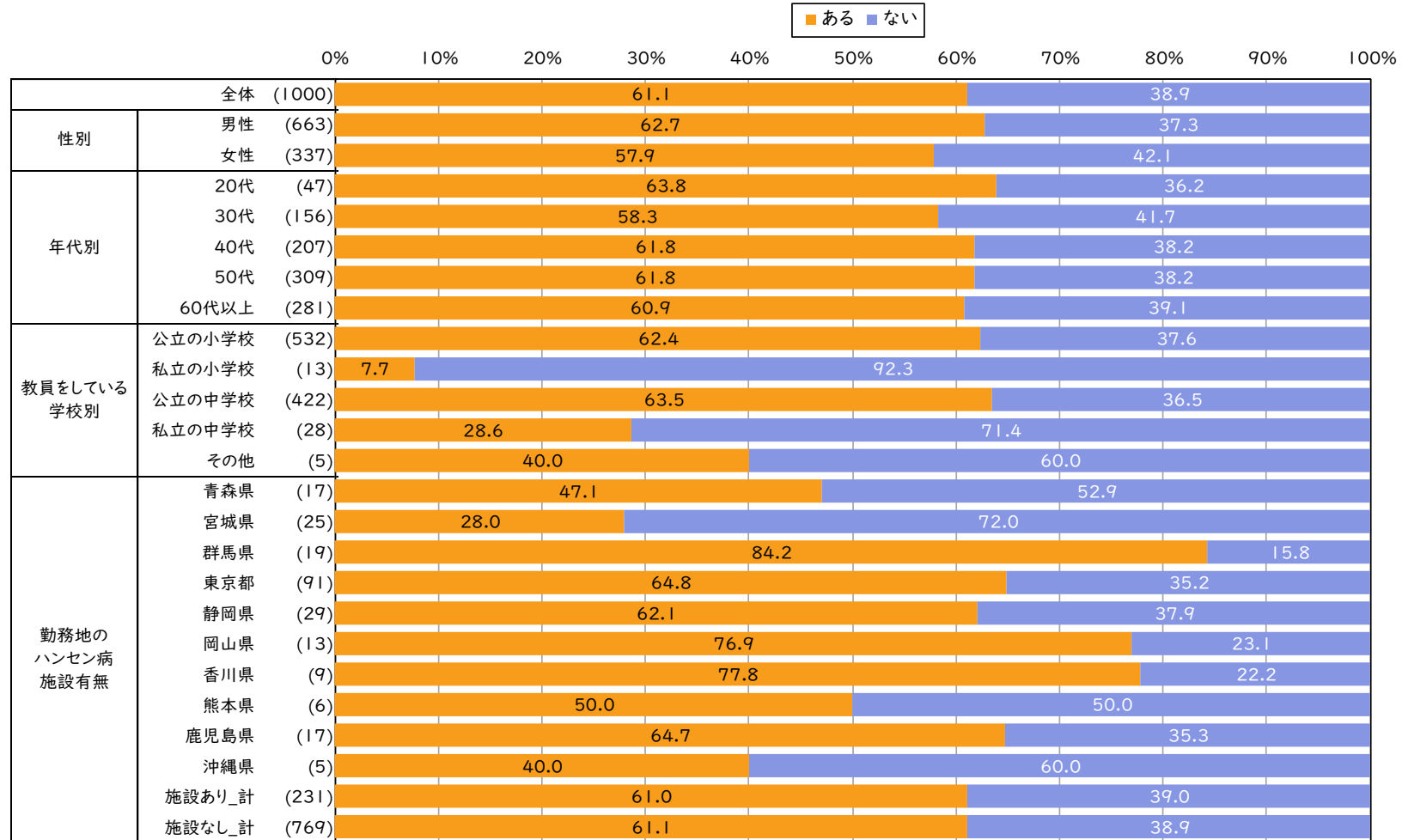
クロス集計結果 【Q5～Q24】

- ①属性別クロス： 性別、年代別、職業別、
教員をしている学校別、居住地のハンセン病施設有無別
- ②セグメント別クロス： ハンセン病問題に関する知識度別、
人権教育担当者向けの研修受講経験別、
授業等で取り上げたことのある人権問題別、
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別
- ※回答者(n)の母数が少ないものは、コメントの対象外にしています

人権教育担当者向けの研修受講経験【属性別】

Q5 あなたは、教員委員会などが実施している人権教育担当者向けの研修を受講されたことはありますか。 (SA)

- 性別、年代別、学校別で大きな差はみられない。また、勤務地の「施設あり」「施設なし」でも差はみられない。

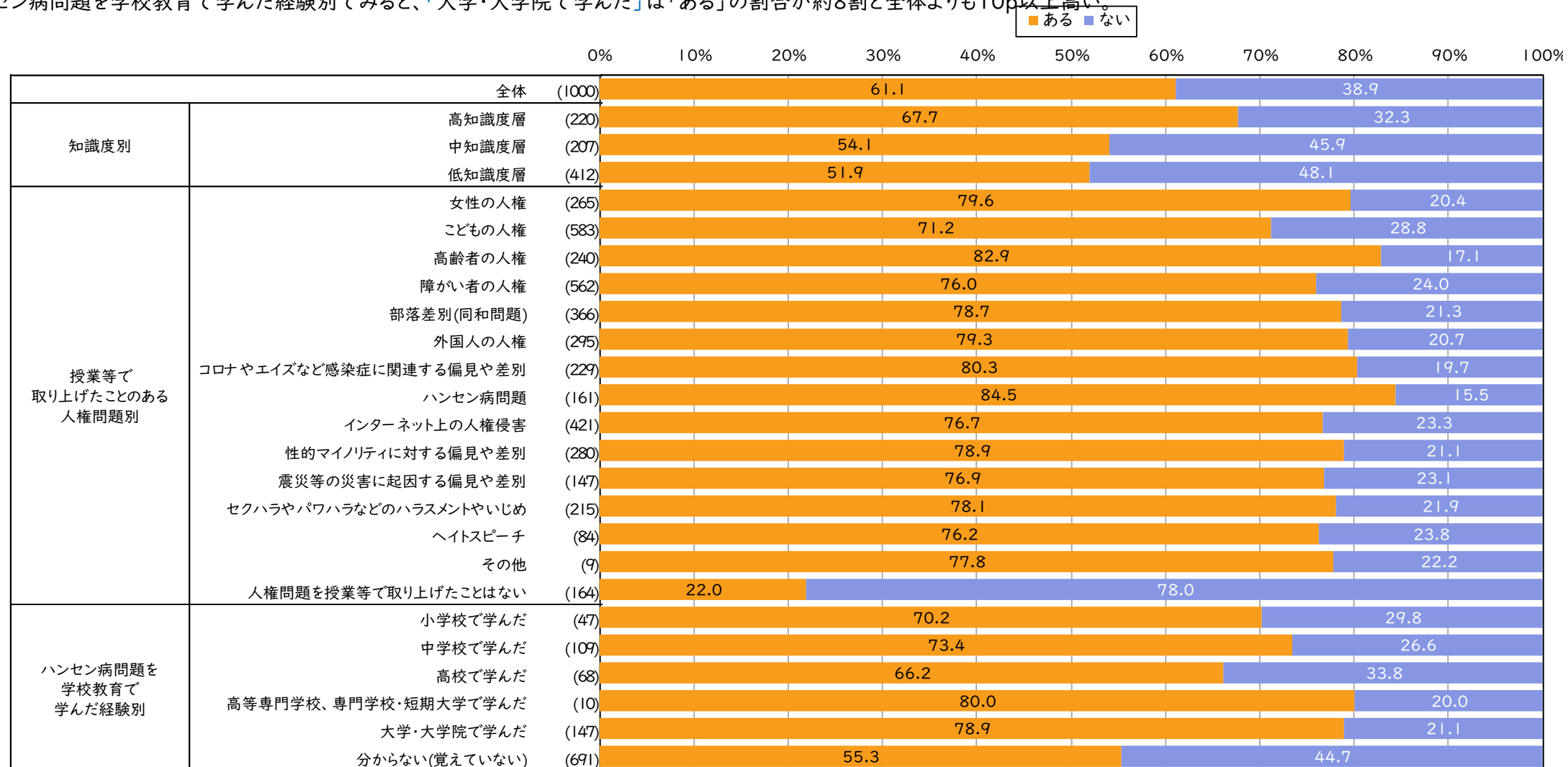


2%未満の数値ラベルは非表示

人権教育担当者向けの研修受講経験【セグメント別】 Q5×知識度、Q8、Q18

Q5 あなたは、教員委員会などが実施している人権教育担当者向けの研修を受講されたことはありますか。 (SA)

- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「大学・大学院で学んだ」は「ある」の割合が約8割と全体よりも10p以上高い。

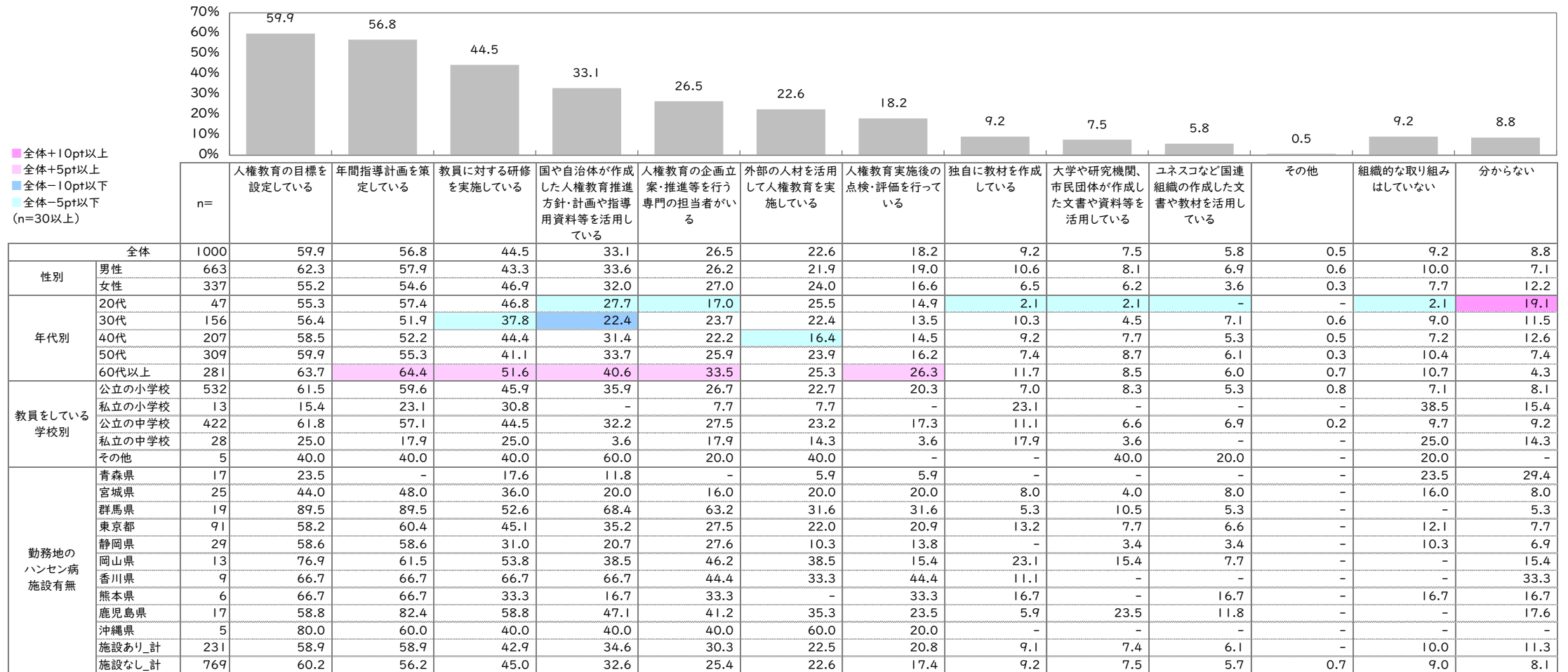


2%未満の数値ラベルは非表示

人権教育に関する組織的な取り組み状況【属性別】

Q6 あなたの学校では、人権教育に関する組織的な取り組みをされていますか。（「組織的な取り組みはしていない」「分からない」を除き、いくつでも）（MA）

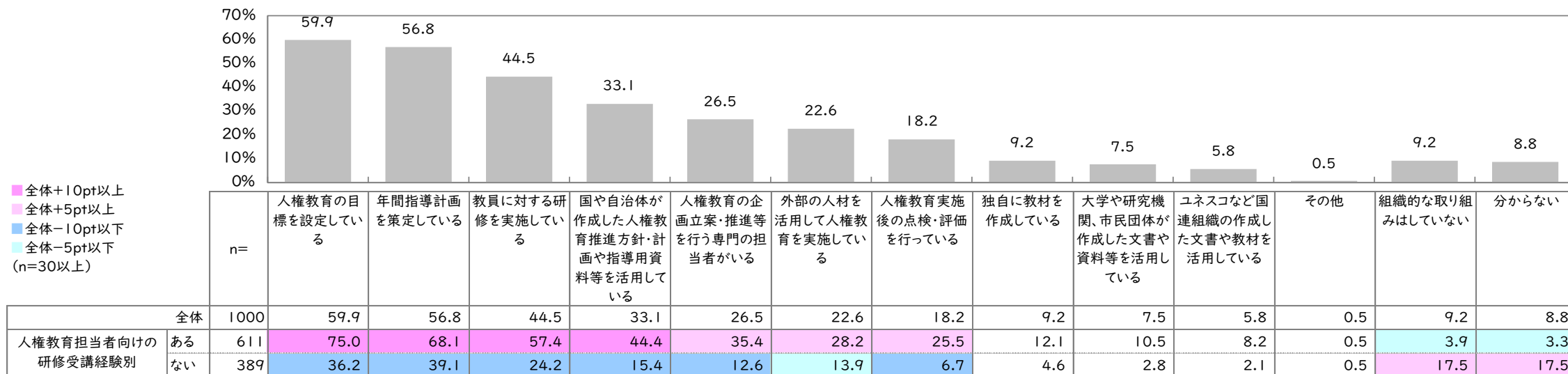
- 性別、学校別では、大きな差はみられない。年代別では「60代以上」が、他の年代に比べ、各項目に対する割合が高い。
- 施設別でみると、「施設あり」「施設なし」では差はみられない。



人権教育に関する組織的な取り組み状況【セグメント別】Q6×Q5

Q6 あなたの学校では、人権教育に関する組織的な取り組みをされていますか。（「組織的な取り組みはしていない」「分からない」を除き、いくつでも）（MA）

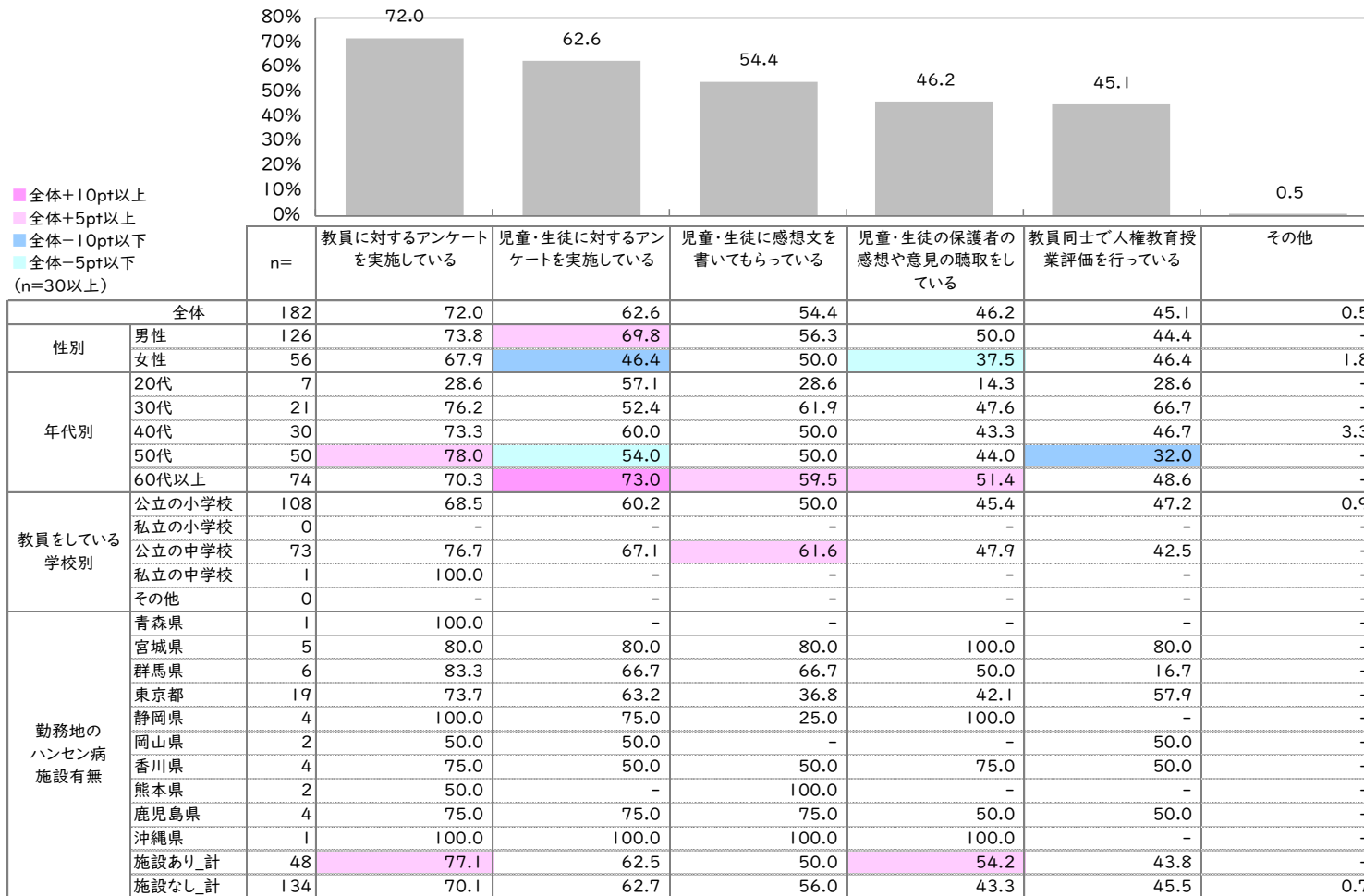
- 人権教育担当者向けの研修受講経験別で見ると、「ある」ほうが、すべての項目で割合が高い。特に、「人権教育の目標を設定している」「年間指導計画を策定している」「教員に対する研修を実施している」「国や自治体が作成した人権教育推進方針・計画や指導用資料等を活用している」は、全体よりも10p以上高い。



人権教育実施後の目標の達成度の把握方法【属性別】

Q7 人権教育に関する組織的な取り組みについて、「人権教育実施後の点検・評価を行っている」と回答した方にお伺いします。あなたの学校では、人権教育実施後の目標の達成度(点検・評価)をどのように把握されていますか。(いくつでも) (MA)

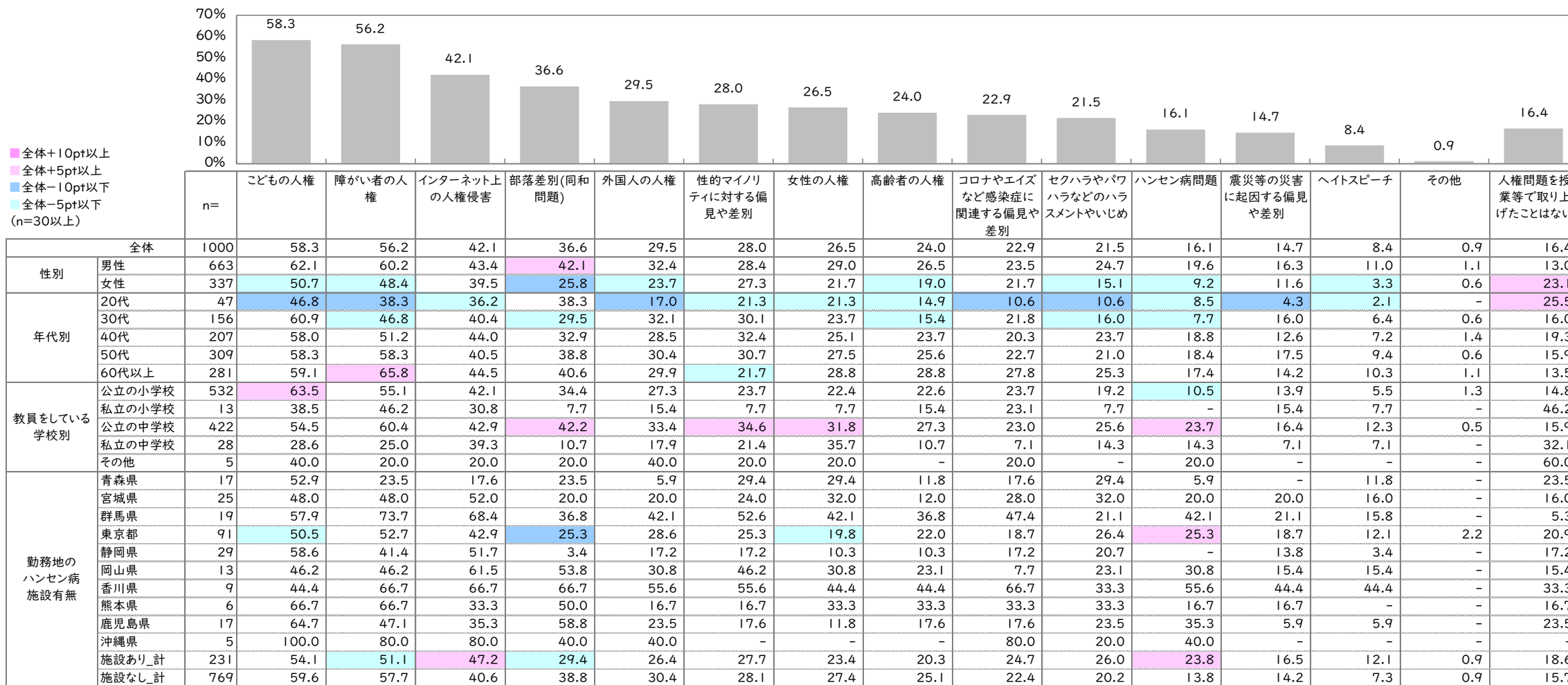
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、年代別では、「60代以上」で「児童・生徒に対するアンケートを実施している」の割合が全体よりも10p以上高い。



授業等で取り上げたことのある人権問題【属性別】

Q8 あなたご自身が、授業等で取り上げたことのある人権問題がありますか。（「人権問題を授業等で取り上げたことはない」を除き、いくつでも）（MA）

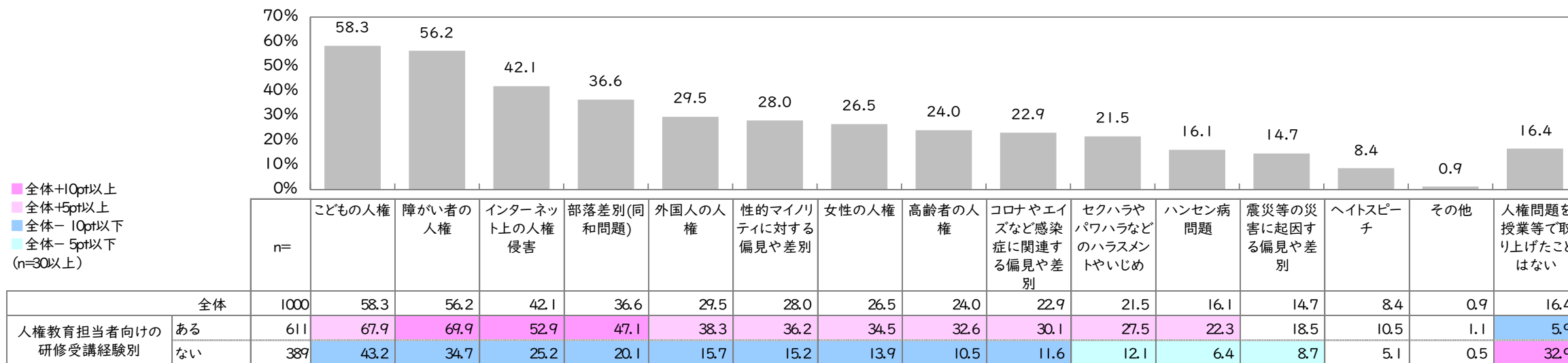
- 「ハンセン病問題」を授業で取り上げた割合は、年代別では、「30代」が40代以上に比べて10P以上低い。
- 「ハンセン病問題」を授業で取り上げた割合は、学校別では「公立の中学校」が「公立の小学校」よりも10P以上高く、施設別では「施設あり」のほうが「施設なし」よりも10P高い。



授業等で取り上げたことのある人権問題【セグメント別】Q8×Q5

Q8 あなたご自身が、授業等で取り上げたことのある人権問題がありますか。（「人権問題を授業等で取り上げたことはない」を除き、いくつでも）（MA）

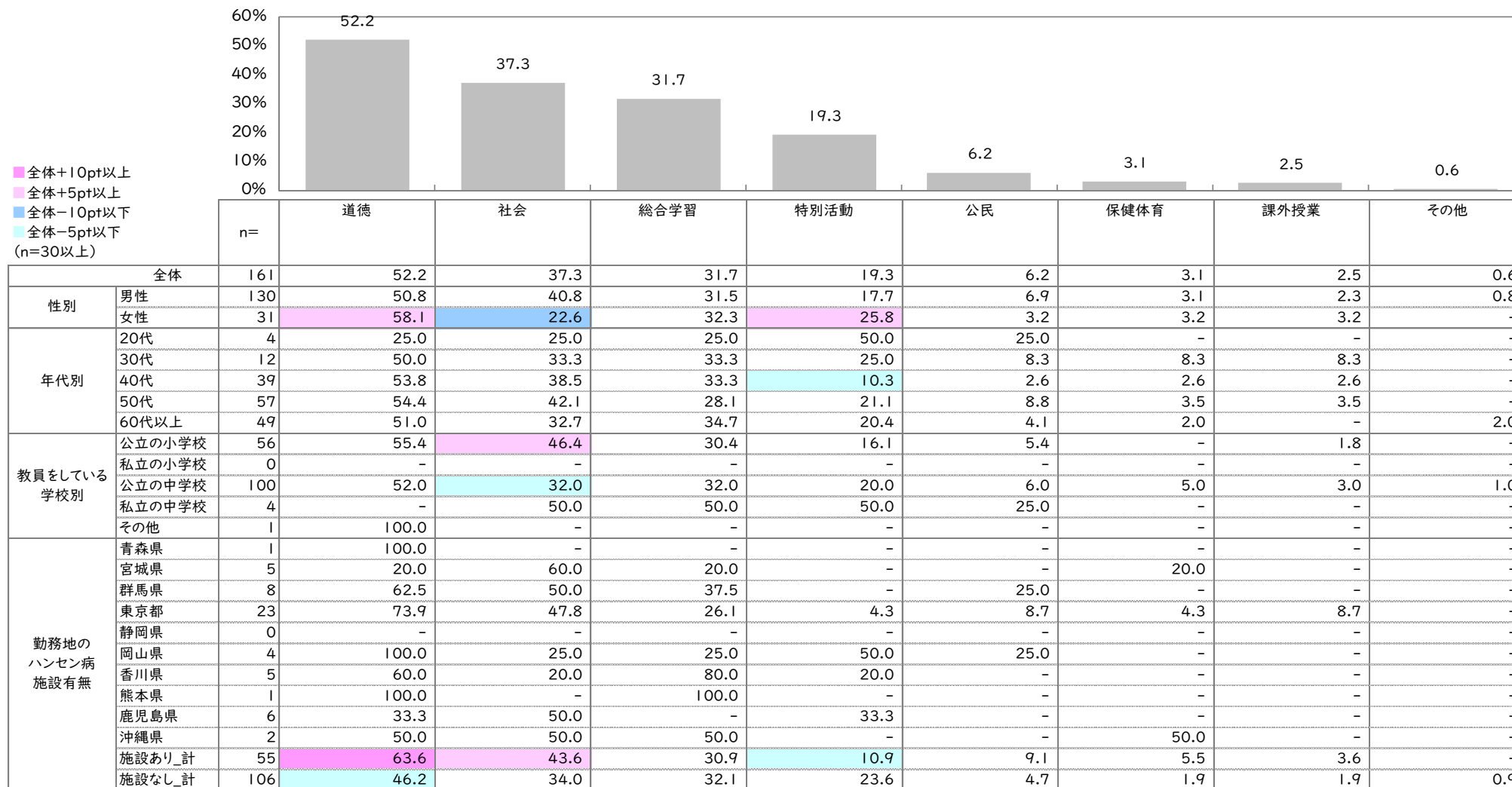
- 人権教育担当者向けの研修受講経験別で見ると、すべての人権問題について、「ある」は全体よりも割合が高く、特に、「インターネット上の人権侵害」「障がい者の人権」「部落差別(同和問題)」は全体よりも10p以上高い。
- 「ハンセン病問題」を授業で取り上げた割合は、受講経験が「ある」では22.3%、「ない」では6.4%で、「ある」のほうが約16P高い。
- 受講経験の「ない」人の約3割は、「人権問題を授業で取り上げたことはない」。



ハンセン病問題のことを教えた授業科目【属性別】

Q9_1 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、ハンセン病問題のことをどの授業科目の中で教えましたか。(いくつでも) (MA)

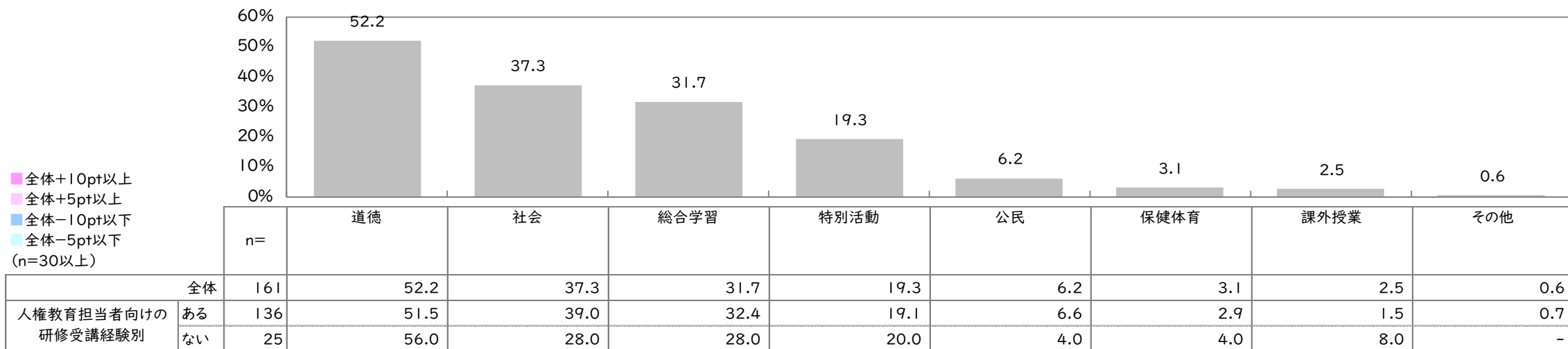
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、施設別では「施設あり」は「道徳」の割合が全体よりも10P以上高く、「施設なし」は5P以上低い。



ハンセン病問題のことを教えた授業科目【セグメント別】Q9×Q5

Q9_1 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、ハンセン病問題のことをどの授業科目の中で教えましたか。(いくつでも) (MA)

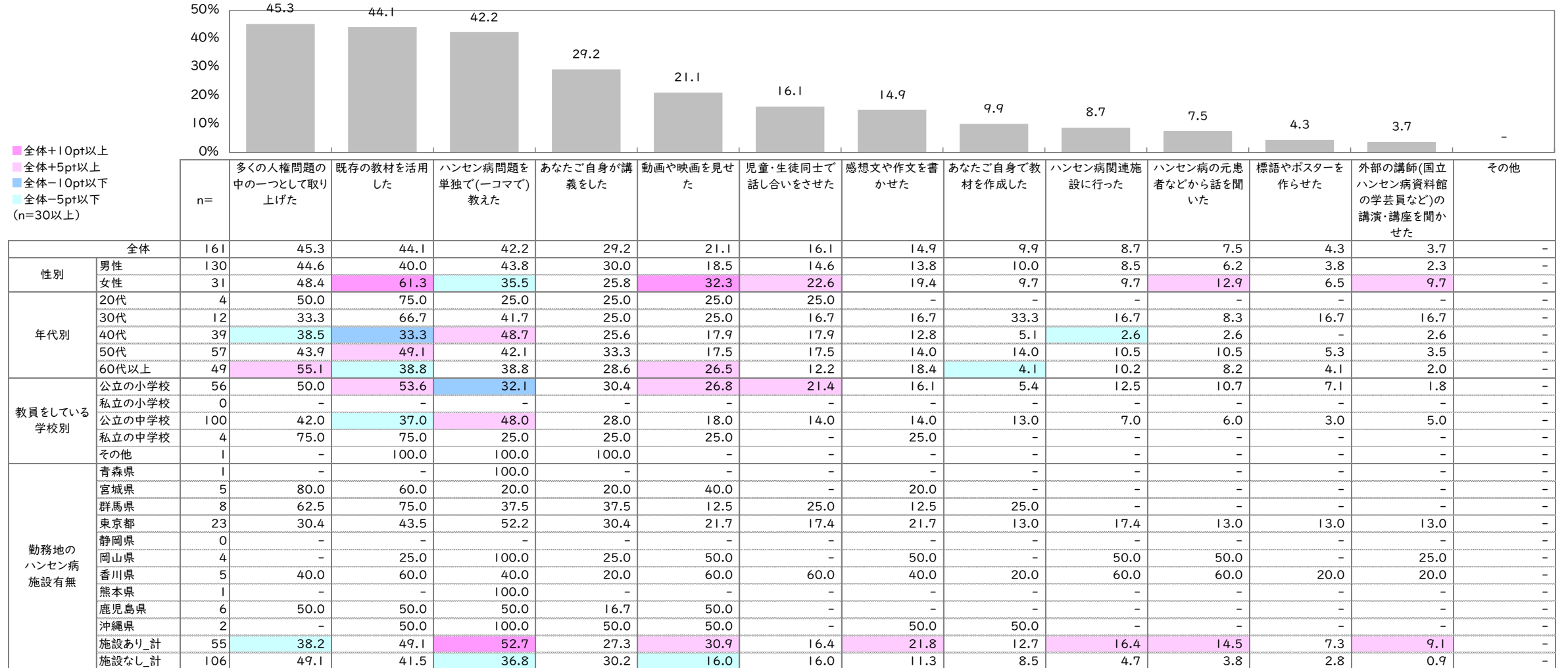
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、大きな差はみられない。



ハンセン病問題の教え方【属性別】

Q9_2 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、ハンセン病問題のことをどのような内容で教えましたか。(いくつでも) (MA)

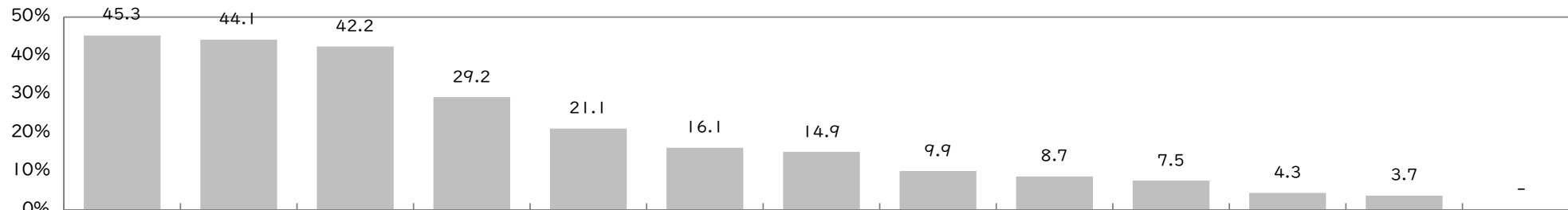
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、施設別では「ハンセン病問題を単独で(一コマで)教えた」は「施設あり」の割合が全体よりも10P以上高く、「施設なし」は5P以上低い。



ハンセン病問題の教え方【セグメント別】Q9_2×Q5

Q9_2 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、ハンセン病問題のことをどのような内容で教えましたか。(いくつでも) (MA)

- 母数が少ないため単純な比較はできないが、大きな差はみられない。



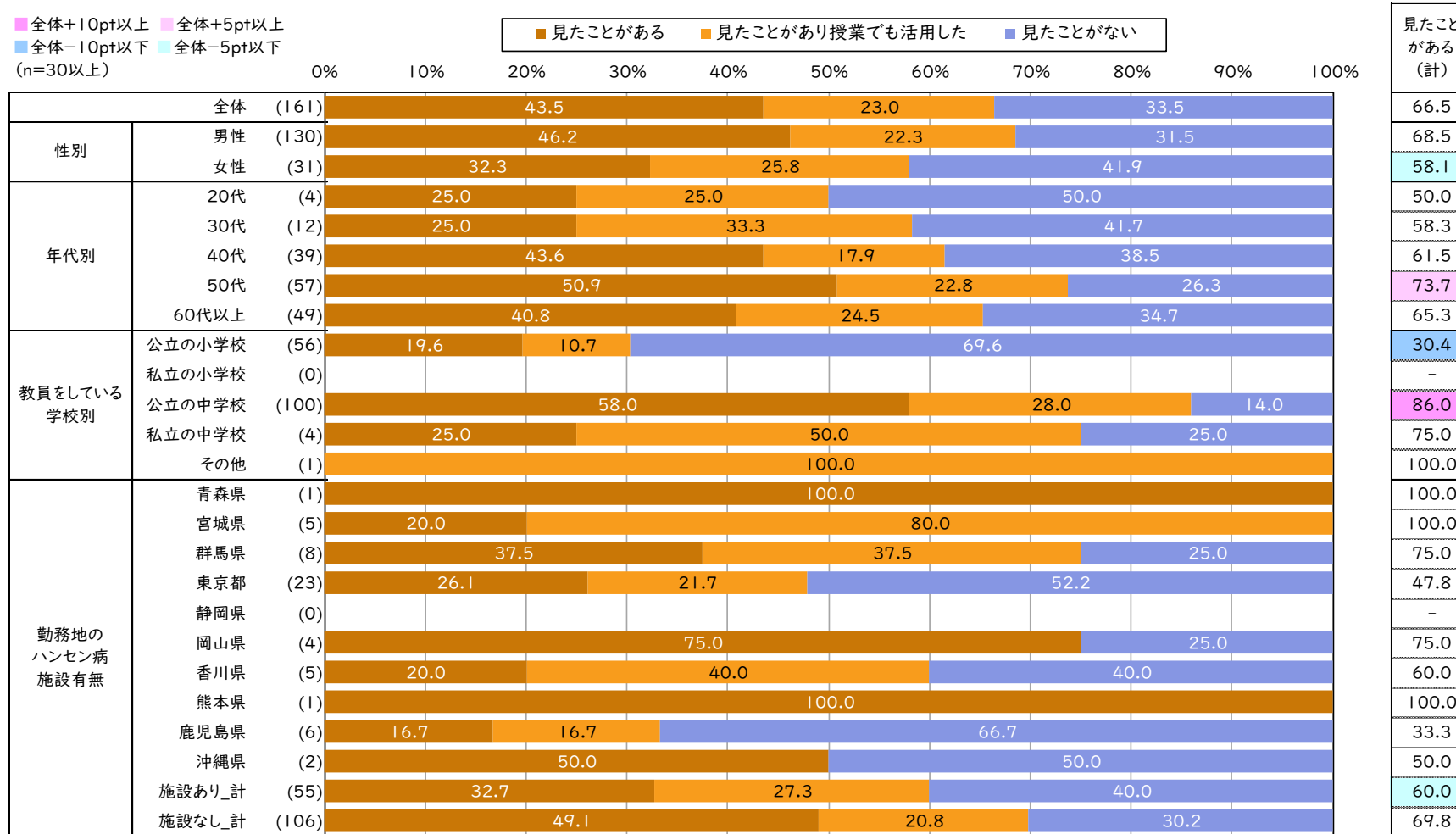
■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下
■ 全体-5pt以下
 (n=30以上)

		n=	多くの人権問題の中の一つとして取り上げた	既存の教材を活用した	ハンセン病問題を単独で(一コマで)教えた	あなたご自身が講義をした	動画や映画を見せた	児童・生徒同士で話し合いをさせた	感想文や作文を書かせた	あなたご自身で教材を作成した	ハンセン病関連施設に行った	ハンセン病の元患者などから話を聞いた	標語やポスターを作らせた	外部の講師(国立ハンセン病資料館の学芸員など)の講演・講座を聞かせた	その他
全体		161	45.3	44.1	42.2	29.2	21.1	16.1	14.9	9.9	8.7	7.5	4.3	3.7	-
人権教育担当者向けの研修受講経験別	ある	136	46.3	42.6	44.1	29.4	20.6	16.2	14.0	8.8	9.6	8.1	5.1	2.9	-
	ない	25	40.0	52.0	32.0	28.0	24.0	16.0	20.0	16.0	4.0	4.0	-	8.0	-

中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見た経験【属性別】

Q10 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見たことがありますか。 (SA)

- 母数が少ないため単純な比較はできないが、学校別では「公立の中学校」は「見たことがある」の割合が86%で、全体よりも20p高い。

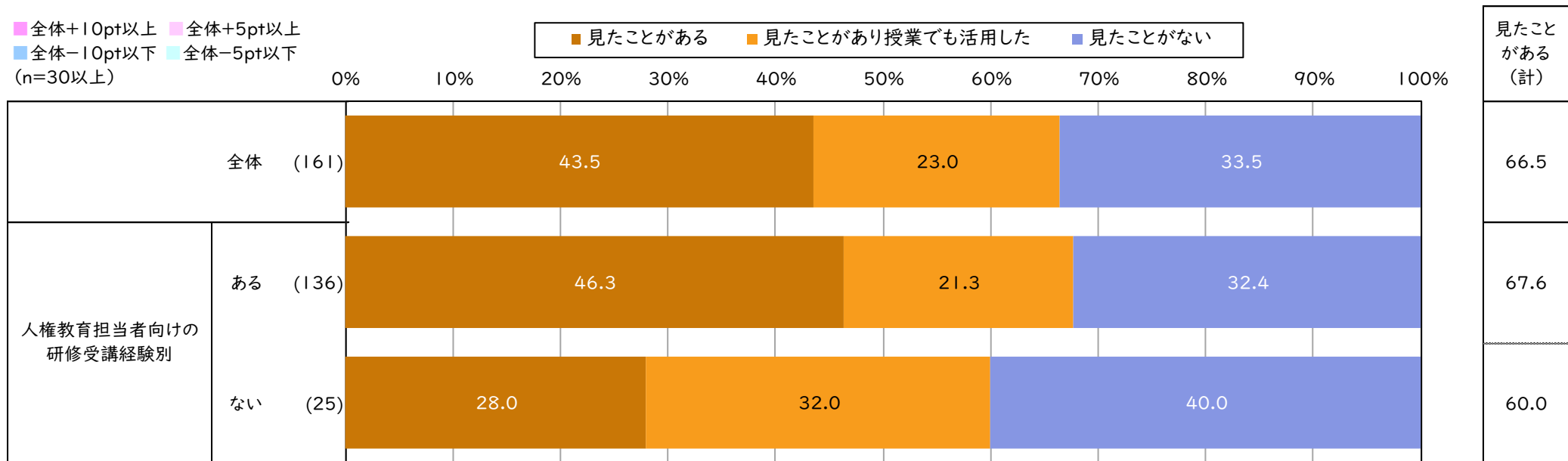


2%未満の数値ラベルは非表示

中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見た経験【セグメント別】Q10×Q5

Q10 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたは、中学生向けパンフレット「ハンセン病の向こう側」を見たことがありますか。 (SA)

- 母数が少ないため単純な比較はできないが、研修受講経験別では「ある」は「見たことがある」46.3%に対し、「ない」は28%。一方「見たことがあり授業でも活用した」は「ある」が21.3%に対し、「ない」は32%となっている。

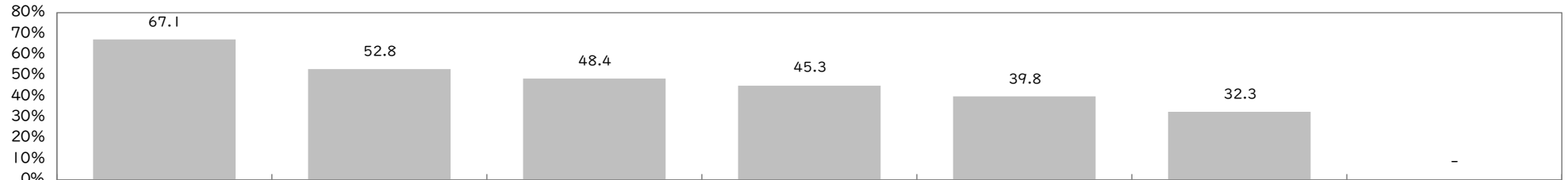


2%未満の数値ラベルは非表示

ハンセン病問題の授業での「目標」「ねらい」【属性別】

Q11 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたがハンセン病問題の授業で「目標」「ねらい」としたことは何ですか。(いくつかでも) (MA)

- 母数が少ないため単純な比較はできないが(以下同様)、性別でみると、「女性」はほとんどの項目の割合が全体よりも高い。
- 年代別でみると、「60代以上」は「児童・生徒が、ハンセン病に関する正しい知識を身につけるとともに、かつて国が行った隔離政策の問題点や、その政策がもたらした偏見・差別の実態を理解すること」「児童・生徒が、偏見や差別が生まれる背景には、「正しい知識の不足」「病気に對する不安や恐怖」などがあることに気づき、自分自身も無意識に差別する側に立ってしまう可能性があることを考えること」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 学校別でみると、「公立の小学校」は「児童・生徒が、ハンセン病に限らず、新型コロナウイルスやHIVなど他の感染症においても、誤った情報の拡散が差別やいじめにつながることを理解し、情報との向き合い方を見直すこと」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 施設別でみると、「施設あり」は「児童・生徒が、ハンセン病患者・回復者やその家族の思いや願いを知ることで、彼らが置かれてきた立場や苦しみに共感し、歴史的背景を踏まえた人権問題として捉える力を養うこと」の割合が全体よりも10p以上高い。

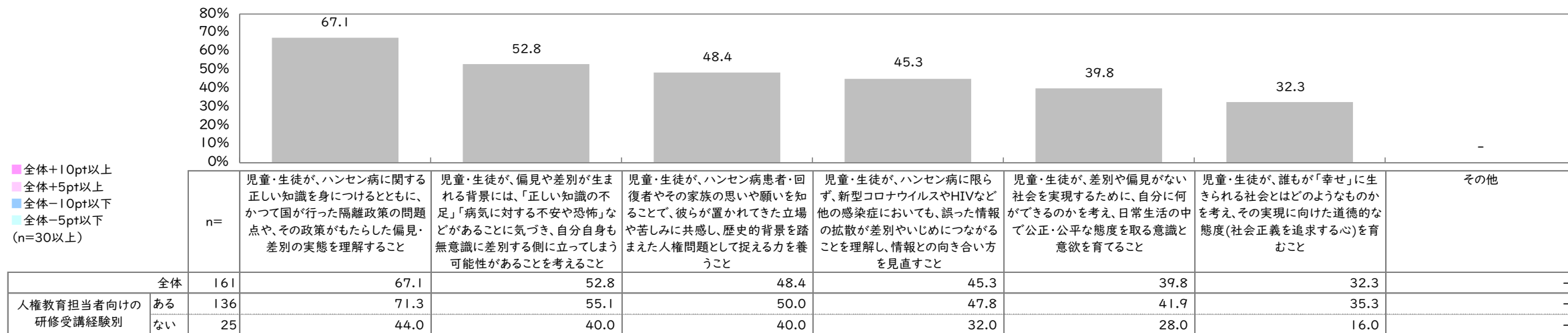


		n=	児童・生徒が、ハンセン病に関する正しい知識を身につけるとともに、かつて国が行った隔離政策の問題点や、その政策がもたらした偏見・差別の実態を理解すること	児童・生徒が、偏見や差別が生まれる背景には、「正しい知識の不足」「病気に對する不安や恐怖」などがあることに気づき、自分自身も無意識に差別する側に立ってしまう可能性があることを考えること	児童・生徒が、ハンセン病患者・回復者やその家族の思いや願いを知ることで、彼らが置かれてきた立場や苦しみに共感し、歴史的背景を踏まえた人権問題として捉える力を養うこと	児童・生徒が、ハンセン病に限らず、新型コロナウイルスやHIVなど他の感染症においても、誤った情報の拡散が差別やいじめにつながることを理解し、情報との向き合い方を見直すこと	児童・生徒が、差別や偏見がない社会を実現するために、自分に何ができるのかを考え、日常生活の中で公正・公平な態度を取る意識と意欲を育てること	児童・生徒が、誰もが「幸せ」に生きられる社会とはどのようなものかを考え、その実現に向けた道徳的な態度(社会正義を追求する心)を育むこと	その他
全体		161	67.1	52.8	48.4	45.3	39.8	32.3	-
性別	男性	130	64.6	49.2	46.2	41.5	34.6	29.2	-
	女性	31	77.4	67.7	58.1	61.3	61.3	45.2	-
年代別	20代	4	25.0	75.0	-	25.0	25.0	25.0	-
	30代	12	58.3	33.3	75.0	50.0	41.7	33.3	-
	40代	39	66.7	43.6	46.2	35.9	30.8	33.3	-
	50代	57	63.2	52.6	42.1	45.6	38.6	29.8	-
	60代以上	49	77.6	63.3	55.1	53.1	49.0	34.7	-
教員をしている学校別	公立の小学校	56	58.9	50.0	48.2	55.4	37.5	35.7	-
	私立の小学校	0	-	-	-	-	-	-	-
	公立の中学校	100	72.0	54.0	49.0	42.0	41.0	31.0	-
	私立の中学校	4	75.0	75.0	25.0	-	25.0	25.0	-
	その他	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-
勤務地のハンセン病施設有無	青森県	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	宮城県	5	60.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	-
	群馬県	8	87.5	75.0	75.0	75.0	62.5	75.0	-
	東京都	23	60.9	52.2	65.2	47.8	34.8	34.8	-
	静岡県	0	-	-	-	-	-	-	-
	岡山県	4	75.0	75.0	50.0	25.0	100.0	25.0	-
	香川県	5	80.0	100.0	80.0	100.0	100.0	80.0	-
	熊本県	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-
	鹿児島県	6	83.3	50.0	33.3	33.3	33.3	-	-
	沖縄県	2	100.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-
	施設あり_計	55	70.9	56.4	61.8	49.1	47.3	38.2	-
	施設なし_計	106	65.1	50.9	41.5	43.4	35.8	29.2	-

ハンセン病問題の授業での「目標」「ねらい」【セグメント別】Q11×Q5

Q11 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたがハンセン病問題の授業で「目標」「ねらい」としたことは何ですか。(いくつでも) (MA)

- 母数が少ないため単純な比較はできないが、研修受講経験別で見ると、いずれの項目も「ある」のほうが、「ない」よりも高い。



ハンセン病問題の授業で取り上げた内容【属性別】

Q12 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。ハンセン病問題の授業で、あなたが取り上げた内容は何ですか。(いくつかでも) (MA)

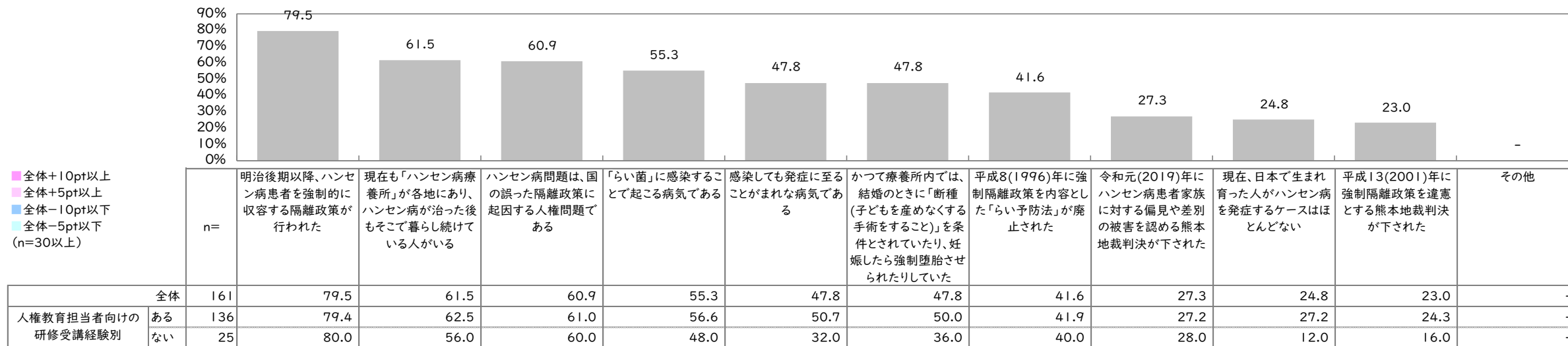
- 母数が少ないため単純な比較はできないが(以下同様)、年代別で見ると、「60代以上」は「ハンセン病問題は、国の誤った隔離政策に起因する人権問題である」「かつて療養所内では、結婚のときに「断種(子どもを産めなくする手術をすること)」を条件とされていたり、妊娠したら強制堕胎させられたりしていた」「平成8(1996)年に強制隔離政策を内容とした「らい予防法」が廃止された」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 施設別で見ると、「施設あり」は「現在も「ハンセン病療養所」が各地にあり、ハンセン病が治った後もそこで暮らし続けている人がいる」「かつて療養所内では、結婚のときに「断種(子どもを産めなくする手術をすること)」を条件とされていたり、妊娠したら強制堕胎させられたりしていた」「令和元(2019)年にハンセン病患者家族に対する偏見や差別の被害を認める熊本地裁判決が下された」の割合が全体よりも10p以上高い。



ハンセン病問題の授業で取り上げた内容【セグメント別】Q12×Q5

Q12 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。ハンセン病問題の授業で、あなたが取り上げた内容は何か。(いくつでも) (MA)

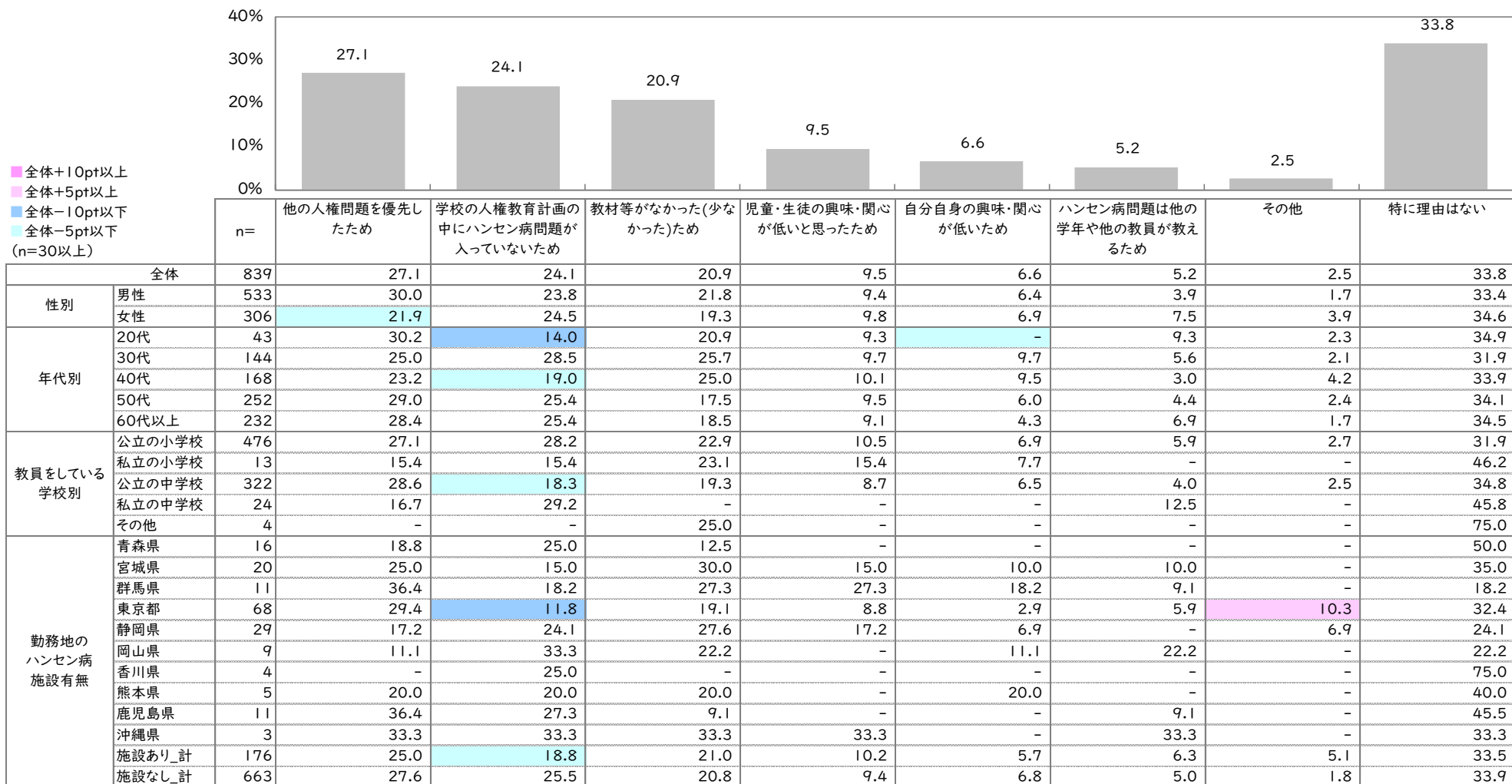
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、研修受講経験別にみると、「隔離政策が行われた」「国の誤った隔離政策に起因する人権問題である」「平成8年にらい予防法が廃止された」「令和元年の熊本地裁判決」については差がないが、「現在もハンセン療養所に暮らし続けている人がいる」「らい菌に感染することで起こる病気である」「かつては断種や強制墮胎させられていた」「現在日本では発症するケースはほとんどない」「熊本地裁判決」については、「ある」の割合が高い。



ハンセン病問題を取り上げなかった理由【属性別】

Q14 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。あなたが、ハンセン病問題を取り上げなかった理由は何ですか。（「特に理由はない」を除き、いくつでも）（MA）

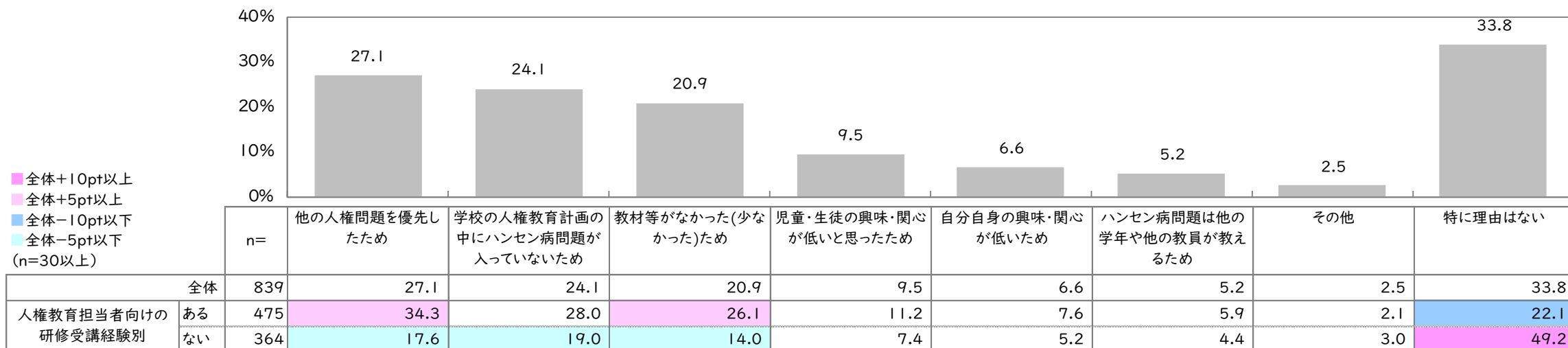
- 「学校の人権教育計画の中にハンセン病問題が入っていないため」は、全体では24.1%で2番目に多い理由となっているが、「40代」「公立の中学校」「施設あり」では20%を下回る。これらの層では、全体では3位の「教材等がなかった」の割合のほうが高い。



ハンセン病問題を取り上げなかった理由【セグメント別】Q14×Q5

Q14 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。あなたが、ハンセン病問題を取り上げなかった理由は何ですか。（「特に理由はない」を除き、いくつでも）（MA）

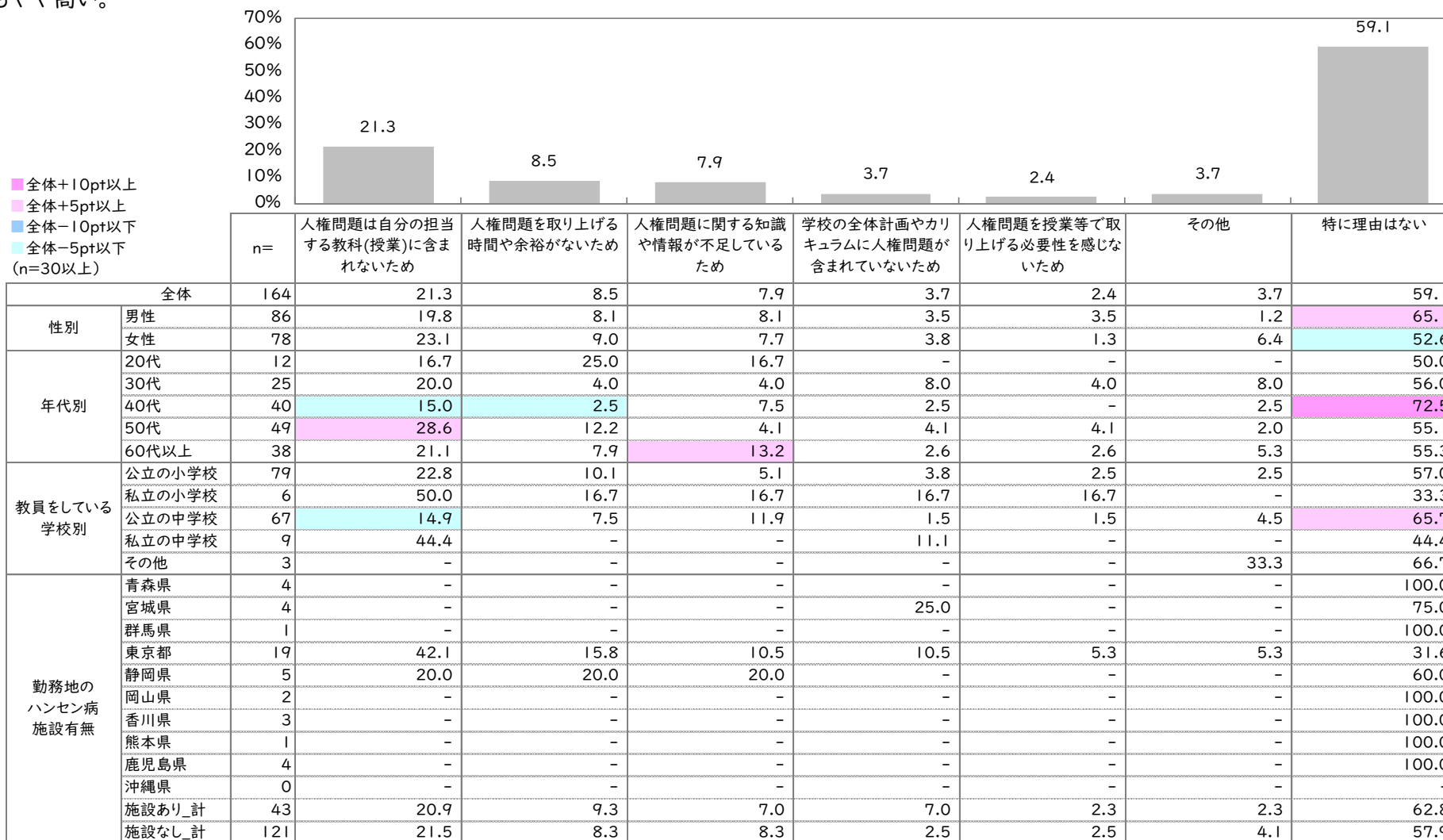
- 研修受講経験別で見ると、いずれの項目においても「ある」ほうが高い。
- 受講経験が「ない」では、約5割が「特に理由がない」。



人権問題を授業等で取り上げなかった理由【属性別】

Q15 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。あなたが、人権問題を授業等で取り上げなかった理由は何ですか。(「特に理由はない」を除き、いくつでも) (MA)

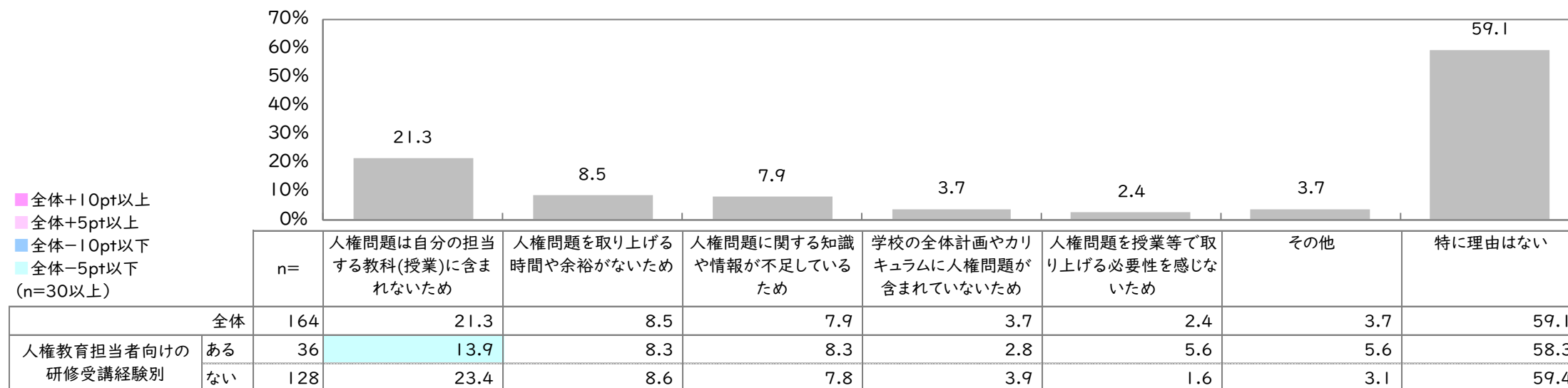
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、「50代」は「人権問題は自分の担当する教科(授業)に含まれないため」、「60代以上」は「人権問題に関する知識や情報が不足しているため」の割合が、全体よりもやや高い。



人権問題を授業等で取り上げなかった理由【セグメント別】Q15×Q5

Q15 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。あなたが、人権問題を授業等で取り上げなかった理由は何ですか。（「特に理由はない」を除き、いくつでも）（MA）

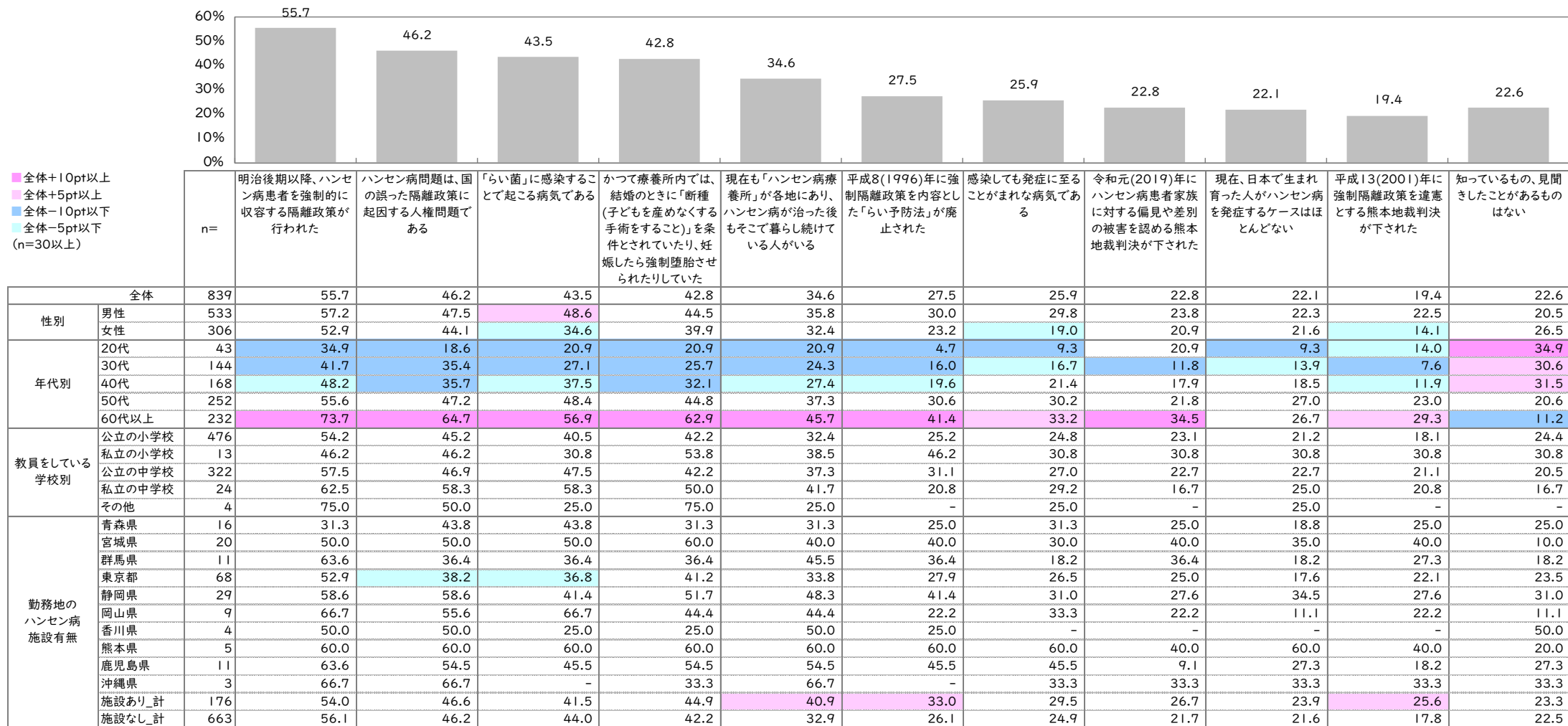
- 母数が少ないため単純な比較はできないが、研修受講経験別でみると、「ある」は「人権問題は自分の担当する教科(授業)に含まれないため」が13.9%で、「ない」(23.4%)と比べてかなり低い。



ハンセン病問題に関して知っているもの、見聞きしたことがあるもの【属性別】

Q16 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがない または 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。ハンセン病(問題)に関する以下の記述のうち、あなたが知っているもの、見聞きしたことがあるものはどれですか。(「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を除き、いくつでも) (MA)

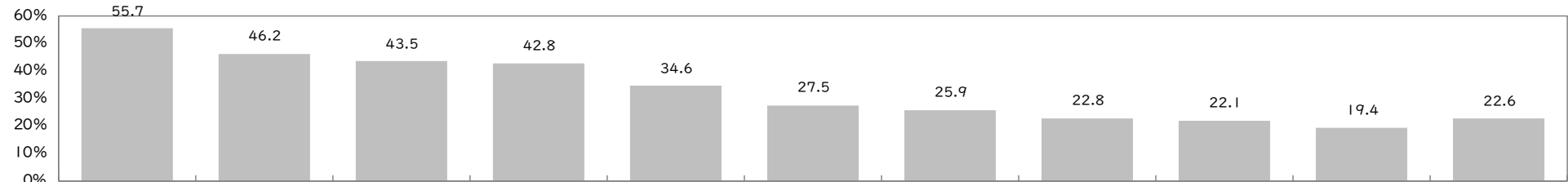
- 年代別で見ると、「60代以上」はほとんどの項目の割合が全体よりも高い。
- 施設別で見ると、「施設あり」は「ハンセン病施設に暮らし続けている人がいる」「平成8年にらい予防法が廃止された」「平成13年に熊本地裁判決が下された」の割合が「施設なし」よりも高い。



ハンセン病問題に関して知っているもの、見聞きしたことがあるもの【セグメント別】Q16×Q5、Q9、Q18

Q16 人権問題として、ハンセン病問題を授業で取り上げたことがない または 人権問題を授業で取り上げたことがないと回答した方にお伺いします。ハンセン病(問題)に関する以下の記述のうち、あなたが知っているもの、見聞きしたことがあるものはどれですか。(「知っているもの、見聞きしたことがあるものはない」を除き、いくつでも) (MA)

- ・ 研修受講経験別にみると、「ある」のほうが、すべての項目で「ない」に比べて割合が高い。
- ・ 授業で取り上げた人権問題別にみると、すべての項目で全体よりも割合が高い。一方、「人権問題を取り上げたことはない」は、すべての項目で全体の割合を大きく下回る。
- ・ ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「大学・大学院で学んだ」は、すべての項目で全体の割合を上回る。「分からない(覚えていない)」は、ほぼすべての項目で全体の割合を下回る。



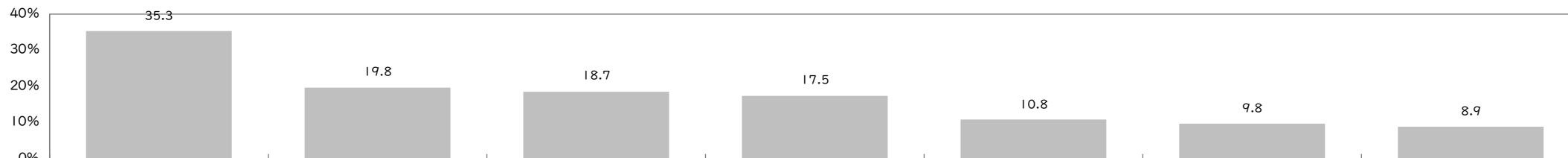
		n=	55.7	46.2	43.5	42.8	34.6	27.5	25.9	22.8	22.1	19.4	22.6	
全体		839	55.7	46.2	43.5	42.8	34.6	27.5	25.9	22.8	22.1	19.4	22.6	
人権教育担当者の研修受講経験別	ある	475	59.6	49.9	47.6	47.4	39.2	32.0	29.1	29.1	26.3	24.2	18.1	
	ない	364	50.5	41.5	38.2	36.8	28.6	21.7	21.7	14.6	16.5	13.2	28.6	
授業等で取り上げたことのある人権問題別	女性の人権	170	67.1	57.1	56.5	53.5	46.5	35.9	35.3	32.9	28.8	28.2	11.2	
	子どもの人権	466	59.7	48.7	45.1	45.1	39.1	30.3	31.1	27.0	24.9	22.3	16.5	
	高齢者の人権	154	64.9	56.5	49.4	48.1	46.8	36.4	33.1	30.5	29.2	29.9	12.3	
	障がい者の人権	421	67.5	57.2	53.7	50.6	44.4	34.4	32.5	29.0	29.0	26.1	10.2	
	部落差別(同和問題)	237	68.4	56.1	55.3	50.6	46.8	37.6	34.6	29.1	26.6	27.8	13.5	
	外国人の人権	192	66.1	58.9	51.6	53.6	43.8	35.4	37.0	31.3	25.0	29.2	12.5	
	コロナやエイズなど感染症に関連する偏見や差別	134	70.1	61.2	51.5	59.0	45.5	41.0	30.6	37.3	26.9	29.9	9.7	
	ハンセン病問題	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	インターネット上の人権侵害	300	72.3	64.7	53.3	55.7	47.3	40.3	34.0	35.7	29.7	30.3	10.0	
	性的マイノリティに対する偏見や差別	181	68.5	61.9	55.8	58.6	45.9	32.0	36.5	34.8	28.2	28.7	10.5	
	震災等の災害に起因する偏見や差別	79	67.1	57.0	50.6	48.1	41.8	45.6	32.9	39.2	26.6	32.9	11.4	
	セクハラやパワハラなどのハラスメントやいじめ	140	73.6	64.3	52.9	56.4	46.4	41.4	34.3	40.0	30.0	35.7	5.7	
	ヘイトスピーチ	37	56.8	67.6	40.5	48.6	37.8	32.4	35.1	40.5	21.6	29.7	10.8	
	その他	7	57.1	42.9	28.6	42.9	28.6	42.9	14.3	42.9	-	28.6	42.9	
人権問題を授業等で取り上げたことはない	164	34.8	30.5	23.8	28.7	18.3	13.4	14.0	9.8	12.2	7.9	51.2		
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別	小学校で学んだ	41	65.9	43.9	61.0	34.1	39.0	31.7	36.6	29.3	41.5	29.3	7.3	
	中学校で学んだ	95	62.1	47.4	53.7	40.0	41.1	27.4	33.7	27.4	24.2	24.2	7.4	
	高校で学んだ	57	63.2	50.9	49.1	43.9	35.1	36.8	36.8	26.3	26.3	24.6	7.0	
	高等専門学校・専門学校・短期大学で学んだ	8	37.5	50.0	37.5	12.5	25.0	12.5	50.0	12.5	-	12.5	12.5	
	大学・大学院で学んだ	116	63.8	61.2	56.0	52.6	44.8	40.5	37.1	29.3	25.9	25.9	6.0	
分からない(覚えていない)	580	53.3	44.0	39.8	42.1	32.4	25.7	22.6	21.0	22.1	17.8	29.5		

ハンセン病患者(元患者)や家族に対する考え【属性別】

Q17 ハンセン病患者(元患者)や家族に対する以下のような考え方について、あなたはどのように思いますか。 (SA)

- 年代別で見ると、「20代~40代」は「治療できるとしてもハンセン病は怖い病気だ」が40%超で全体より高い。30代は、すべての項目の割合が全体よりも高い。

*値は以下の合計値
「そう思う」
「どちらかといえばそう思う」



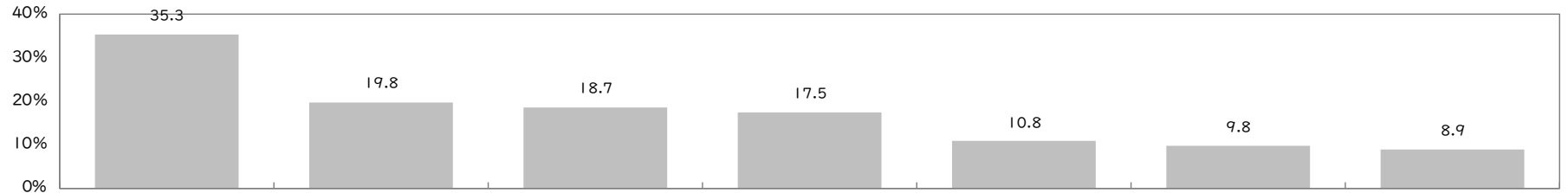
		n=	治療できるとしてもハンセン病は怖い病気だ	ハンセン病患者を強制的に療養所に隔離してきたことは、やむを得ない措置だった	ハンセン病元患者(回復者)にとっては、療養所で暮らすほうが療養所の外で暮らすよりもよい	ハンセン病元患者(回復者)の家族と、自分の家族が結婚することは抵抗がある	ハンセン病元患者(回復者)の宿泊を「他の客に迷惑になる」ことを理由に拒否した事件について、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	ハンセン病元患者(回復者)と同じ職場で働いたり一緒に食事をしたりすることは抵抗がある	ハンセン病元患者(回復者)や家族に対して、市民が差別や排除意識を抱くのは仕方ないことだ
全体		1000	35.3	19.8	18.7	17.5	10.8	9.8	8.9
性別	男性	663	31.5	19.8	19.8	17.8	11.9	10.9	10.9
	女性	337	42.7	19.9	16.6	16.9	8.6	7.7	5.0
年代別	20代	47	48.9	19.1	25.5	17.0	10.6	8.5	2.1
	30代	156	42.9	23.1	21.8	21.2	14.1	18.6	12.2
	40代	207	43.5	20.3	19.8	15.5	8.7	7.2	7.2
	50代	309	27.5	18.1	19.7	15.5	11.3	9.4	9.1
	60代以上	281	31.3	19.6	13.9	19.2	10.0	7.5	9.3
居住地のハンセン病施設有無	青森県	21	61.9	38.1	38.1	23.8	33.3	23.8	28.6
	宮城県	25	52.0	20.0	24.0	32.0	8.0	8.0	-
	群馬県	21	14.3	19.0	23.8	14.3	14.3	9.5	9.5
	東京都	76	30.3	13.2	15.8	15.8	7.9	5.3	7.9
	静岡県	29	27.6	20.7	20.7	27.6	20.7	6.9	13.8
	岡山県	13	46.2	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7
	香川県	9	22.2	-	-	-	11.1	11.1	-
	熊本県	6	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3
	鹿児島県	17	35.3	17.6	11.8	5.9	5.9	5.9	11.8
	沖縄県	5	-	-	20.0	-	-	-	-
施設あり計		222	33.8	17.1	18.9	17.6	12.6	8.6	10.4
	施設なし計	778	35.7	20.6	18.6	17.5	10.3	10.2	8.5
教員をしている学校別	公立の小学校	532	37.4	21.8	19.4	18.2	10.7	9.8	9.0
	私立の小学校	13	-	15.4	23.1	-	-	-	-
	公立の中学校	422	34.1	17.5	18.0	17.3	10.9	10.4	9.0
	私立の中学校	28	32.1	21.4	14.3	17.9	17.9	7.1	10.7
	その他	5	20.0	-	20.0	-	-	-	-

ハンセン病患者(元患者)や家族に対する考え【セグメント別】Q17×知識度、Q5、Q9、Q18

Q17 ハンセン病患者(元患者)や家族に対する以下のような考え方について、あなたはどのように思いますか。 (SA)

- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「中知識度層」は「治療できるとしてもハンセン病は怖い病気だ」が全体より約9P高い。「高知識度層」はすべての項目で割合が低い。
- 研修受講経験別では、「ある」と「ない」とで大きな差はみられない。
- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「中学校で学んだ」「高校で学んだ」層は、すべての項目で全体よりも割合が高い。「分からない(覚えていない)」層は、すべての項目で全体よりも割合が低い。

*値は以下の合計値
「そう思う」
「どちらかといえばそう思う」



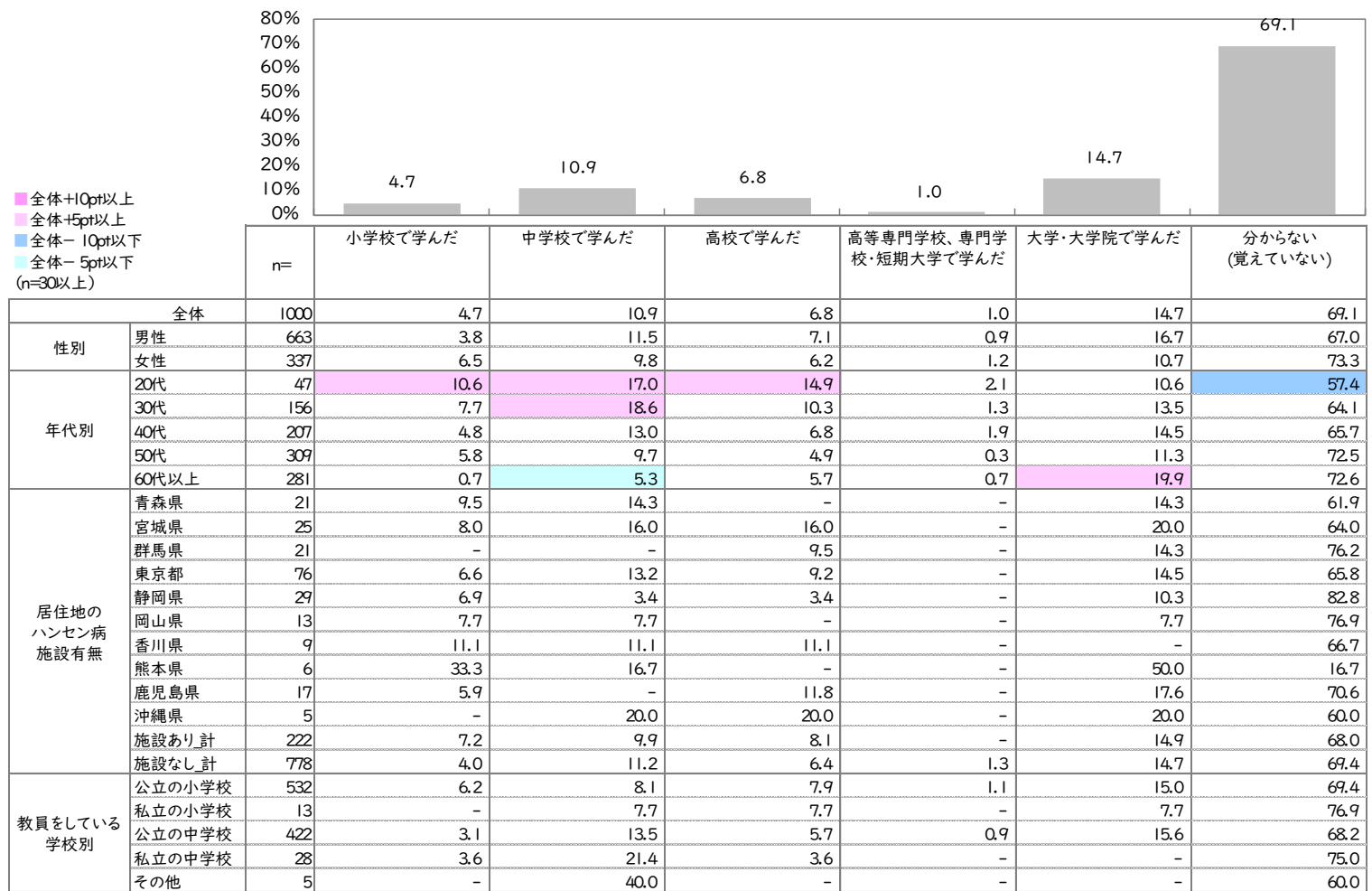
■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下
■ 全体-5pt以下
(n=30以上)

		n=	治療できるとしてもハンセン病は怖い病気だ	ハンセン病患者を強制的に療養所に隔離してきたことは、やむを得ない措置だった	ハンセン病元患者(回復者)にとっては、療養所で暮らすほうが療養所の外で暮らすよりもよい	ハンセン病元患者(回復者)の家族と、自分の家族が結婚することは抵抗がある	ハンセン病元患者(回復者)の宿泊を「他の客に迷惑になる」ことを理由に拒否した事件について、ホテル側の言い分には一理あり、ホテル側の対応は認められる	ハンセン病元患者(回復者)と同じ職場で働いたり一緒に食事をしたりは抵抗がある	ハンセン病元患者(回復者)や家族に対して、市民が差別や排除意識を抱くのは仕方ないことだ
全体		1000	35.3	19.8	18.7	17.5	10.8	9.8	8.9
知識度別	高知識度層	220	32.7	18.6	13.2	15.5	9.1	5.9	6.4
	中知識度層	207	44.4	18.8	17.4	22.2	9.2	8.2	8.7
	低知識度層	412	35.0	21.8	21.8	18.0	13.8	14.3	10.4
人権教育担当者向けの研修受講経験別	ある	611	33.4	20.0	19.0	17.3	11.0	10.1	9.7
	ない	389	38.3	19.5	18.3	17.7	10.5	9.3	7.7
授業等で取り上げたことのある人権問題別	女性の人権	265	28.3	18.5	20.8	15.8	6.4	7.2	6.0
	こどもの人権	583	36.4	19.9	21.3	16.5	9.9	10.8	9.4
	高齢者の人権	240	28.3	17.5	18.8	15.8	8.8	9.2	6.7
	障がい者の人権	562	34.5	18.5	18.5	15.1	8.9	8.0	7.8
	部落差別(同和問題)	366	30.3	16.1	16.7	11.7	6.3	6.3	5.2
	外国人の人権	295	29.5	19.0	19.3	14.9	7.8	7.5	7.1
	コロナやエイズなど感染症に関連する偏見や差別	229	31.0	17.9	19.7	13.1	5.7	6.1	6.6
	ハンセン病問題	161	28.0	17.4	19.9	13.0	7.5	5.6	8.7
	インターネット上の人権侵害	421	34.4	18.3	17.8	16.2	9.3	7.1	7.8
	性的マイノリティに対する偏見や差別	280	30.4	16.1	15.4	11.1	7.1	7.1	7.9
	震災等の災害に起因する偏見や差別	147	25.2	19.0	18.4	15.0	6.8	8.2	8.2
	セクハラやパワハラなどのハラスメントやいじめ	215	30.7	20.9	20.5	14.4	7.4	8.4	7.4
	ヘイトスピーチ	84	21.4	14.3	19.0	11.9	7.1	8.3	8.3
その他	9	33.3	44.4	22.2	11.1	22.2	-	11.1	
人権問題を授業等で取り上げたことはない	164	28.0	16.5	14.6	15.2	11.6	9.1	7.3	
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別	小学校で学んだ	47	53.2	27.7	29.8	12.8	14.9	12.8	17.0
	中学校で学んだ	109	38.5	24.8	23.9	24.8	15.6	16.5	11.9
	高校で学んだ	68	39.7	30.9	33.8	23.5	13.2	14.7	13.2
	高等専門学校・専門学校・短期大学で学んだ	10	20.0	20.0	40.0	-	20.0	10.0	30.0
	大学・大学院で学んだ	147	32.0	17.7	21.1	17.0	9.5	6.8	9.5
分からない(覚えていない)	691	34.3	17.9	15.6	15.9	9.4	8.2	7.1	

ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験【属性別】

Q18 あなたご自身は、これまでの学校教育の中でハンセン病問題について学びましたか。（「分からない(覚えていない)」を除き、いくつでも） (MA)

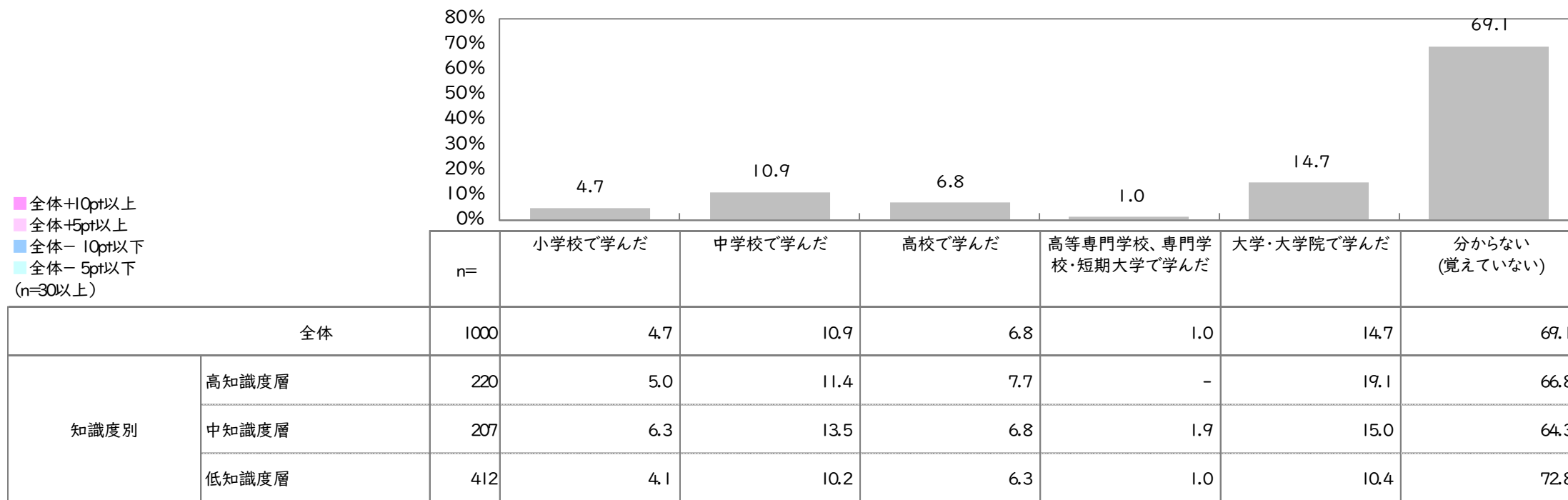
- 年代別でみると、「30代」は「中学校学んだ」が18.6%で全体よりも約8P高い。「60代以上」は「大学・大学院で学んだ」が19.9%で全体より約5P高い。「50代」「60代以上」では「分からない(覚えていない)」が70%を超えている。



ハンセン病問題の学習経験【セグメント別】Q18×知識度

Q18 あなたご自身は、これまでの学校教育の中でハンセン病問題について学びましたか。（「分からない(覚えていない)」を除き、いくつでも）（MA）

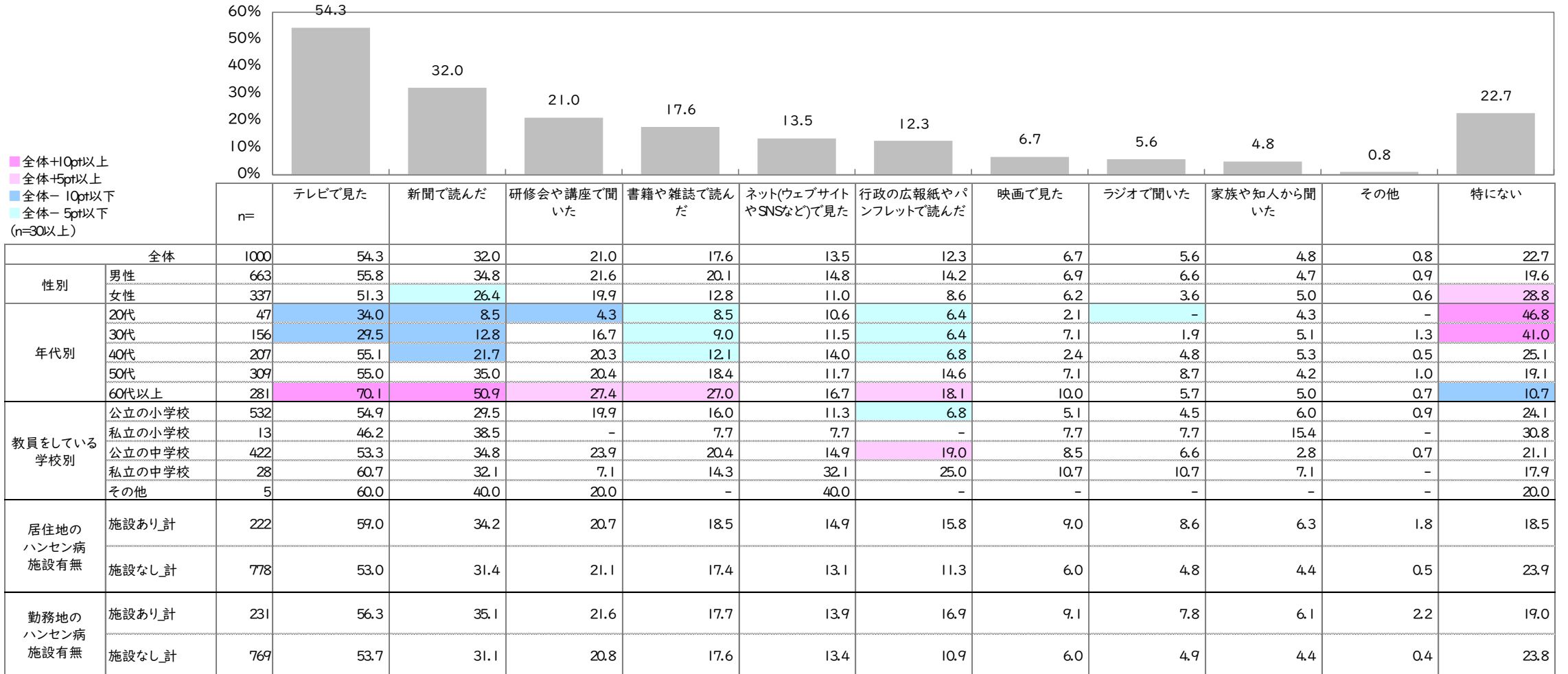
- ハンセン病問題に関する知識度別にみると、「高知識度層」「中知識度層」「低知識度層」のいずれの層においても「分からない(覚えていない)」が60%以上。「高知識度層」では「大学・大学院で学んだ」が19.1%で最も多く、他の層に比べて高い。それ以外は、どの層もそれほど大きな差は見られない。



ハンセン病問題を見聞きした経験【属性別】

Q19 あなたは、学校での人権教育以外でハンセン病問題のことを見聞きしたことがありますか。（「特にない」を除き、いくつでも）（MA）

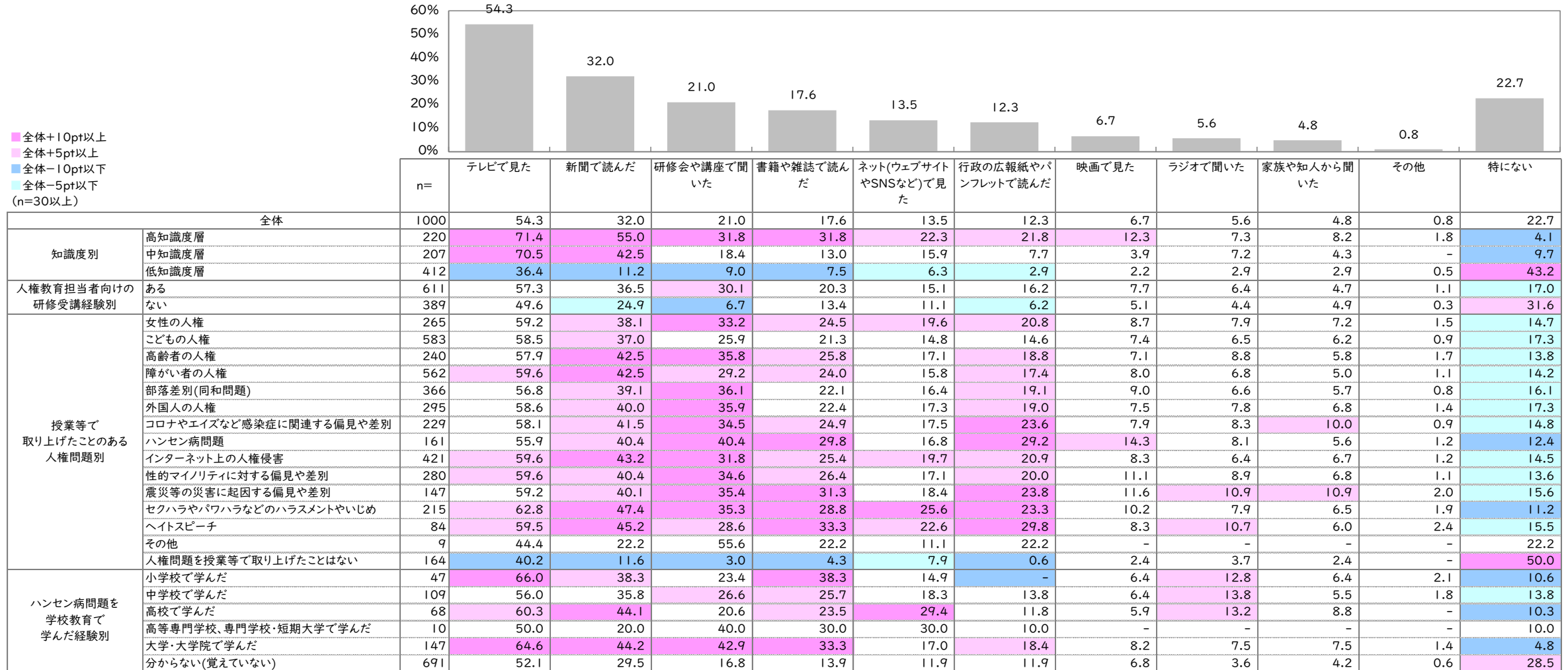
- 年代別で見ると、「60代以上」は「テレビで見た」「新聞で読んだ」が全体よりも10p以上、「研修会や講座で聞いた」「書籍や雑誌で読んだ」が全体よりも5P以上高い。一方、「30代」は「特にない」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 学校別で見ると、「公立の中学校」は「行政の広報紙やパンフレットで見た」が19.0%で全体よりも6.7P高い。



ハンセン病問題を見聞きした経験 【セグメント別】Q19×知識度、Q5、Q9、Q18

Q19 あなたは、学校での人権教育以外でハンセン病問題のことを見聞きしたことがありますか。(「特にない」を除き、いくつでも) (MA)

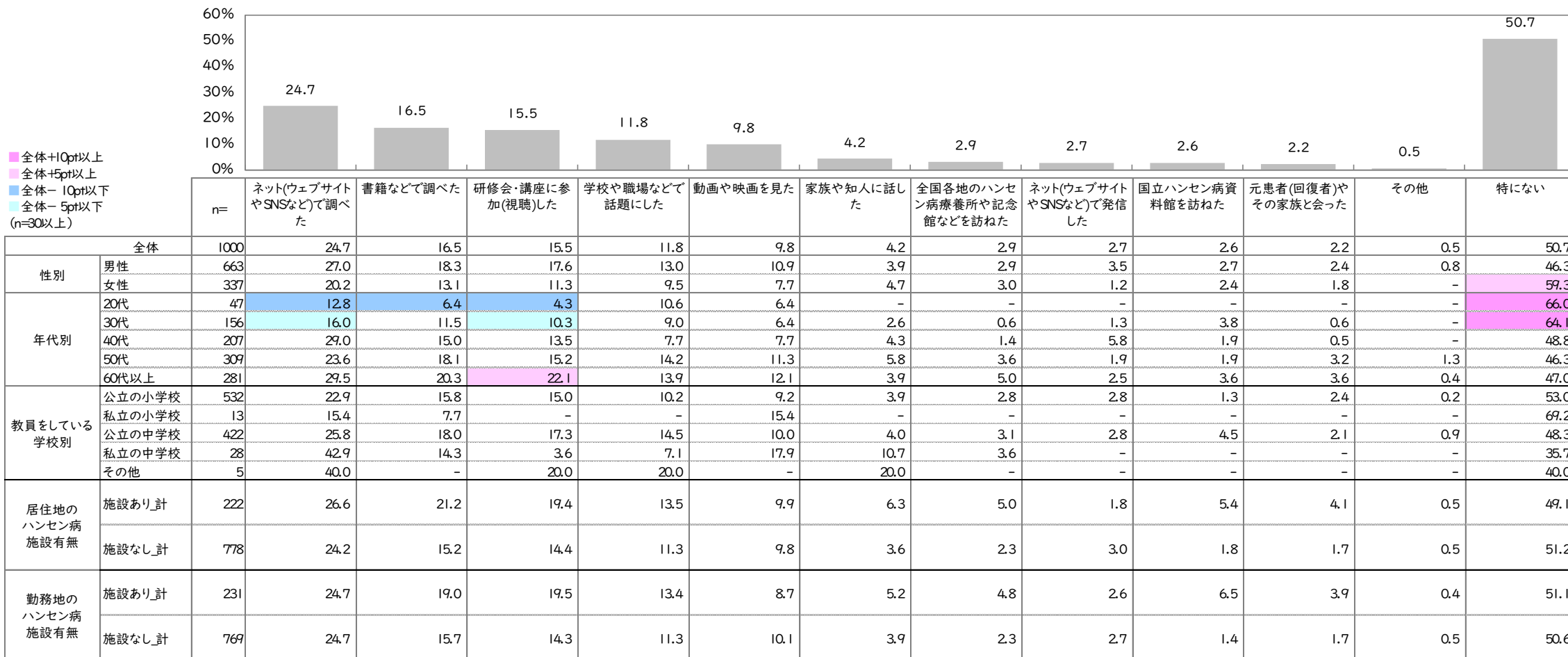
- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「高知識度層」は「テレビで見た」「新聞で読んだ」「研修会や講座で聞いた」「書籍や雑誌で読んだ」、中知識度層は「テレビで見た」「新聞で読んだ」の割合が全体よりも10p以上高い。「低知識度層」はすべての項目で全体を大幅に下回っており、「特にない」が43.2%で全体よりも20p以上高い。
- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「大学・大学院で学んだ」は「テレビで見た」「新聞で読んだ」「研修会や講座で聞いた」「書籍や雑誌で読んだ」の割合が全体よりも10p以上高い。「分からない(覚えていない)」は、「特にない」が28.5%で全体よりも5p以上高い。



ハンセン病問題を知ろうとしたり、行動したりした経験【属性別】

Q20 あなたは、学校での人権教育以外で、ハンセン病問題について自ら知ろうとしたり、行動したりしたことがありますか。（「特にない」を除き、いくつでも）
 (MA)

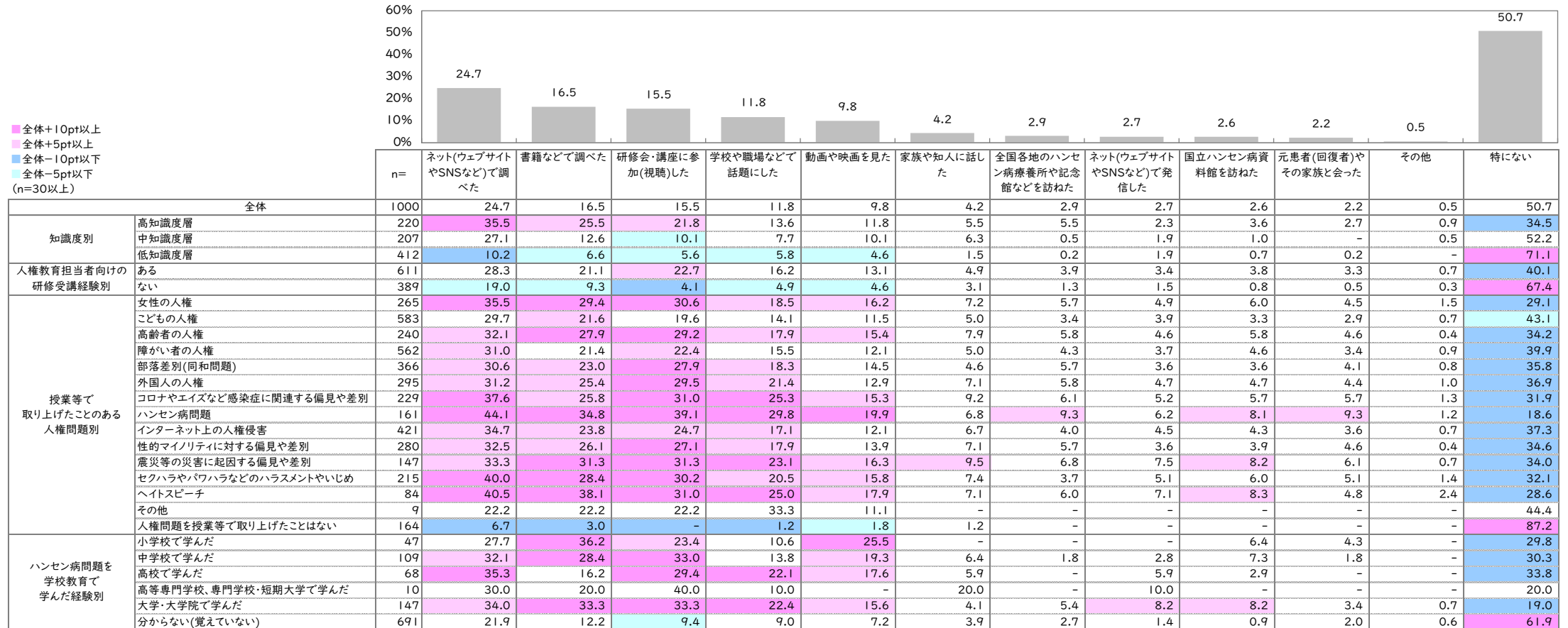
- 年代別でみると、「30代」で「特にない」が64.1%で全体よりも10p以上高く、「ウェブサイト調べた」「研修会・講座に参加した」が5p以上低い。「60代以上」では、「研修会・講座に参加した」が全体よりも5p以上高く、他の年代に比べて高い。
- 勤務地の施設別でみると、「施設あり」は「国立ハンセン病資料館を訪ねた」が6.5%で、「施設なし」より約5p高い。



ハンセン病問題を知ろうとしたり、行動したりした経験 【セグメント別】Q20×知識度、Q5、Q9、Q18

Q20 あなたは、学校での人権教育以外で、ハンセン病問題について自ら知ろうとしたり、行動したりしたことがありますか。(「特にない」を除き、いくつでも)
(MA)

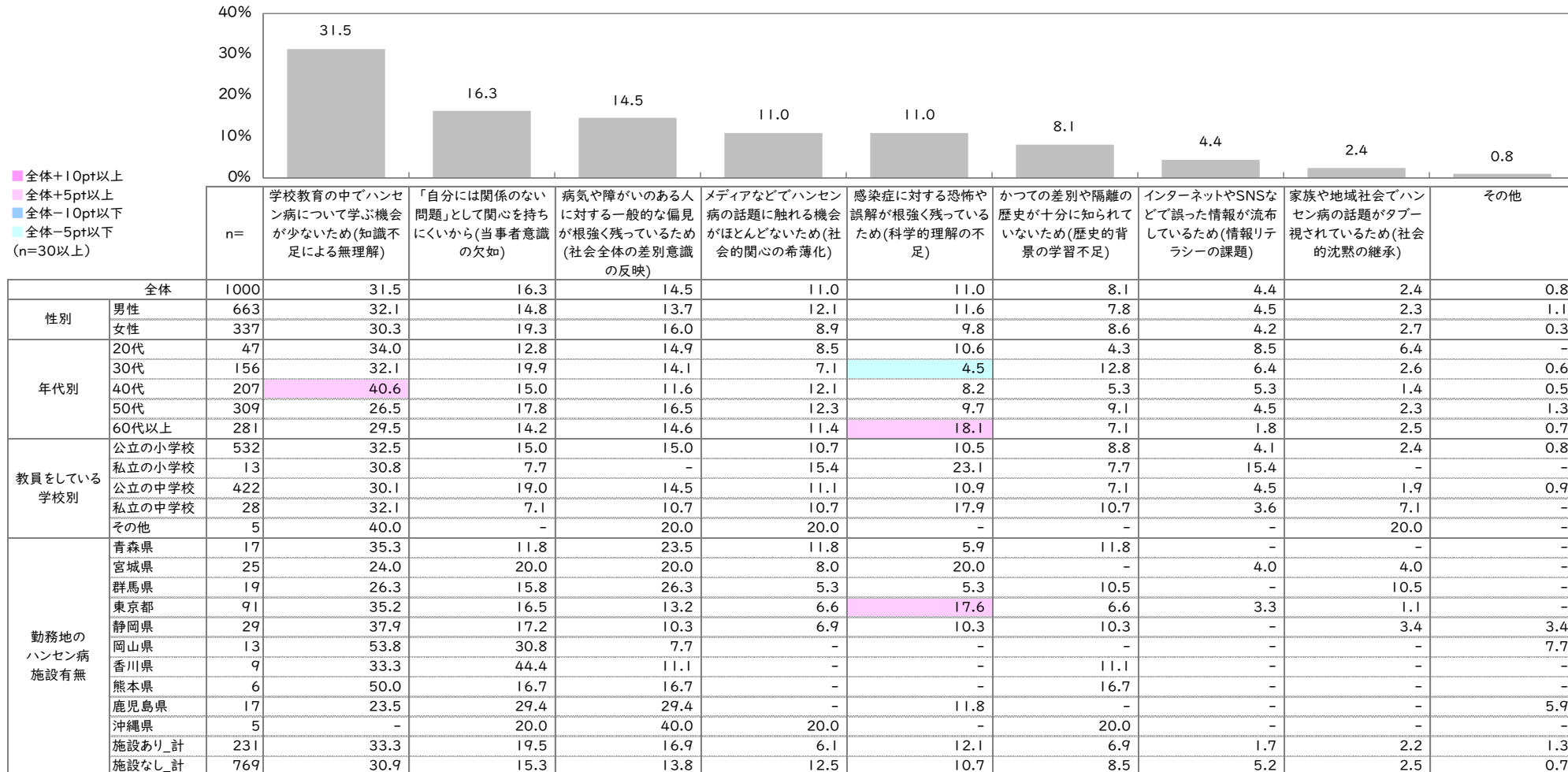
- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「高知識度層」は「ネット(ウェブサイトやSNSなど)で調べた」の割合が全体よりも10p以上高い。「高知識度層」は「家族や知人に話した」以外のすべての項目で、他の層より数値が高い。「低知識度層」はすべての項目の割合が全体よりも大幅に低くなっている。
- 授業等で取り上げたことのある人権問題別でみると、「ハンセン病問題」はすべての項目で全体を上回り、「ネット(ウェブサイトやSNSなど)」「研修会・講座」「書籍など」「学校や職場などで話題」の順に高い。「人権問題を取り上げたことがない」は「特にない」が9割近くとなっている。
- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「中学校で学んだ」は「書籍などで調べた」「研修会・講座に参加(視聴)した」、「大学・大学院で学んだ」は「書籍などで調べた」「研修会・講座に参加(視聴)した」「学校や職場などで話題にした」の割合が全体よりも10p以上高い。



ハンセン病に対する偏見や差別の原因【属性別】

Q21 ハンセン病に対する偏見や差別は、若い世代の中にも少なからず見られます。その主な原因は、どのような点にあると思われますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(SA)

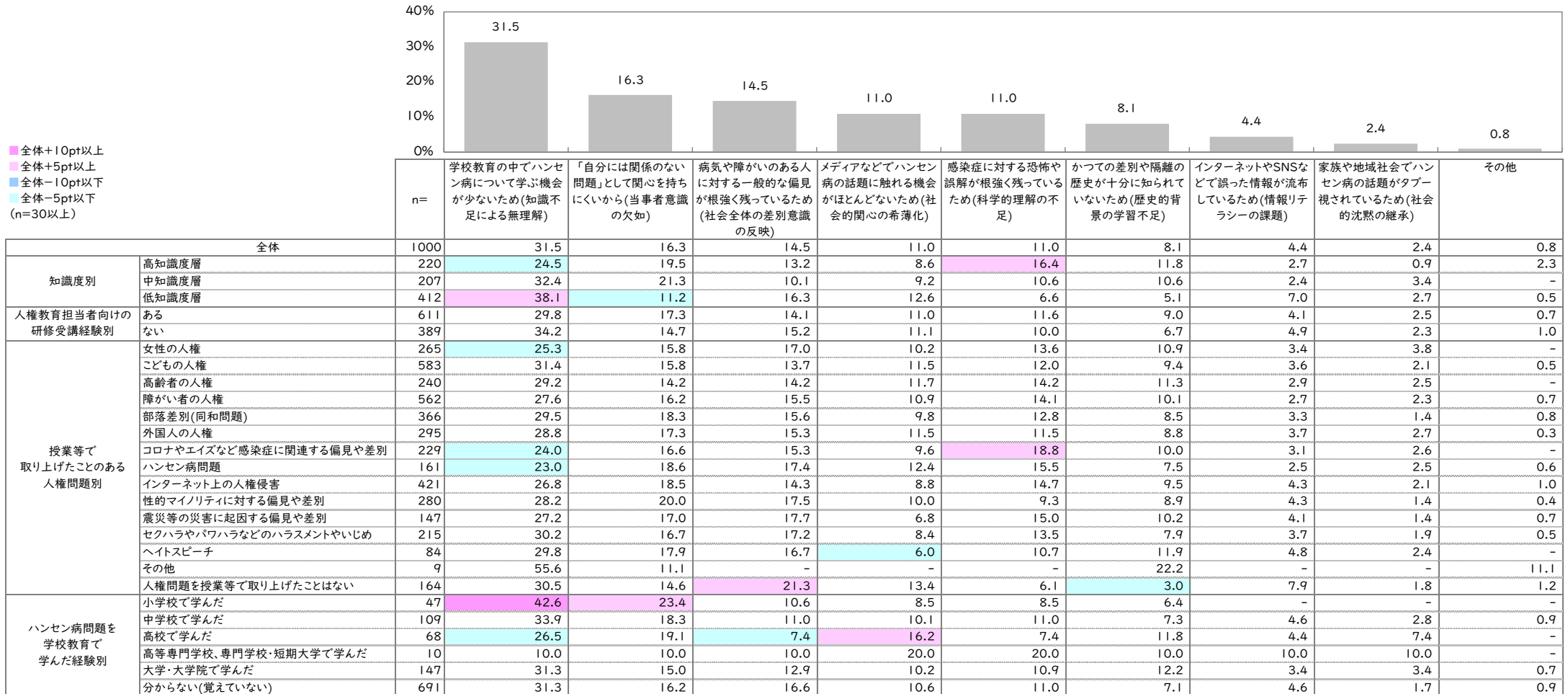
- 年代別で見ると、「40代」では「知識不足による無理解」が他の年代に比べて高く、全体よりも約9p高い。「科学的理解の不足」は「30代」が4.5%で他の年代に比べて低い。一方、「60代以上」では18.1%で他の年代よりも高い。
- 施設別で見ると、「社会的関心の希薄化」は「施設なし」が「施設あり」より6.4p高く、差が見られる。



ハンセン病に対する偏見や差別の原因【セグメント別】Q21×知識度、Q5、Q9、Q18

Q21 ハンセン病に対する偏見や差別は、若い世代の中にも少なからず見られます。その主な原因は、どのような点にあると思われますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。(SA)

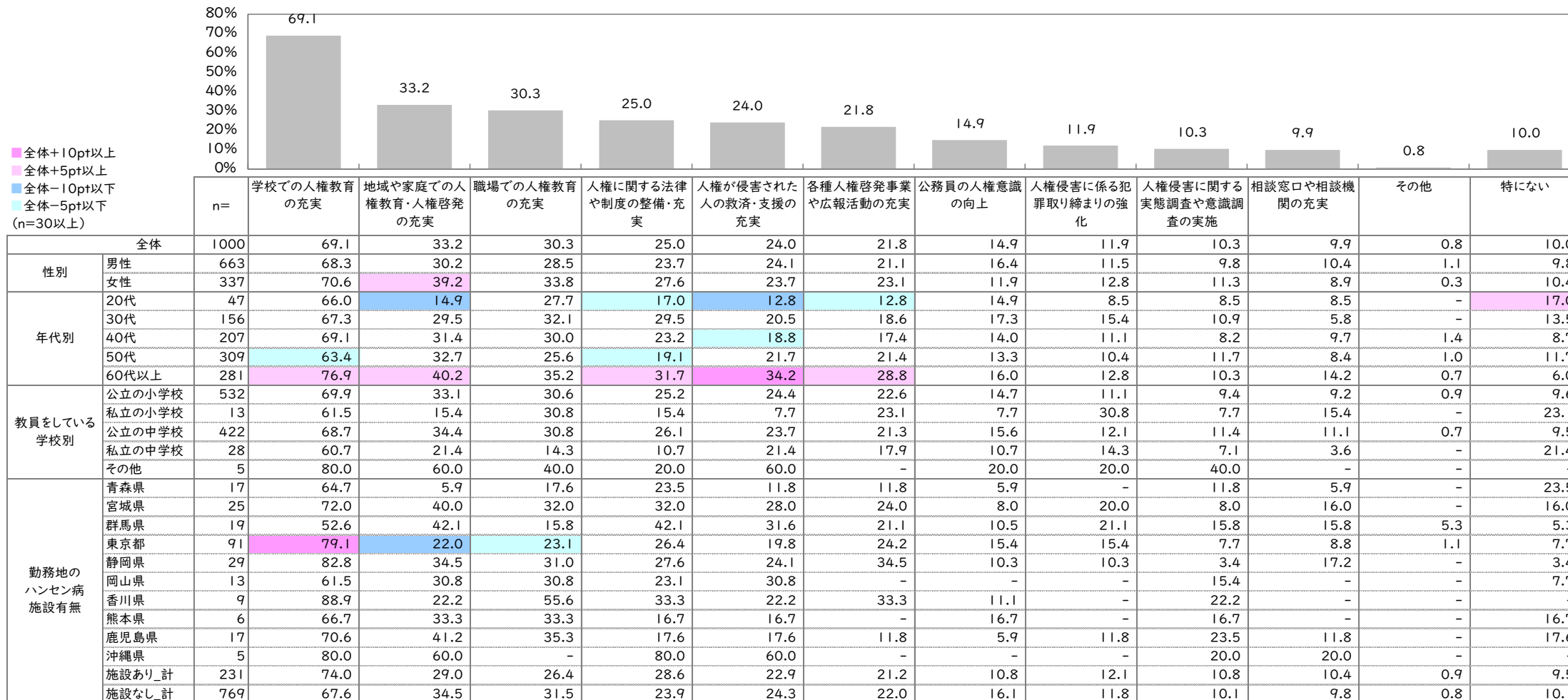
- ハンセン病問題に関する知識度別で見ると、「高知識度層」は「知識不足による無理解」が他の層に比べて低く、「科学的理解の不足」が他の層よりも高い。一方、「低知識度層」は「知識不足による無理解」が他の層より高く、「当事者意識の欠如」が低い。
- 授業で取り上げたことのある人種問題別にみると、「ハンセン病問題」と「コロナやエイズなど感染症」は、「知識不足による無理解」が全体より5p以上低い。「コロナやエイズなど感染症」は、「科学的理解の不足」が全体よりも5p以上高い。



人権に係る偏見・差別を解消するために有効な方策【属性別】

Q22 あなたは、ハンセン病問題をはじめとする人権に係る偏見・差別を解消するためには、どのような方策が有効だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

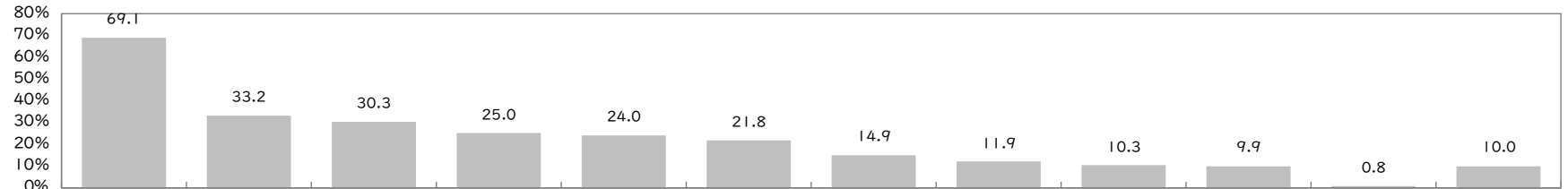
- 年代別でみると、「60代以上」は、「人権が侵害された人の救済・支援の充実」の割合が全体よりも10p以上高い。「60代以上」は、ほぼすべての項目で全体の割合よりも高くなっている。
- 施設別でみると、「施設あり」は「学校での人権教育の充実」が「施設なし」より5p以上高い。一方、「施設なし」は、「地域や家庭での人権教育」「職場での人権教育」「公務員の人権意識の向上」が「施設あり」より5p以上高い。



人権に係る偏見・差別を解消するために有効な方策【セグメント別】Q22×知識度、Q5、Q9、Q18

Q22 あなたは、ハンセン病問題をはじめとする人権に係る偏見・差別を解消するためには、どのような方策が有効だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「高知識度層」はすべての項目で、全体の割合よりも高い。特に、「人権に関する法律や制度の整備・充実」「各種人権啓発事業や広報活動の充実」の割合が全体よりも10p以上高い。
- 研修受講経験別でみると、「ある」は「地域や家庭での人権教育」「職場での人権教育の充実」が全体よりも5p以上高い。
- 授業で取り上げたことのある人権問題別でみると、「ハンセン病問題」はすべての項目で全体の割合よりも高く、特に「学校での人権教育の充実」「地域や家庭での人権教育」「職場での人権教育」は全体よりも10p以上高い。「人権問題を取り上げたことはない」は、すべての項目で全体よりも大幅に低い。
- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「大学・大学院で学んだ」は「公務員の人権意識の向上」の割合が全体よりも10p以上高い。



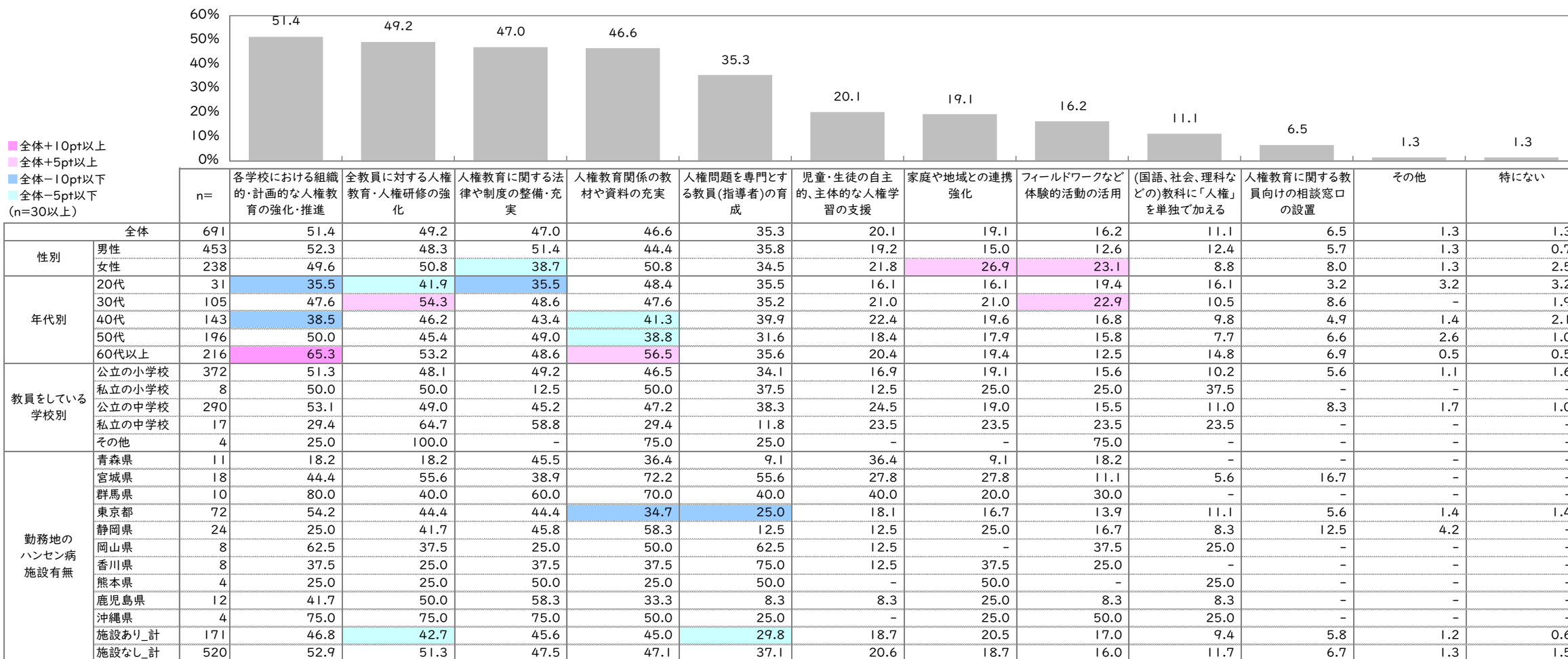
■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下
■ 全体-5pt以下
 (n=30以上)

		n=	学校での人権教育の充実	地域や家庭での人権教育・人権啓発の充実	職場での人権教育の充実	人権に関する法律や制度の整備・充実	人権が侵害された人の救済・支援の充実	各種人権啓発事業や広報活動の充実	公務員の人権意識の向上	人権侵害に係る犯罪取り締まりの強化	人権侵害に関する実態調査や意識調査の実施	相談窓口や相談機関の充実	その他	特になし
全体		1000	69.1	33.2	30.3	25.0	24.0	21.8	14.9	11.9	10.3	9.9	0.8	10.0
知識度別	高知識度層	220	77.3	42.7	35.5	35.5	33.2	33.2	17.7	19.1	13.6	15.0	2.3	4.1
	中知識度層	207	76.3	37.2	30.9	31.9	27.5	29.0	14.0	12.6	11.1	11.1	0.5	3.4
	低知識度層	412	55.3	21.8	22.8	14.6	14.6	10.2	10.9	7.3	5.3	5.8	0.5	20.1
人権教育担当者向けの研修受講経験別	ある	611	74.0	38.5	35.5	28.5	25.5	24.2	16.7	12.9	12.3	10.3	0.7	5.7
	ない	389	61.4	24.9	22.1	19.5	21.6	18.0	12.1	10.3	7.2	9.3	1.0	16.7
授業等で取り上げたことのある人権問題別	女性の人権	265	78.5	42.6	40.0	28.7	30.9	25.7	18.9	10.6	14.3	13.2	0.4	4.2
	子どもの人権	583	76.0	37.7	36.2	26.2	27.6	23.0	18.5	13.0	10.3	11.1	0.5	3.9
	高齢者の人権	240	79.2	43.8	41.3	25.4	30.4	24.6	17.9	9.6	13.3	15.8	0.4	2.5
	障がい者の人権	562	79.4	41.3	37.7	29.4	27.2	26.2	18.3	14.8	13.0	11.6	0.9	3.2
	部落差別(同和問題)	366	78.7	43.2	41.0	27.3	23.2	24.6	18.6	11.5	13.4	9.3	0.8	3.3
	外国人の人権	295	80.7	42.4	43.7	29.2	30.2	26.8	20.3	13.2	13.9	11.9	0.3	2.4
	コロナやエイズなど感染症に関連する偏見や差別	229	80.8	46.7	39.3	33.6	34.1	26.2	18.8	13.5	14.4	13.5	1.7	2.6
	ハンセン病問題	161	83.9	44.1	41.6	28.6	31.1	26.7	22.4	13.0	17.4	11.8	-	0.6
	インターネット上の人権侵害	421	81.5	44.9	37.3	31.4	30.6	29.0	19.0	16.4	12.6	11.4	1.2	2.1
	性的マイノリティに対する偏見や差別	280	78.6	45.7	41.1	29.6	31.4	26.4	18.9	13.9	13.9	12.9	0.7	3.2
	震災等の災害に起因する偏見や差別	147	79.6	46.9	42.9	30.6	31.3	22.4	26.5	15.0	11.6	15.6	1.4	4.1
	セクハラやパワハラなどのハラスメントやいじめ	215	79.5	44.2	38.1	33.0	32.6	31.6	17.7	13.5	14.4	14.4	0.9	1.9
	ヘイトスピーチ	84	79.8	39.3	42.9	23.8	42.9	26.2	29.8	6.0	13.1	19.0	-	1.2
	その他	9	66.7	44.4	22.2	22.2	55.6	22.2	33.3	-	-	11.1	-	11.1
人権問題を授業等で取り上げたことはない	164	40.2	18.9	14.0	15.9	9.8	12.8	6.7	6.7	7.3	9.1	0.6	38.4	
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別	小学校で学んだ	47	72.3	34.0	36.2	25.5	23.4	12.8	23.4	21.3	8.5	12.8	-	-
	中学校で学んだ	109	74.3	37.6	29.4	32.1	22.0	20.2	21.1	13.8	12.8	11.0	-	2.8
	高校で学んだ	68	73.5	27.9	32.4	29.4	20.6	14.7	11.8	11.8	19.1	16.2	-	1.5
	高等専門学校・専門学校・短期大学で学んだ	10	60.0	30.0	30.0	40.0	40.0	20.0	30.0	20.0	20.0	20.0	-	-
	大学・大学院で学んだ	147	78.9	40.1	38.1	33.3	29.3	21.1	25.2	12.9	11.6	12.2	0.7	0.7
分からない(覚えていない)	691	66.6	32.1	28.9	23.0	23.3	23.0	11.6	10.9	10.1	8.8	1.0	13.7	

学校での人権教育を充実させるための対策【属性別】

Q23 学校での人権教育を充実させるためには、どのような対策が重要だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

- 年代別でみると、「60代以上」は「各学校における組織的・計画的な人権教育の強化・推進」の割合が全体よりも10p以上高いが、「40代」では10p以上低い。また、「60代以上」では、「人権教育関係の教材や資料の充実」が全体より10p近く高いが、「40代」「50代」は40%前後で全体より5p以上低い。「30代」では、「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」が54.3%、「フィールドワークなど体験的活動の活用」が22.9%で、それぞれ全体より5p以上高い。
- 施設別でみると、「施設あり」は「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」(42.7%)と「人権問題を専門とする教員(指導者)の育成」(29.8%)が、全体よりも5p以上低い。



学校での人権教育を充実させるための対策【セグメント別】Q23×知識度、Q5、Q9、Q18

Q23 学校での人権教育を充実させるためには、どのような対策が重要だと思いますか。(最大5つまで選択可) (MA)

- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「高知識度層」は「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」、「中知識度層」は「人権教育関係の教材や資料の充実」が全体よりも10p以上高い。「低知識度層」は「各学校における組織的・計画的な人権教育の強化・推進」「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」「人権教育関係の教材や資料の充実」が全体よりも10p以上低い。
- 授業等で取り上げたことのある人権問題別でみると、「ハンセン病問題」は「各学校における組織的・計画的な人権教育の強化・推進」「人権教育関係の教材や資料の充実」「人権問題を専門とする教員の育成」「児童・生徒の自主的、主体的な人権学習の支援」が全体よりも5p以上高い。これは、「外国人の人権」「コロナやエイズなどの感染症」と同様の傾向である。
- ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別でみると、「大学・大学院で学んだ」は「全教員に対する人権教育・人権研修の強化」「人権教育に関する法律や制度の整備・充実」「人権問題を専門とする教員の育成」が全体よりも5p以上高い。



■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下
■ 全体-5pt以下
 (n=30以上)

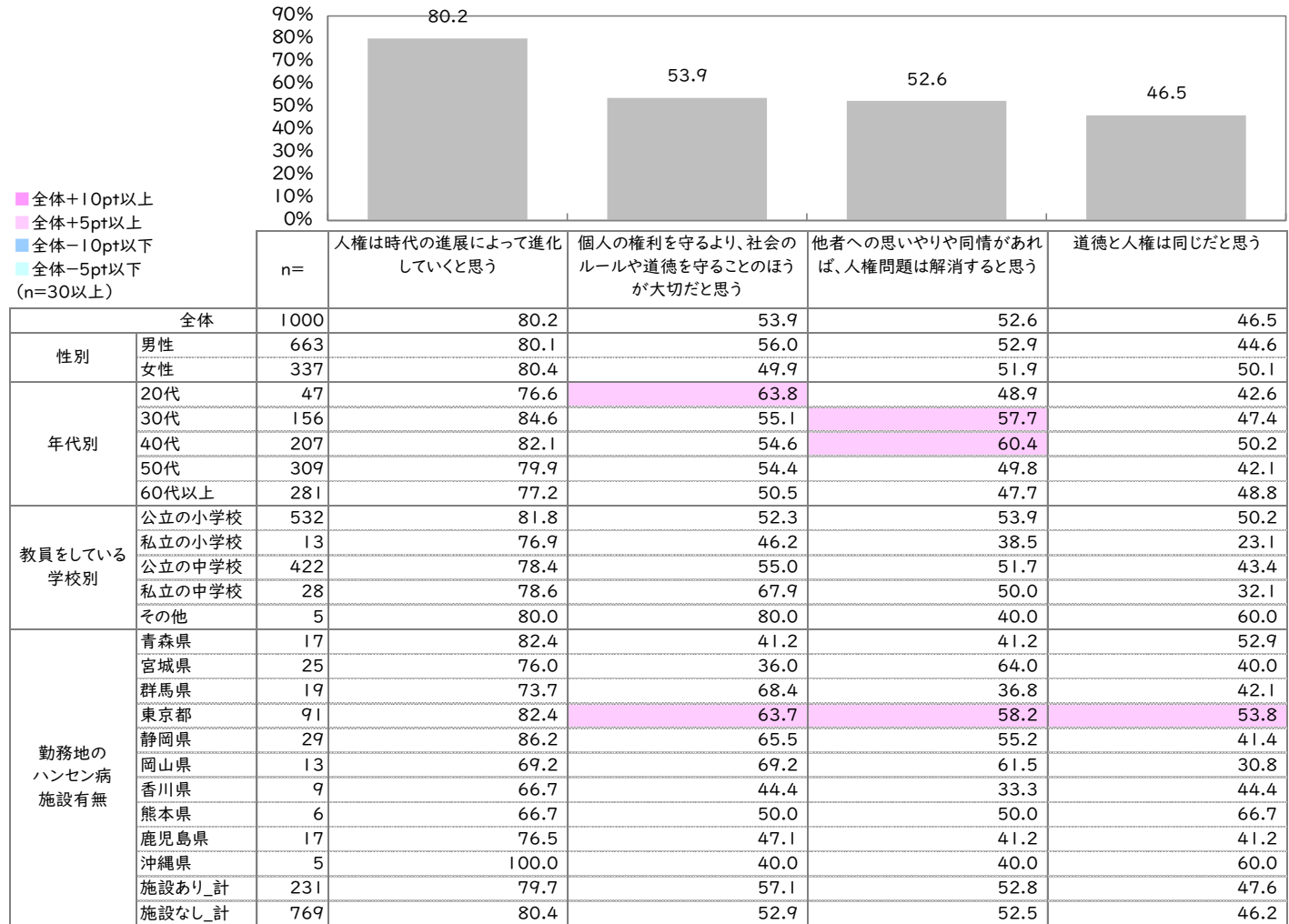
	n=	各学校における組織的・計画的な人権教育の強化・推進	全教員に対する人権教育・人権研修の強化	人権教育に関する法律や制度の整備・充実	人権教育関係の教材や資料の充実	人権問題を専門とする教員(指導者)の育成	児童・生徒の自主的、主体的な人権学習の支援	家庭や地域との連携強化	フィールドワークなど体験的活動の活用	(国語、社会、理科などの)教科に「人権」を単独で加える	人権教育に関する教員向けの相談窓口の設置	その他	特にない	
全体	691	51.4	49.2	47.0	46.6	35.3	20.1	19.1	16.2	11.1	6.5	1.3	1.3	
知識度別	高知識度層	170	60.0	64.1	47.1	51.8	33.5	24.7	25.9	18.8	11.8	9.4	1.2	0.6
	中知識度層	158	56.3	49.4	43.7	57.0	36.7	19.0	20.9	12.7	11.4	5.1	1.9	0.6
	低知識度層	228	36.8	36.4	47.8	31.1	30.7	14.0	10.1	13.2	10.5	6.1	1.3	3.1
人権教育担当者向けの研修受講経験別	ある	452	55.3	51.8	46.2	48.5	38.7	23.0	21.0	17.3	11.3	8.2	1.1	1.3
	ない	239	43.9	44.4	48.5	43.1	28.9	14.6	15.5	14.2	10.9	3.3	1.7	1.3
授業等で取り上げたことのある人権問題別	女性の人権	208	59.6	53.8	50.5	51.0	38.9	26.4	24.0	14.9	13.0	9.6	1.4	1.0
	子どもの人権	443	56.7	48.3	50.6	47.0	36.8	20.1	22.1	16.0	11.1	7.0	1.6	0.7
	高齢者の人権	190	61.6	50.5	53.7	44.7	43.2	24.7	24.7	15.8	13.7	7.9	1.6	0.5
	障がい者の人権	446	57.2	54.9	47.3	50.2	40.6	21.1	22.9	17.5	9.9	7.4	1.8	0.4
	部落差別(同和問題)	288	59.7	53.8	48.6	48.6	40.6	22.6	22.6	16.0	10.1	6.9	1.7	0.7
	外国人の人権	238	62.2	53.4	51.7	54.2	41.2	25.2	21.4	16.8	10.9	7.6	1.7	-
	コロナやエイズなど感染症に関連する偏見や差別	185	64.3	53.5	49.7	54.6	42.7	25.9	23.8	17.8	12.4	7.0	1.6	1.1
	ハンセン病問題	135	59.3	51.9	49.6	54.1	43.7	25.9	23.7	22.2	11.1	5.2	0.7	-
	インターネット上の人権侵害	343	58.0	54.5	47.2	55.4	39.9	24.5	22.2	20.4	13.4	6.7	1.7	0.9
	性的マイノリティに対する偏見や差別	220	59.1	56.4	48.6	55.9	42.7	30.9	20.9	18.6	13.2	10.0	3.2	-
	震災等の災害に起因する偏見や差別	117	61.5	53.8	50.4	53.0	41.0	30.8	23.1	17.1	14.5	7.7	1.7	-
	セクハラやパワハラなどのハラスメントやいじめ	171	55.0	47.4	52.0	56.1	34.5	29.8	25.1	17.5	15.8	7.6	1.8	-
	ヘイトスピーチ	67	64.2	43.3	58.2	46.3	38.8	26.9	20.9	19.4	11.9	9.0	-	-
	その他	6	33.3	16.7	50.0	33.3	66.7	33.3	-	16.7	33.3	-	-	-
人権問題を授業等で取り上げたことはない	66	31.8	33.3	42.4	31.8	24.2	12.1	13.6	10.6	12.1	3.0	1.5	6.1	
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別	小学校で学んだ	34	52.9	41.2	64.7	44.1	41.2	20.6	20.6	17.6	17.6	5.9	-	-
	中学校で学んだ	81	46.9	54.3	55.6	44.4	38.3	22.2	21.0	8.6	7.4	-	1.2	
	高校で学んだ	50	56.0	48.0	42.0	46.0	40.0	18.0	24.0	22.0	10.0	6.0	-	2.0
	高等専門学校、専門学校・短期大学で学んだ	6	33.3	66.7	33.3	66.7	50.0	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	-	-
	大学・大学院で学んだ	116	52.6	55.2	56.0	46.6	44.8	24.1	19.0	15.5	12.9	9.5	-	0.9
分からない(覚えていない)	460	51.1	47.8	43.7	47.6	33.0	19.8	19.3	15.9	10.9	5.7	2.0	1.5	

人権に対する認識や考え【属性別】

Q24 以下の項目について、あなた自身の認識や考えにあてはまると思うものはありますか。 (SA)

- 年代別でみると、「30代」「40代」は「他社への思いやりや同情があれば、人権問題は解消すると思う」が全体より5p以上高い。

*値は以下の割合
「あてはまる」



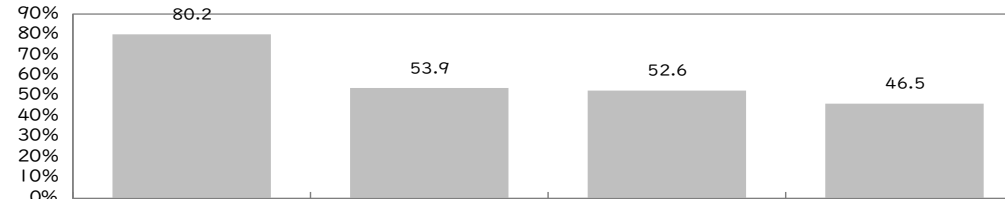
人権に対する認識や考え【セグメント別】Q24×知識度、Q5、Q9、Q18

Q24 以下の項目について、あなた自身の認識や考えにあてはまると思うものはありますか。 (SA)

- 「人権は時代の進展によって進化していくと思う」について、「そう思う」と答えた割合が全体よりも高いのは、授業で「コロナやエイズなど感染症」「インターネット上の人権侵害」「セクハラやパワハラ」を取り上げた層。一方、「そう思う」と答えた割合が低いのは、「人権問題を授業等で取り上げたことはない」層。
- 「個人の権利を守るより社会のルールや徳を守ることのほうが大切」について「そう思う」と答えた割合が全体よりも高いのは、ハンセン病問題を「中学で学んだ」層。「そう思う」の割合が低いのは、「高知識度層」、授業で「女性の人権」「外国人の人権」「性的マイノリティー」「ヘイトスピーチ」を取り上げた層および「人権問題を授業等で取り上げたことはない」層。
- 「他者への思いやりや同情があれば、人権問題は解決する」について、「そう思う」と答えた割合が高いのは、「中知識度層」とハンセン病問題を「中学校で学んだ」層。「そう思う」の割合が低いのは、「高知識度層」(10pt以上低い)、授業で「女性の人権」「高齢者の人権」「部落差別」「コロナやエイズなど感染症」「ハンセン病問題」「性的マイノリティ」「震災等の災害に起因する偏見や差別」を取り上げた層。
- 「道徳と人権は同じだと思う」について、「そう思う」と答えた割合が高いのは、「中知識度層」とハンセン病問題を「中学校で学んだ」層。「そう思う」と答えた割合が低いのは、授業で「外国人の人権」「震災等の災害に起因する偏見や差別」を取り上げた層および「人権問題を授業等で取り上げたことはない」層。

*値は以下の割合
「あてはまる」

■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下
■ 全体-5pt以下
(n=30以上)

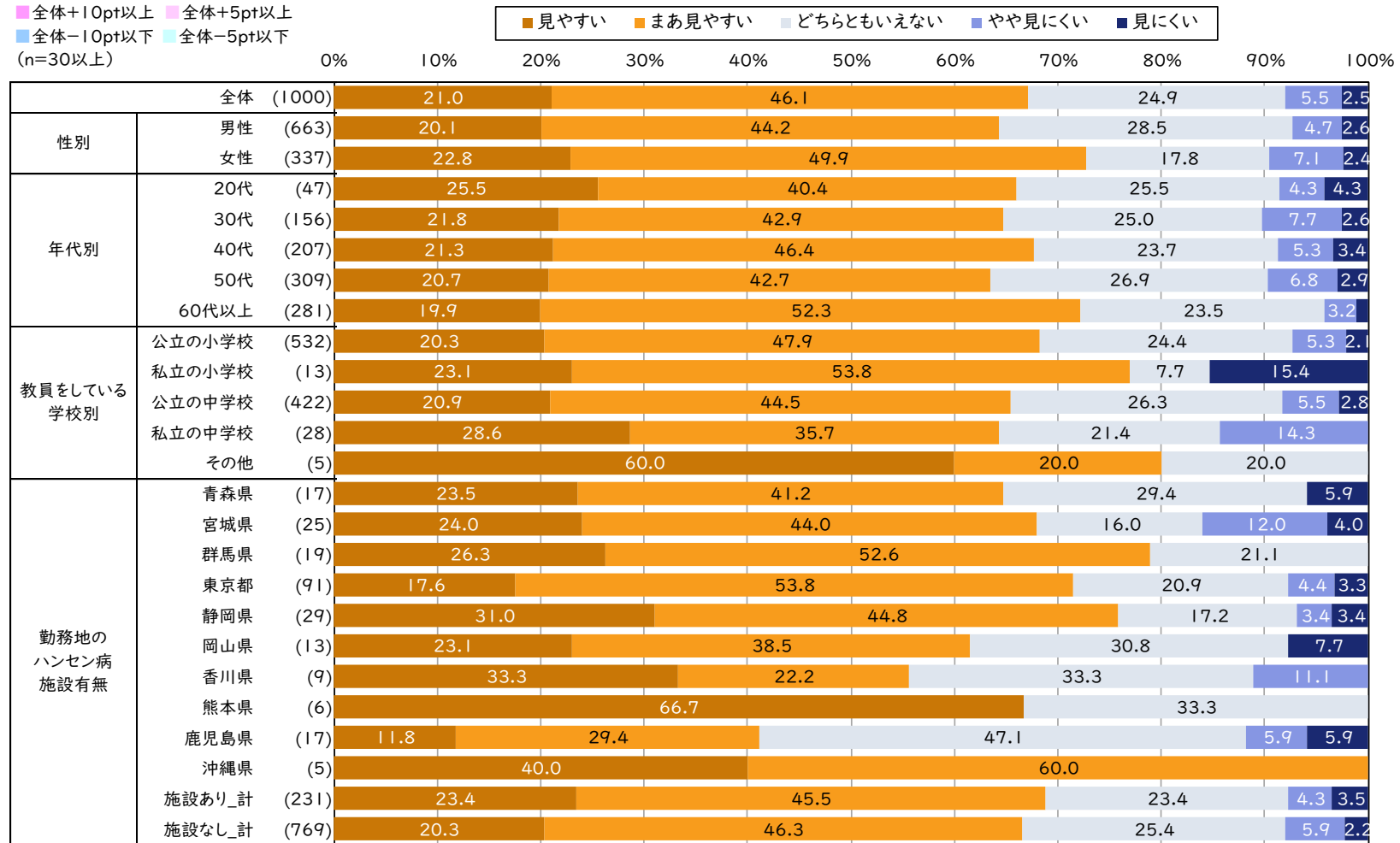


		n=	人権は時代の進展によって進化していくと思う	個人の権利を守るより、社会のルールや徳を守ることのほうが大切だと思う	他者への思いやりや同情があれば、人権問題は解消すると思う	道徳と人権は同じだと思う
全体		1000	80.2	53.9	52.6	46.5
知識度別	高知識度層	220	81.4	48.2	42.3	41.8
	中知識度層	207	80.7	56.0	61.4	53.1
	低知識度層	412	77.7	56.6	57.3	47.3
人権教育担当者向けの研修受講経験別	ある	611	82.0	54.7	51.1	47.6
	ない	389	77.4	52.7	55.0	44.7
授業等で取り上げたことのある人権問題別	女性の人権	265	80.4	46.4	47.2	43.8
	こどもの人権	583	83.7	54.0	52.7	48.2
	高齢者の人権	240	83.3	55.0	47.1	46.3
	障がい者の人権	562	82.6	54.1	50.9	48.2
	部落差別(同和問題)	366	82.2	53.6	44.8	44.8
	外国人の人権	295	82.0	48.8	49.5	41.0
	コロナやエイズなど感染症に関する偏見や差別	229	86.9	49.8	45.4	46.3
	ハンセン病問題	161	84.5	52.2	43.5	42.2
	インターネット上の人権侵害	421	86.2	54.9	48.0	44.7
	性的マイノリティに対する偏見や差別	280	82.5	48.6	45.4	42.5
	震災等の災害に起因する偏見や差別	147	81.0	53.7	45.6	39.5
	セクハラやパワハラなどのハラスメントやいじめ	215	86.5	54.4	53.0	45.6
	ヘイトスピーチ	84	82.1	47.6	50.0	50.0
	その他	9	77.8	66.7	33.3	33.3
人権問題を授業等で取り上げたことはない	164	64.6	45.7	50.6	37.8	
ハンセン病問題を学校教育で学んだ経験別	小学校で学んだ	47	85.1	57.4	59.6	57.4
	中学校で学んだ	109	84.4	63.3	61.5	54.1
	高校で学んだ	68	85.3	54.4	55.9	47.1
	高等専門学校、専門学校・短期大学で学んだ	10	90.0	50.0	60.0	60.0
	大学・大学院で学んだ	147	81.6	51.0	56.5	46.9
分からない(覚えていない)	691	78.7	52.7	49.2	44.7	

ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」の見やすさ【属性別】

Q25_1 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」は、見やすかったですか。 (SA)

- 性別でみると、「女性」は「見やすい」の割合が全体よりも5p高い。
- 年代別でみると、「60代以上」は「見やすい」の割合が全体よりも5p高い。



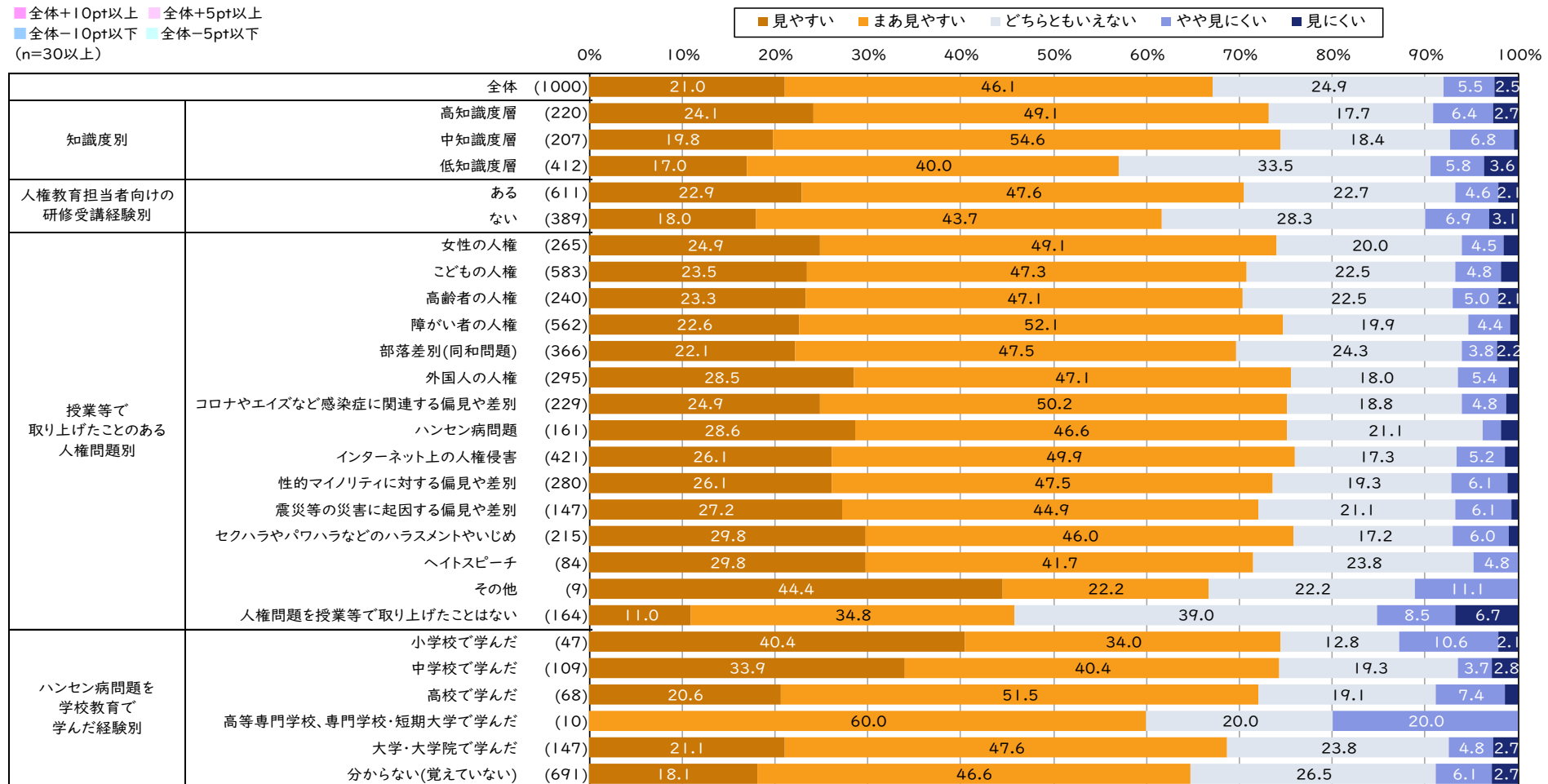
見やすい (計)	見にくい (計)
67.1	8.0
64.3	7.2
72.7	9.5
66.0	8.5
64.7	10.3
67.6	8.7
63.4	9.7
72.2	4.3
68.2	7.3
76.9	15.4
65.4	8.3
64.3	14.3
80.0	-
64.7	5.9
68.0	16.0
78.9	-
71.4	7.7
75.9	6.9
61.5	7.7
55.6	11.1
66.7	-
41.2	11.8
100.0	-
68.8	7.8
66.6	8.1

2%未満の数値ラベルは非表示

ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」の見やすさ【セグメント別】Q25_1×知識度、Q5、Q9、Q18

Q25_1 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「デザイン・レイアウト」は、見やすかったですか。 (SA)

- ハンセン病問題に関する知識度別でみると、「見やすい」は「高知識度層」「中知識度層」で全体より5p以上高いが、「低知識度層」では全体よりも10p以上低い。
- 研修受講経験別でみると、「ない」は「見やすい」の割合が全体よりも5p低い。
- 授業等で取り上げたことのある人権問題別では、「女性の人権」「障がい者の人権」「外国人の人権」「コロナやエイズなどの感染症」「ハンセン病問題」「インターネット上の人権侵害」「性的マイノリティに対する偏見や差別」「震災等の災害起因する偏見や差別」「セクハラやパワハラなど」は、「見やすい」の割合が全体よりも5p以上高い。



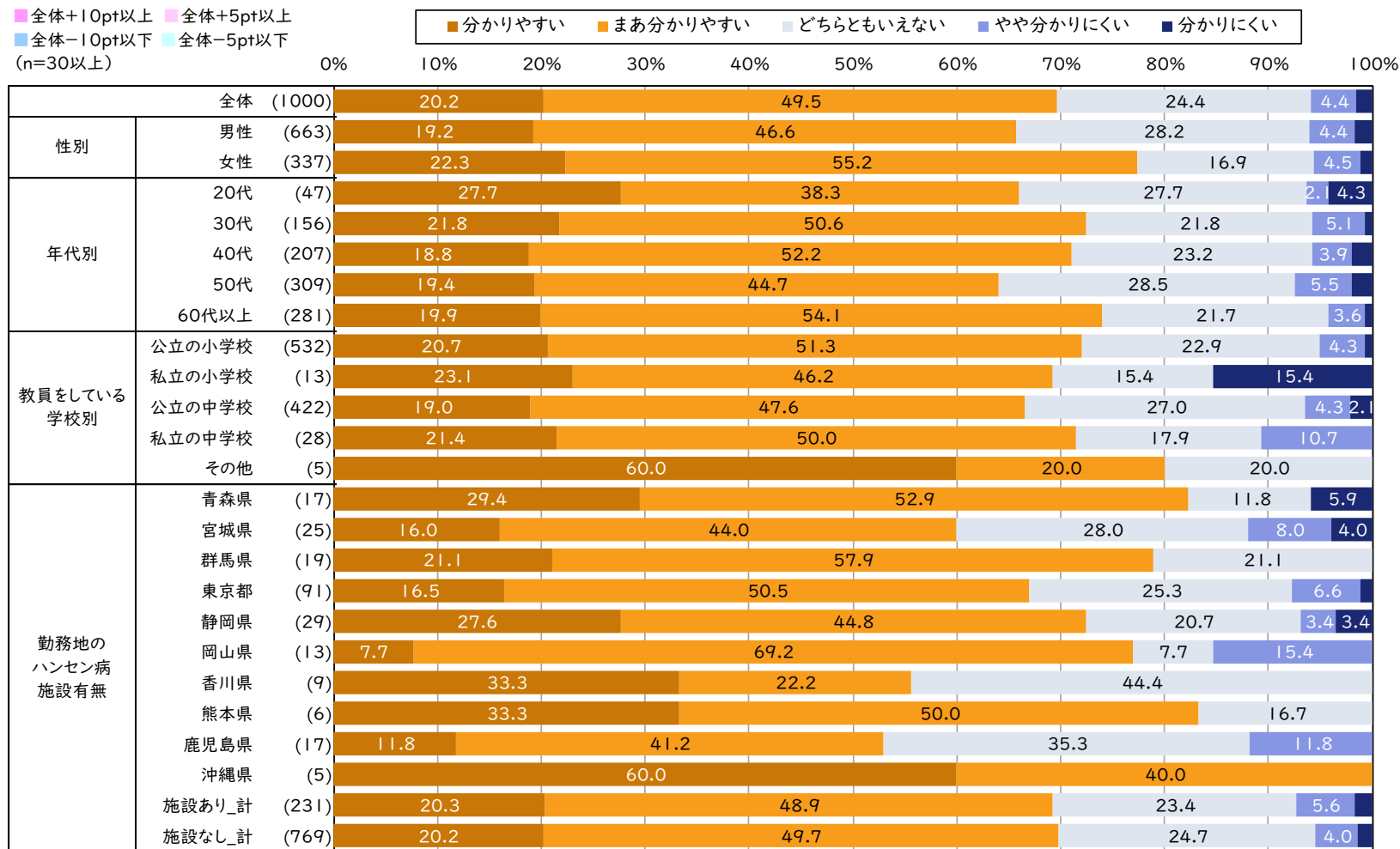
見やすい (計)	見にくい (計)
67.1	8.0
73.2	9.1
74.4	7.2
57.0	9.5
70.5	6.7
61.7	10.0
74.0	6.0
70.8	6.7
70.4	7.1
74.7	5.3
69.7	6.0
75.6	6.4
75.1	6.1
75.2	3.7
76.0	6.7
73.6	7.1
72.1	6.8
75.8	7.0
71.4	4.8
66.7	11.1
45.7	15.2
74.5	12.8
74.3	6.4
72.1	8.8
60.0	20.0
68.7	7.5
64.7	8.8

2%未満の数値ラベルは非表示

ウェブサイトの「内容」の分かりやすさ【属性別】

Q25_2 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「内容」は、分かりやすかったですか。 (SA)

- 性別でみると、「女性」は「分かりやすい」の割合が全体よりも5p以上高い。
- 年代別でみると、「50代」は「分かりやすい」の割合が全体よりも5p低い。



分かりやすい (計)	分かりにくい (計)
69.7	5.9
65.8	6.0
77.4	5.6
66.0	6.4
72.4	5.8
71.0	5.8
64.1	7.4
74.0	4.3
72.0	5.1
69.2	15.4
66.6	6.4
71.4	10.7
80.0	-
82.4	5.9
60.0	12.0
78.9	-
67.0	7.7
72.4	6.9
76.9	15.4
55.6	-
83.3	-
52.9	11.8
100.0	-
69.3	7.4
69.8	5.5

2%未満の数値ラベルは非表示

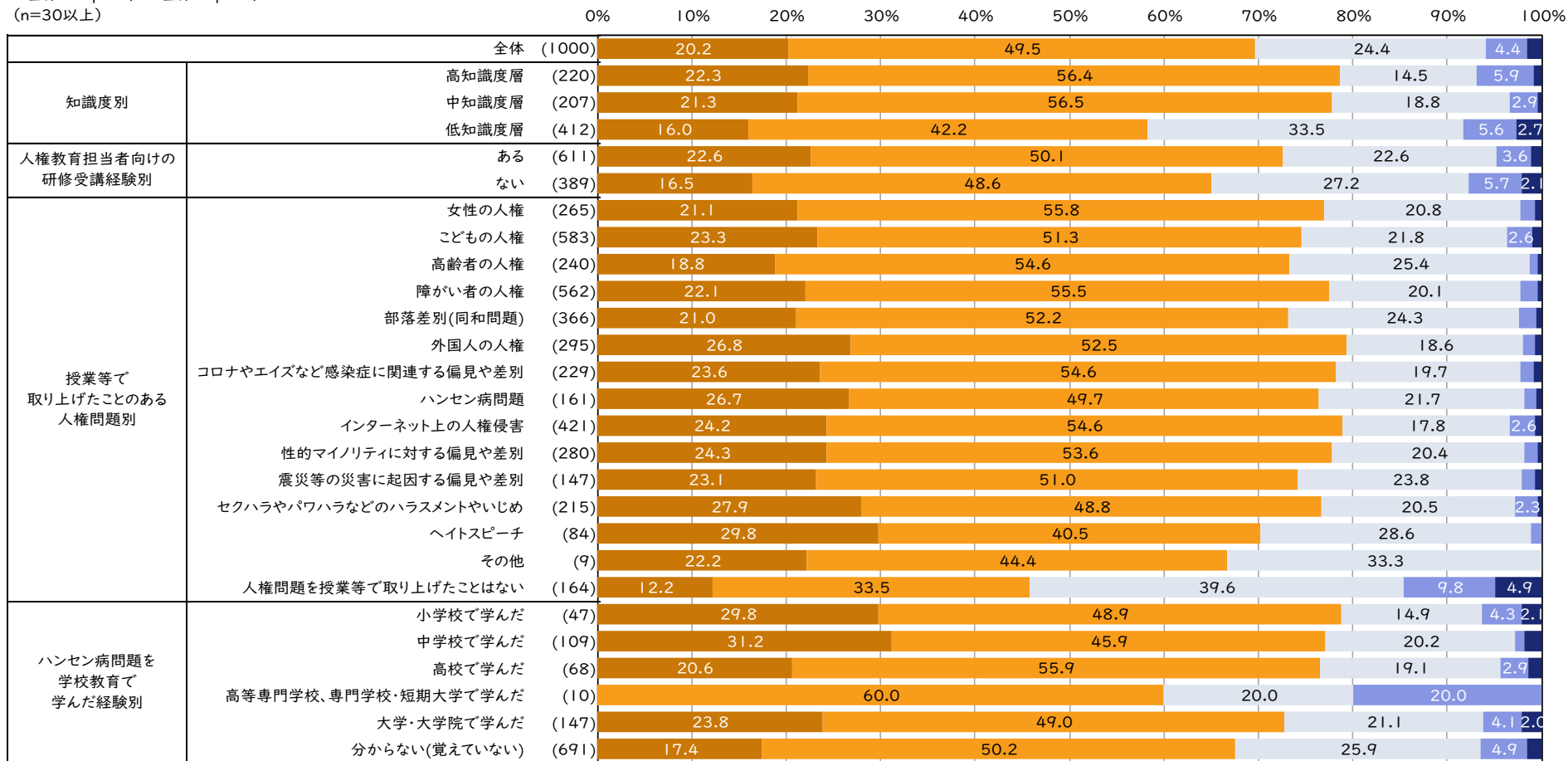
ウェブサイトの「内容」の分かりやすさ【セグメント別】Q25_2×知識度、Q5、Q9、Q18

Q25_2 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「内容」は、分かりやすかったですか。 (SA)

- ハンセン病問題に関する知識度別では、「分かりやすい」は「高知識度層」「中知識度層」で全体よりも5p以上高く、「低知識度層」で5p以上低い。
- 研修受講経験別では、「ある」ほうが「ない」よりも「分かりやすい」の割合が7p以上高い。
- 授業等で取り上げたことのある人権分野別では、「女性の人権」「障がい者の人権」「外国人の人権」「コロナやエイズなどの感染症」「ハンセン病問題」「インターネット上の人権侵害」「性的マイノリティに対する偏見や差別」「セクハラやパワハラなど」は、「分かりやすい」の割合が全体よりも5p以上高い。

■ 全体+10pt以上 ■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下 ■ 全体-5pt以下
 (n=30以上)

■ 分かりやすい ■ まあ分かりやすい ■ どちらともいえない ■ やや分かりにくい ■ 分かりにくい



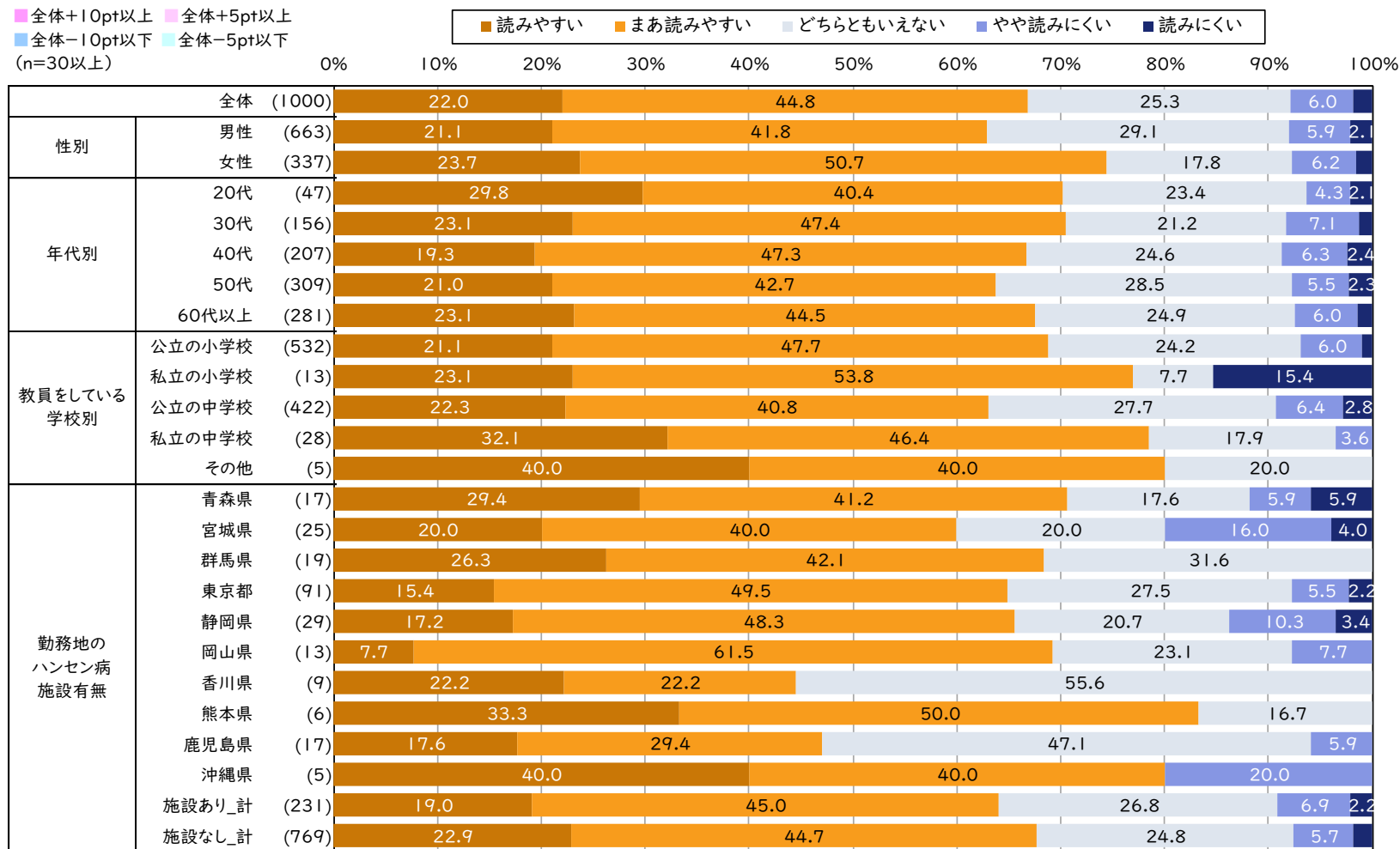
分かりやすい (計)	分かりにくい (計)
69.7	5.9
78.6	6.8
77.8	3.4
58.3	8.3
72.7	4.7
65.0	7.7
77.0	2.3
74.6	3.6
73.3	1.3
77.6	2.3
73.2	2.5
79.3	2.0
78.2	2.2
76.4	1.9
77.9	1.8
74.1	2.0
76.7	2.8
70.2	1.2
66.7	-
45.7	14.6
78.7	6.4
77.1	2.8
76.5	4.4
60.0	20.0
72.8	6.1
67.6	6.5

2%未満の数値ラベルは非表示

ウェブサイトの「文章」の読みやすさ【属性別】

Q25_3 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「文章」は、読みやすかったですか。 (SA)

- 性別でみると、「女性」は「読みやすい」の割合が全体よりも5p以上高い。



読みやすい (計)	読みにくい (計)
66.8	7.9
62.9	8.0
74.5	7.7
70.2	6.4
70.5	8.3
66.7	8.7
63.8	7.8
67.6	7.5
68.8	7.0
76.9	15.4
63.0	9.2
78.6	3.6
80.0	-
70.6	11.8
60.0	20.0
68.4	-
64.8	7.7
65.5	13.8
69.2	7.7
44.4	-
83.3	-
47.1	5.9
80.0	20.0
64.1	9.1
67.6	7.5

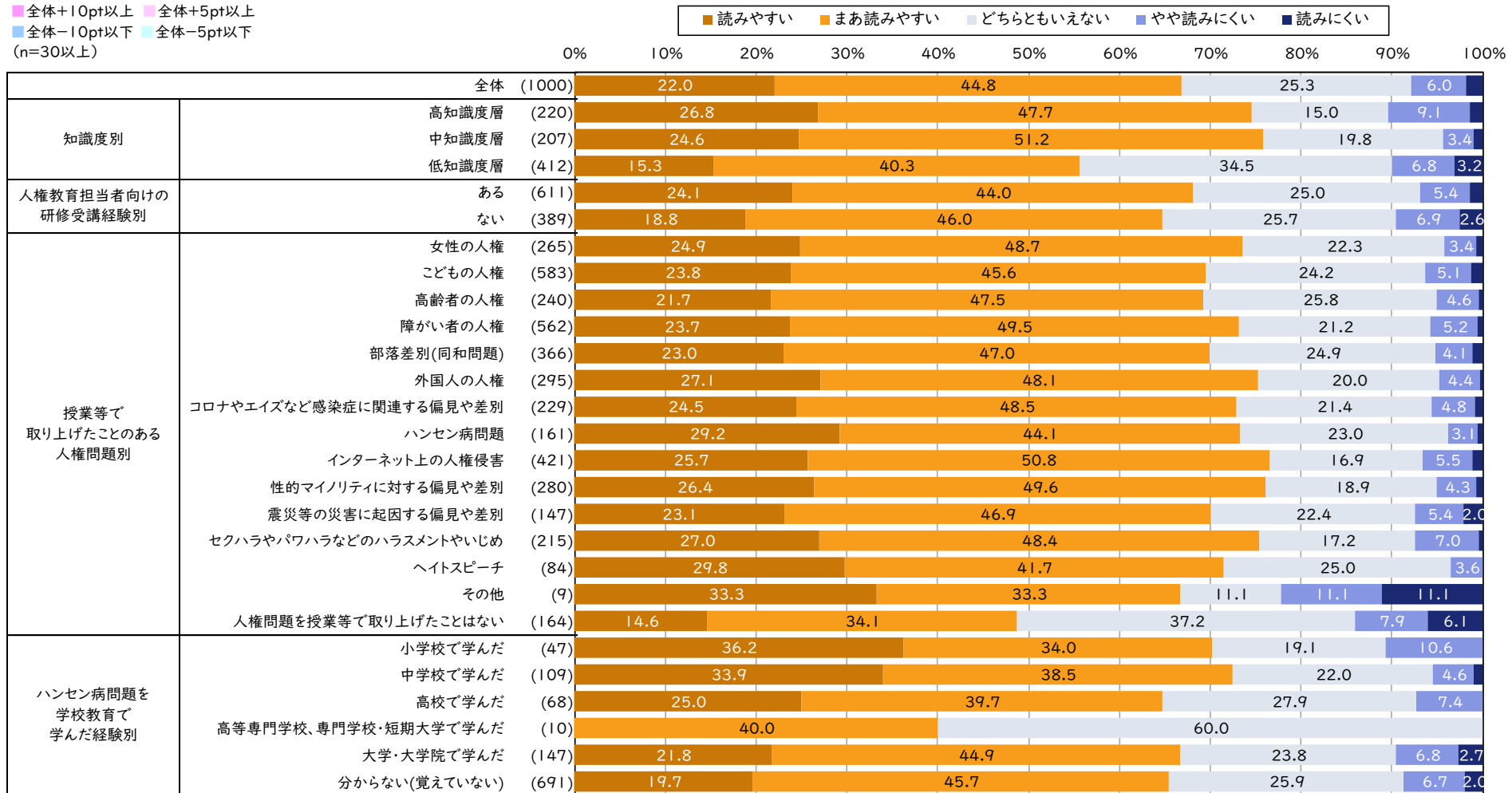
2%未満の数値ラベルは非表示

ウェブサイトの「文章」の読みやすさ【セグメント別】Q25_3×知識度、Q5、Q9、Q18

Q25_3 国立ハンセン病資料館ウェブサイトの「文章」は、読みやすかったですか。 (SA)

- ハンセン病問題に関する知識度別で見ると、「読みやすい」は「高知識度層」「中知識度層」で全体よりも5p以上高い一方、「低知識度層」は全体よりも10p以上低い。
- 授業等で取り上げたことのある人権分野別で見ると、「女性の人権」「障がい者の人権」「外国人の人権」「コロナやエイズなどの感染症」「ハンセン病問題」「インターネット上の人権侵害」「性的マイノリティに対する偏見や差別」「セクハラやパワハラなど」は、「見やすい」の割合が全体よりも5p以上高い。「人権問題を授業で取り上げたことがない」層は、「読みやすい」の割合が全体よりも10p以上低い。

■ 全体+10pt以上 ■ 全体+5pt以上
■ 全体-10pt以下 ■ 全体-5pt以下
 (n=30以上)



読みやすい (計)	読みにくい (計)
66.8	7.9
74.5	10.5
75.8	4.3
55.6	10.0
68.1	6.9
64.8	9.5
73.6	4.2
69.5	6.3
69.2	5.0
73.1	5.7
69.9	5.2
75.3	4.7
72.9	5.7
73.3	3.7
76.5	6.7
76.1	5.0
70.1	7.5
75.3	7.4
71.4	3.6
66.7	22.2
48.8	14.0
70.2	10.6
72.5	5.5
64.7	7.4
40.0	-
66.7	9.5
65.4	8.7

2%未満の数値ラベルは非表示

FAの傾向まとめ

- ハンセン病問題を教える際に困ったことや考えたこと(Q13)
- 国立ハンセン病資料館のウェブサイトの感想・改善点(Q25-4)
- 国立ハンセン病資料館の展示や各種サービスなどについての意見、要望(Q25-5)

ハンセン病問題を教える際に困ったことや考えたこと

Q13 ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたがハンセン病問題を教える際に、困ったことや悩んだこと、感じたことや考えたことなどがありましたら、ご自由にお書きください。(FA)

- 内容が難しく、身近な問題として捉えづらい。教員も知識不足なので、教える前に準備が必要。優れた映像資料があるとやりやすい
- 当事者の生の声を、自分自身は聴くことができるが、その中にある深い思いをどれだけ伝えられるのか
- 教員が正しい知識を持つこと。そのための研修や指導する講師が少ないこと。教材が少ないこと
- 誤った知識や認識が人の人生を左右してしまうことの恐ろしさを痛感した
- 早くしないと、みんな鬼籍にはいってしまう。人ごとから、なかなか自分ごととできない。生徒が昔のこととしてとらえないかどうか
- 病気に対して、デリケートな反応をする生徒がいる場合、どこまで踏み込んで教えるべきか、正解がないので困惑する
- 詳しく知らず、教科書の題材にあったものを指導書通りに実施するのみだった
- 関心の高い生徒はニュースなどで見聞きすることがあっても、身近に捉えにくいいため自分ごととして理解しにくい
- 無知による差別や偏見が、残念ながら多いケースに対する憤り。ハンセン病の学習を通して、正しい判断力や人が幸せに生きていく権利などを感じとらせたい
- 恐怖や誤解を招かないようにすること
- 新型コロナの感染が広がり始めた頃に、感染した方々への偏見などにつながる話なので、同様の差別に対する理解を深めるにはやりやすいタイミングだった
- 子どもたちの身内等に、ハンセン病になった人がいるかもしれないこと。生徒の関係者(親族や親戚など)に該当者がいるのかいないのかがつかめない中、どこまで掘り下げていいのか迷った
- 人権の定義を明確にすれば、学習することに大きな問題はない。難しくしてしまうのは、文科省等が、大切な部分を曖昧にして責任をとらなくてすむようにしていること
- ハンセン病元患者の方々がご高齢のため、お話をきかせてもらうことが難しい。広島や長崎の被爆者、沖縄戦の体験者も同様であり、貴重な体験談をどう語り継いでいくかが大きな課題だと思う

ハンセン病問題を教える際に困ったことや考えたこと

Q13 ハンセン病問題を授業で取り上げたことがあると回答した方にお伺いします。あなたがハンセン病問題を教える際に、困ったことや悩んだこと、感じたことや考えたことなどがありましたら、ご自由にお書きください。(FA)

- 指の変形等が与える恐怖心が偏見に繋がってしまっている点をどのように生徒に理解してもらうかが難しく感じた。実際の写真を見せることにためらいがあった
- 授業したことで 浅い知識からいじめ等に使用する生徒がいないようにすること。詳しく取り上げすぎて、嫌な思いをする人がいないかどうか考えた
- ハンセン病の過ちを、コロナのときに全く生かされてないと思った
- 患者の容姿や偏見、差別の歴史に触れる際、実態の残虐性(ショッキングな事実)に配慮しつつも、児童にどのように伝えたらいいのか指導の難しさを感じた
- ハンセン病問題に限らないが、教えたことで新たな差別が生まれる可能性があることにいつも不安を感じている
- 他人事のような心もちでは人権問題を真摯に考えることは難しく、表面的な建て前を言うだけになりがち。ハンセン病問題についても児童が当事者意識を持って考えて行けるように同じ人としてどうなんだろうと授業を進めた
- 自身に感染経験がなく、周囲にもおらず、身につまされた問題としてとらえにくい面があった。身近でない差別であるため、生徒はピンと来ない。したがって過去の歴史的な捉え方をしてしまう
- 身近な問題とはいえ、生徒に概要を把握させるのに時間がかかり、生徒同士の話し合いで考えを深める時間を確保しにくい
- ハンセン病問題を取り上げるにあたって様々な資料を読んだが、辛いものばかりだった。授業を行ったのはコロナが流行る前。情報を正しく得ること。病気を正しく恐ること。ハンセン病問題を考えたことがある生徒たちは慌てることなく感染症対策と向き合っていたように思う
- デリケートな問題であり、今現在も苦しんでいる人達がいるが、生徒にとってはあまり馴染みがないこと。この事で深く考えさせる授業にすることに苦労した

国立ハンセン病資料館のウェブサイトについての感想・改善点

Q25-4 国立ハンセン病資料館ウェブサイト（SNSを含む）についての印象・感想や改善点、追加してほしい機能やコンテンツなどがございましたら、ご自由にお書きください。

デザイン・色彩についての印象・感想

- 療養者のデザイン画がちょっと暗い感じがした。もう少し明るいイメージにしても良いのではないかと思う。それに対し、青葉のイメージの写真はとても良いと感じた。
- 白を基調としているが、濃い色の部分があり視線が散ってしまい見づらさを感じた。また、文字での説明が多く、強い興味を持った人は読むが、関心の低い人や子供には文字の多さに敬遠されてしまうと思う。
- 青を貴重としたサイトデザインで読もうという気にさせてくれる。元患者さんの証言が充実していると良い。
- 青い色が印象的で、落ち着きがあって見やすいという第一印象でした。内容は文字が細かくあり、詳しい説明があったのですが、初めて見る人にはもっと分かりやすいものが良いなと思いました。
- もう少し青色以外もあると良い。

文字サイズ・レイアウトの印象・改善点

- 文章の割合が大きすぎると感じる。図や写真など一発で分かるような情報の割合をもっと高くしたほうがよいのではないか。文章など詳細で大切な情報にまで踏み込ませるには、図や写真のような、一発で興味を引きつけ問題意識を持たせやすい情報を大きく載せるのが効果的なのではと思う。
- 読みやすい文量でまとめられているのが良いと感じました。小学生向け（言葉の簡素化、ふりがな付等）のリンクがあればありがたいと感じました。
- 文字や写真のないスペースが多すぎて、やや間が抜けている印象を受ける。文字のうち、大切な箇所の文字色を変える、写真を増やすとより見やすく、理解しやすいと感じる。
- 文字が小さいのももう少し大きいと単純に読みやすいと思う。

コンテンツの分かりやすさ、改善点・追加してほしい機能

- 動画が見れるのが良かった。授業は教材探しが大変なので、ちゃんとした資料をすぐ見ることができるとありがたい。
- 当時の写真があり、現実感がありました。どのように差別につながっているかをもう少し詳しく書いてほしいと思いました。
- 症状の写真については、もっとひどい例なども掲載し、そのような状況でも差別を生まないための心構えにつながるようなものにすべき。
- 学校向けの授業モデルが対象年齢別にあるとありがたいです。資料やワークシートも付けてくださると取り組みやすいです。
- スマートフォンのブラウザで見ると、別タブが開くようになっているので、同じタブで各内容が見られると良い。
- 平仮名表記、分かりやすい文章表現など子供向けのコンテンツもあると学習に生かせると思う。

サイト構造・情報の探しやすさについての改善点

- 「かたりベチャンネル」など、啓発力の高いものはトップページにバナー表示してほしい（存在に気づきにくいいため）
- トップページであまり引き込まれないので、興味のない人にとっては次のページまで行きにくいと感じた。
- トップページに施設の写真があったほうが良いように思いました。あと、文章の量に比べて写真など視覚的に理解できるものの掲載が少なかったように思います。動画もあればより良かったのではないのでしょうか。
- 項目ごとに分かれていて、見たいページに飛べるようになっていて良かった

国立ハンセン病資料館の展示や各種サービスなどについての意見、要望

Q25-5 国立ハンセン病資料館の展示や各種サービスなどについて、ご意見やご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

周知・広報活動の強化

- 資料館が近くになく残念だが、WEBで見られる事が分かりありがたい。もっとWEBについてSNS等で広めてほしい。
- 今年は、瀬戸芸で大島となり、多くの来場客が島を訪れた。ハンセン病についてもそこで大きく報道することができたと思う。3年後の会議に向けて、また啓発を高めていければと思う。
- もっと多くの人、国民に知ってもらい、理解を得られるよう、引いては謂れない差別や人権侵害が少しでもこの日本から少なくなることを切に願います。その為の広報活動、啓蒙活動が国レベルで充実して欲しい。
- 学校への出張講座を無料でしてくれるのがいいと思った。知らない人が多いと思うのもっと教員に広まるよう広報に力を入れてほしい。

展示内容・情報発信の工夫

- 詳しい展示がされているなど写真を見て思いました。文字が多すぎると読むことに疲れてしまうので写真や物が多くあるとありがたいと思います。
- 小学生などにも、分かりやすい言葉やイラスト、写真で示してもらえるといいと思う。
- 時代の変化と共に、どのような対応がとられているか等、分かりやすく展示されていて、良いと思った。
- この問題がなぜ日本では放置されてきたのか、その原因分析がないことが残念。責任は一人、一機関だけではない。この問題にそれぞれがどう関わってきたのか、冷静に分析した資料が読みたい。
- 各種サービスの中に入っている「出張講座」が独立して出ていると、講座をお願いできることに気づきやすいと思いました。

教育現場での活用・学習機会の拡充

- 授業で子どもたちに伝えるにあたって、気をつけた方がいい表現や、意識しておいた方がいい背景など、配慮事項も分かると更にありがたいです。
- 教員が知識不足でもすぐ授業で使えるような、準備の負担が少ない教材や資料が充実していると、学校教育で扱いやすいと思う。
- ハンセン病についての発信は、人権問題を考える上では避けて通れないエピソードがたくさん存在します。一方で、そのエピソードを理解することは、現代を生活している子どもたちにとっては難しいことです。だからこそ、子どもたちが理解できる、受け止められるお話を作っていただけると助かります。
- フィールドワークの受け入れや出前授業、オンライン講義などがあると、授業に取り入れやすいと思いました。

アクセス・開催地域の拡大

- もう少しハンセン病自体の認知度を上げる試みが必要だが、社会の中でタブー視されてきた時間は長い分難しさを感じる。またこの資料館をある期間内で国会で特別展示すればいいと思う。清瀬市は遠すぎる。
- 地方でもイベントをやしてほしい。
- トークイベントを多く開催されるとよいと思います。
- アクセスについて最寄駅からのバスが分かりやすいが、バスの時刻表へのリンクがあるとよい。